

—選鑛及團鑛學 實驗第一部				甲、乙ノ内一ヲ選バシム			六
卒業論文							
第三年(第二部)							
必修科目	第一學期	第二學期	第三學期	每週時數	每週時數	每週時數	
鑛山法律	二	二	二	二	二	二	
鑛山衛生	二	二	二	二	二	二	
鑛山工學演習	二	二	二	二	二	二	
電力應用	二	二	二	二	二	二	
電氣機械試驗法	二	二	二	二	二	二	
建築學大意	二	二	二	二	二	二	
工場及原動所設計	二	二	二	二	二	二	
金屬材料	二	二	二	二	二	二	
燃料及耐火材料	二	二	二	二	二	二	
驗熱學	二	二	二	二	二	二	
特別講義	二	二	二	二	二	二	
財政及金融	二	二	二	二	二	二	
鑛床學實習第二部	二	二	二	二	二	二	
電氣工學實驗	二	二	二	二	二	二	
驗熱實驗	二	二	二	二	二	二	
火藥學及其實驗	二	二	二	二	二	二	

計畫及製圖 第三				實地演習 第三			六
選擇科目							
甲	採鑛學實驗第二部	三	三	三	三	三	
乙	應用物理學實驗	三	三	三	三	三	
丙	採鑛學實驗第二部	三	三	三	三	三	
丁	選鑛及團鑛學實驗第一部	三	三	三	三	三	
戊	選鑛及團鑛學實驗第二部	三	三	三	三	三	
己	石油採鑛學實驗	三	三	三	三	三	
庚	甲、乙丙ノ内一ヲ選バシム	三	三	三	三	三	
乙	物理化學	二	二	二	二	二	
卒業論文							
治金學科							
第一年							
必修科目	第一學期	第二學期	第三學期	每週時數	每週時數	每週時數	
數學	三	三	三	三	三	三	
電氣工學大意	二	二	二	二	二	二	
機構學	二	二	二	二	二	二	
熱機關大意	二	二	二	二	二	二	

應用力學				二			三
機械設計及材料				二			二
水力學				四			二
治金學汎論				二			二
物理化學				一			二
工業分析化學				二			二
金屬組織學				一			二
鑛物學岩石學及其實習				二			二
燃料及耐火材料				二			二
驗熱學				二			二
驗熱實驗				二			二
物理學實驗				三			三
製圖				六			六
工業分析化學實驗				六			六
實地演習 第一				九			六
參考科目							
法制大意 第一							
經濟學總論							

第二年				第一學期			第二學期			第三學期		
必修科目												
鐵冶金學 第一				三			三			三		
電氣冶金學				二			二			二		
合金學				三			三			三		
治金機械學				二			二			二		
製造冶金學				二			二			二		
電氣冶金學實驗				一			一			一		
工業分析化學實驗				一			一			一		
實驗機械工學講義				一			一			一		
同上演習 第一				一			一			一		
實地演習 第二				三			三			三		
選擇科目												
治金學 第一				二			二			二		
治金學 第二				二			二			二		
材料運搬				三			三			三		
試金實習				三			三			三		
鐵試金實習				三			三			三		
製圖				七			七			七		
機械工作作法				二			二			二		
治金學 第一				二			二			二		

アルヘシ

第四條 論文試験ハ論文計畫若クハ實驗報告ニ就キテ隨時之ヲ行フ
論文試験ヲ受クントスル者ハ受験期間ヲ通算シテ尠ク共三學年在學
スルコトヲ要ス

第五條 試験ノ成績ハ甲乙丙ノ三級ニ別チ丙ヲ不合格トス

前項ノ成績ハ受持教員ノ報告ニ基キ教授會ニ於テ之レヲ決定ス

第六條 各學科所定ノ必修科目選擇科目并ニ論文ノ試験ニ合格セル者
ヲ以テ卒業者トス

第七條 在學六學年ヲ超エ卒業セサル者ハ退學シタル者トス
但シ休學ヲ許可シタル學年ハ之ヲ算入セス

第四 入學規程細則

第一條 工學部入學志望者ハ入學願書ニ第一第二第三志望學科ヲ記入
シ毎年二月十五日マテニ出身學校ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第二條 選抜試験ノ結果第一志望學科ニ入學シ得サリシ者ハ第二第三
志望科ニ缺員アル場合ニ限り順次入學セシム

第三條 入學ヲ許可セラレタル者ノ姓名ハ三月二十五日前後ノ官報ニ
揭示ス

第四條 身體検査及選抜試験ノ日割等ハ豫メ本學部内ニ揭示シ且官報
ヲ以テ公告ス

附 則

第五條 本規程ハ大正十一年一月ヨリ施行ス

第五 實習規程及學生實習心得

實習規程

第一條 實習ハ學生ヲシテ實地ノ業ヲ執リ或ハ實地工業上ノ視察ヲ爲
サシメ以テ學理應用ノ智識ヲ養成スルヲ目的トス

第二條 實習ハ本學内又ハ他所ニ於テ從事セシム

第三條 實習ノ期ハ主任教授ノ具申ニ依リ學部長之ヲ定ム

第四條 實習ノ事項ハ總テ受持教員又ハ主任教授ニ於テ指導スルモノ
トス但他出實習ニ於テ教員同行セサルトキハ豫メ實習ノ事項ヲ記シ
テ學生ニ交付スヘシ

第十三章

工學部 實習規程及學生實習心得

- 第五條 實習事業ニ關スル細目ハ各主任教授ニ於テ之ヲ定ム
 - 第六條 實習學生ノ監督ハ主任教授ヲシテ之ニ任セシム但受持教員又ハ特ニ設ケタル監督者ヲシテ之ニ任セシムルコトアルヘシ
 - 第七條 實習學生ヲシテ指定ノ期日以内ニ其他出實習ノ事項ニ就キ報告書ヲ調製シテ受持教員又ハ主任教授ニ出サシムヘシ但教員同行スルトキハ之ヲ出サシメサルコトヲ得
 - 第八條 實習ノ成績ヲ知ラシムカ爲メ特ニ試験ヲ施スコトアルヘシ
 - 第九條 學生疾病又ハ止ムヲ得サル事故アリテ一定ノ實習期間ニ於テ其實習ニ従事スル能ハサルトキハ之ヲ補充セシムル爲メ卒業期日ヲ延期スルコトアルヘシ
- 學生實習心得
- 第一條 學生ノ實習スヘキ事項ハ總テ受持教員ノ指導ヲ受クヘシ但他出實習ニ於テ受持教員同行セサルトキハ豫メ主任教授ニ就キ其指揮ヲ受クヘシ
 - 第二條 實習學生ハ監督教員又ハ特ニ設ケラレタル監督者ノ指揮監督

- 第三條 學生ハ豫メ指定セラレタル期日以内ニ其實習セシ事項ヲ主任教授ニ詳細報告スヘシ又見取圖手帳類等ハ必ス主任教授ノ檢閲ヲ經ヘシ
- 第四條 實習ノ爲メ旅行スルトキハ受持教員又ハ主任教授ノ指定以外ノ地ニ滞在スヘカラス但疾病天災其他ノ事故ニ由リ止ムヲ得ス指定以外ノ地ニ滞在スルトキハ醫員ノ診斷書又ハ市町村役場ノ證明書ヲ持參スヘシ
- 第五條 實習地ニ到着シタルトキ及宿所ヲ變更シタルトキハ直ニ監督教員又ハ監督者及工學部長ニ其宿所ヲ届出ヘシ
- 第六條 學生疾病又ハ止ムヲ得サル事故アリテ實習ニ従事スル能ハサルトキハ必ス出場時間前ニ其旨ヲ監督教員又ハ監督者ニ申出ヘシ但全期ノ三分ノ一以上引續キ實習ニ従事スル能ハサルトキハ其事由ヲ具シ監督教員又ハ監督者ヲ經テ工學部長ニ届出ヘシ
- 第七條 實習中ハ本學部内ト他所トヲ問ハス必ス制服制帽ヲ着用スヘシ

第八條 實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セントスル者アルトキハ其事由ヲ工學部長ニ具申シ認可ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ受領スルヲ得ス

第九條 實習ニ關シテハ自己ノ意見ヲ以テ指定ノ事項ヲ變更スルヲ得ス若シ止ムヲ得ス之ヲ變更セントスルトキハ其旨ヲ主任教授ニ申出テ更ニ其指揮ヲ乞フヘシ

第十條 實習用トシテ本學部備付ノ器具器械ヲ本學部外ニ携帯スルノ必要アルトキハ書面ヲ以テ主任教授ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ携帶品中破損紛失等アルトキハ其情狀ニ由リ修補又ハ辨償セシムルコトアルヘシ

第六條 實驗室ニ於テハ主任教授ヲシテ之ヲ管理セシム即チ機械工學實驗室ニ於テハ主ラ學生ヲシテ學理ヲ應用シ工學上ノ實驗ヲ爲サシメ併セテ諸機關ノ取扱方及諸工具ノ使用法ヲ知得セシメ傍ラ東京帝國大學構内ノ電燈其他ノ事業ニ關シ其需用ニ應ス故ニ實驗室内ニ

ハ蒸汽罐トシテハ「コルニシ」形蒸汽罐「バアブ」コック「水管式」蒸汽罐等數種ヲ据付ク原動機トシテハ各種ノ蒸汽機關ヲ始メ「蒸汽」トアル「ピン」瓦斯機關、石油機關、熱氣機關等ノ諸機關ヲ備フ又「インヂカトル」廻轉計、稼ギ計、高溫計、燃燒記錄器等ノ實驗用諸機械ヲ具備ス其ノ他發電機、飽盤、盤、錐盤、削盤、みり盤及各種ノ旋盤ヨリ鑄鑿等ノ諸工具ヲ具備シ且木型場、鍛冶場ヲ設ケ學生ノ考案計畫ニ基キ模型若クハ機械ノ一部分ヲ製作シ以テ之ヲ標本トシ或ハ實用ニ供セシム又別ニ材料強弱實驗室、水力實驗室、鑄物場、物理實驗室ヲ設ケ材料強弱實驗室内ニハ「バック」トシ「式」五十噸試驗機械、井口式ねぢり試驗機械等各種ノ材料強弱試驗機ヲ始メ精密伸縮計及其他ノひずみ計ヲ備ヘ諸種ノ材料ニ就キ試驗ヲ行ヒ其強弱彈性ヲ實驗セシメ、水力實驗室内ニハ水槽及各種ノ「ポンプ」ヲ据付ケ水ノ噴出「ポンプ」ノ試驗等主トシテ水力學ニ關スル試驗ヲ行ハシムルト共ニ空氣壓縮機ヲ設ケ壓縮空氣ニ關スル實驗ヲナサシメ鑄物場ニ於テハ學生ヲシテ鑄型ノ製作ヲ修得セシム、又物理實驗室ニ於テハ一般物理學ニ關スル實驗ヲ行ハシムル爲メ長さ、面積、重量、溫度、氣壓、濕度、比重等ノ測定器力ノ鈞リ

合ヒ裝置偶力實驗裝置彈性歪ミ實驗裝置「シヨリ」ばね秤、望遠鏡、光線屈折試驗器、熱ノ傳導實驗裝置「レツドウ」ねばさけ等ヲ備ヘリ、船舶工學科實驗室ニハ水槽ヲ据付ケ船舶動搖ニ關スル各種ノ試驗ヲ行ヒ其他測定用器具ヲ備ヘ教員及學生實驗ノ用ニ供ス造兵學實驗室ニ於テハ專ラ小銃大砲、彈丸及水雷ニ就テ各種ノ實驗研究ヲ爲シ又同時ニ學生ニ對シテハ造兵學ニ關スル實驗測定法ヲ教授スル爲メ諸般ノ設備ヲ有ス即チ第一號室ハ全部暗室ノ裝置アリテ小銃ニ關スル各種ノ實驗ヲナシ又電氣放電瞬間寫真其他光杆ヲ應用スル實驗ニ備ヘ強力ナル「インフルエンス、マシ」ヲ有ス

第二號室ハ小形ノ「タンク」及高壓空氣壓縮機等ヲ据付ケ魚雷ニ關スル各種試驗及布設水雷ニ關スル實驗研究ニ供ス、第三號室ハ各種小研究ヲナス特別室ニシテ器具類ノ格納庫ヲ兼ネ第四號室ニハ彈性力學ニ關スル一二ノ研究裝置ヲ有シ且ツ實驗用器具ノ製作修繕用ノ「鋸盤、ボール」盤等ヲ設備ス尙物理實驗ニ於テハ物理學一般ニ涉ル基礎的實驗及ヒ研究ヲ行ハシムル爲メ物性、力、熱、光、音響、磁氣、電氣ニ關スル實驗室ヲ設ケ、裝置ト

シテハ球計、測微計、光杆、顯微鏡、望遠鏡、カセトメター、「プラニメター」、「バイデング、ニンゲン」天秤、比重測定裝置、各種粘性率測定器、氣壓計、濕度計、彈性率測定裝置、剛性率測定裝置、熱傳導測定裝置、膨脹測定裝置、空氣寒暖計、カレンダ「熱當量測定器、熱電對電熱測定器、屈折計、偏光計、檢糖計、「ヂヤマン」干涉計、分光器、光度計、輻射計、電磁石附音叉、「バイプログラフ」共鳴管、「ホキート」ストーン、「ブリツヂ」、「コイル」、「ラウシユ」、「ブリツヂ」、「ミリ」ボルト、「メター」、「正弦電流計」、「バリ」ステック、電流計、「ポテンシヨメター」、電磁石、感應コイル、電磁コイル、磁力計、感應起電機等ヲ備フ、電氣工學實驗室ニハ各種ノ電流計並測定器ヲ備ヘ學生ヲシテ電氣磁器ニ關スル測定ヲ爲サシム又電氣ニ關スル標準器室アリテ計器ノ檢定ヲナス設備アリ尙電動發電機、瓦斯機關發電機、蒸汽機關發電機、蓄電池、直流發電機並電動機、交流發電機並電動機、廻轉變流機、變壓器特別高壓試驗用變壓器、無線電信及電話裝置、高周波交流發電機等アリテ學生ヲシテ各種發電機、電動機、變壓器其他特別高壓ニ關スル試驗ヲナサシム、又應用化學實驗室ニ於テハ石油、土瀝青、芳香油、油脂、瓦斯、石炭、染料、セメント、糖類、纖維素、酸酵製品、電氣化學等ニ關スル諸

機械諸裝置其他分析器具機械ヲ具備シタリシが大正十一年十月八日ノ
 火災及ビ大正十二年九月一日ノ震火災ニ依テ殆ド其ノ全部ヲ燒失又ハ
 破壊シタリ然レドモ漸次此等ヲ復興シツ、アリ、又採鑛實驗室ニ於テハ
 採鑛學、選鑛學、鑛物學ノ諸科ニ關シ各特設ノ裝置アリ、採鑛學ニ關シテハ
 安全燈試驗裝置、通風測定裝置、瓦斯爆發實驗裝置等アリ、採鑛學實驗ノ
 用ニ供ス選鑛學ニ關シテハ「ブレイキ」式小形碎鑛器「ハーデン」式小形碎
 鑛器磁力選鑛器、分級篩等アリ、以テ選鑛學實驗ノ用ニ供ス鑛物學ニ關シ
 テハ顯微鏡及吹管分析用ノ器具ヲ備ヘ、又小形岩石切斷兼同研磨器ヲ備
 ヘ、學生ヲシテ單一ナル試驗ニヨリ鑛物識別ノ方法ヲ學修セシム、冶金學
 實驗室ニ於テハ冶金學、鐵冶金學、電氣冶金學、製造冶金學及合金學、金屬組
 織學、試金術、燃料及驗熱學ノ諸科ニ關シ各特設ノ裝置アリ、即チ冶金學ニ
 關シテハ金銀鑛、青化裝置、鑛石焙燒爐、鑛石製煉爐、其他乾式及濕式冶金術
 ニ關スル諸裝置、鐵冶金學ニハ鐵鑛還元裝置、鑛石試驗裝置、其他鐵及鋼
 ノ處理ニ要スル諸裝置、氣電冶金學ニ於テハ金屬濕式電解並ニ乾式電解
 裝置、各種電氣爐、及ビ之ニ必要ナル諸設備製造冶金及合金學ニ在リテハ

金屬熔解爐ヲ初メ鑄造加工ニ要スル諸裝置並ニ金屬ノ物理的及ヒ機械
 的性質ノ試驗ニ要スル諸設備、金屬組織學ニハ大小各種ノ顯微鏡及寫真
 設備等アリ、又試金術、燃料及驗熱ニ於テハ乾式試金用マツフル爐、瓦斯坩
 堝爐、濕式試金設備、瓦斯分析裝置並ニ各種ノ測熱計ヲ備ヘ、以テ學理及實
 地ノ研究ヲ爲スヲ得ベシ、第七列品室

- 本學部ニ左ノ列品室ヲ設ケ講義ノ説明及計畫製圖ノ參考其他實驗ノ用
 ニ供スル爲メ諸學科須要ノ標本模型並器械ヲ整備シ各主任教授ヲシテ
 之ヲ保管セシム
- 一 土木工學列品室
 - 二 機械工學列品室
 - 三 船舶工學列品室
 - 四 造兵學列品室
 - 五 電氣工學列品室
 - 六 建築學列品室

七 應用化學列品室

八 火藥學列品室

九 採鑛學冶金學列品室

各室陳列スル所ノ諸品ノ概數ヲ舉クレハ土木工學列品室ニハ鐵道、橋梁、運河、港灣、水道、下水等ニ關スル標本模型百六十八點アリ、機械工學列品室ニハ機械工學ニ關スル諸種ノ機械、蒸汽罐、蒸汽機關及他ノ發動機ノ模型、強弱ヲ試驗シタル工業材料ノ標本、工具類、機械運動裝置等千八百三十四點アリ、船舶工學列品室ニハ艦船構造模型、艦船寫真及艙裝品等二百二十點アリ、造兵學列品室ニハ造兵學ニ關スル各種ノ模型、標本等百七十二點アリ、電氣工學列品室ニハ電信、電話、電燈、電氣鐵道、電力傳送、電力及一般ノ物理學ニ關スル各種ノ模型、標本並器械類二千二百九十四點アリ、建築學列品室ニハ内外家屋及耐震家屋ノ模型並建築諸式ノ標本、其他畫學用模型及臨本等一萬參千七百七拾八點アリ、應用化學列品室ニハ應用化學ニ關スル諸機械模型各種原料並製產品等ノ標本五千七十餘點ヲ有シタリ、シガ大正十一年十月八日ノ火災ニ依テ全部烏有ニ歸シ目下之レガ回復

ニ努力シツ、アリ、火藥學列品室ニハ火藥、煙火及其原料ニ關スル標本模型等五百五十餘點アリ、採鑛學列品室ニハ鑛物、地質、室床、採鑛並選鑛ノ諸科ニ關スル模型、標本並器具等約一萬五千餘點アリ、冶金學列品室ニハ冶金ノ諸科ニ關スル模型、標本並器械器具一千五百八十餘點アリ

○第十四章 文學部

第一 職員(同職中ノ氏名ハ就職ノ順ニ掲ク)

學部長

教授文學博士文學士

三上 參次

東京

教授及教師

國語學國文學第一講座擔任

文學博士文學士

上田 萬年

東京

國史學第一講座擔任

文學博士文學士

三上 參次

東京

マストル、オフ、アーツ、ドクトル、オフ、レタリス(オックスフォード大學) マギストル、アルチャム、ボナールム、ドクトル、フィロソフィエー(ライプツヒ大學)

梵語學梵文學講座擔任

文學博士

高楠 順次郎

兵庫

美學美術史第一講座擔任

文學博士文學士

大塚 保治

東京

支那哲學支那文學第一講座擔任

文學博士文學士

服部 宇之吉

東京

ドクトル、オフ、ローズ(カリフォルニア大學) ドクトル、オノレル(ストラスブール大學)

宗教學宗教史講座擔任

文學博士文學士

姉崎 正治

京都

オノラリ、メンバト、オフ、キシワ、バラテ(サントニケタン)

東洋史學第二講座擔任

文學博士文學士

白鳥 庫吉

東京

東洋史學第一講座擔任

文學博士

市村 環次郎

茨城

言語學講座擔任

文學博士文學士

藤岡 勝二

東京

西洋史學第二講座擔任

文學博士文學士

村川 堅固

熊本

ドクトル、オフ、フィロソフィー(エール大學)

心理學講座擔任

文學博士文學士

松本 亦太郎

群馬

美學美術史第二講座擔任

文學博士文學士

瀧 精一

東京

哲學哲學史第一講座擔任

文學博士文學士

桑木 嚴翼

東京

獨逸語學獨逸文學講座擔任

文學博士文學士

上田 整次

北海道

教育學第一講座擔任

文學博士文學士

吉田 熊次

山形

倫理學講座擔任

文學博士文學士

吉田 靜致

長野

國史學第三講座擔任

文學博士文學士

黑板 勝美

長崎

教育學第二講座擔任

文學博士文學士

林 博太郎

東京

支那哲學支那文學第三講座擔任

文學博士文學士

宇野 哲人

熊本

教育學第三講座擔任

文學博士文學士

春山 作樹

兵庫

支那哲學支那文學第二講座分擔

文學博士文學士

鹽谷 溫

東京

○第十四章 文學部 職員

アイン語學 文學士 金田一京助 岩手
 哲學 文學博士 得能文 富山
 英吉利語學 文學士 千葉勉 宮城
神道講座分擔 文學博士 宮地直一 高知
 印度哲學第二講座分擔 澤木四方吉 秋田
 梵語學 文學博士 島地大等 岩手
 社會學(在外研究中) 文學博士 長井真琴 福井
 國文學 文學士 藤田喜作 新潟
 佛蘭西語學 文學士 沼波武夫 愛知
リサンシエー、エス、レットトル(プザンソン大學) 文學士 豐島與志雄 福岡
ドクトル、アン、テオロジ(フリプール大學) アンリ、アムベルクロード
 佛蘭西語學 佛蘭西語學 文學士 鈴木信太郎 埼玉
 佛蘭西語學 文學士 竹下清松 東京
 統計學 文學士 巴シユリエ、エス、レットトル(プザンソン、エークス大學)

佛蘭西語學 東京帝國大學文學部 文學博士 文學士 渡邊世祐 山口
 國史學 文學士 和田清 神奈川
 東洋史學 文學士 佐野勝也 熊本
 宗教學 文學士 久松潜一 愛知
 國文學 文學士 大西克禮 愛媛
 美學 文學士 荒木茂 福井
マストル、オフ、アーツ(コロムビア大學) 文學士 新關良三 山形
 波斯語學 波斯文學 文學士 上村福幸 熊本
 獨逸文學 文學士 栗田三吾 東京
 教育學 文學士 伊藤吉之助 福井
 伊太利語 文學士 平泉澄 山形
 國史學第二講座分擔 文學士 伊藤吉之助 山形
 哲學哲學史第二講座分擔 文學士 綿貫哲雄 群馬
 社會學 文學士 宮本正尊 新潟
 印度哲學(在外研究中) 文學士 宮本正尊 新潟

西洋美術史
英吉利語學
國文學
世界現代史
朝鮮語學
印度哲學

文學士 團 伊能 東京
文學士 澤村寅二郎 京都
文學士 高木市之助 愛知
文學士 淺野利三郎 岐阜
文學士 本田 存 東京
文學士 干潟龍祥 福井

史料編纂官

事務主任

文學博士文學士 辻 善之助 東京
文學博士文學士 村上直次郎 大分
文學博士 和田英松 東京
文學士 中村勝麻呂 滋賀
文學博士文學士 渡邊世祐 山口
文學博士 八代國治 東京
文學士 龍 肅 静岡

東京帝國大學名譽教師

元文科大學教師 バシル、ホール、チエムバレン 英國
元文學部教師 エミル、エツク 佛國
元文科大學教師文學博士 カール、アドルフ、フロレンツ 獨國

第二 文學部規程

第一條 本學部ニ左ノ學科ヲ設ク

國文學、國史學、支那哲學、支那文學、東洋史學、西洋史學、哲學、印度哲學、心理學、倫理學、宗敎學、宗敎史、社會學、教育學、美學、美術史、言語學、梵文學、英吉利文學、獨逸文學、佛蘭西文學

第二條 學生ハ在學第二年ノ始メマテニ其ノ學修セントスル學科名ヲ届出ツヘシ但シ英吉利文學、獨逸文學、佛蘭西文學ヲ專修セント欲スル

モノハ入學ノ際其ノ旨申出ツヘシ

第三條 學生ハ在學中別表第一ニ依リ所屬學科ノ授業科目ヲ修了スルヲ要シ其ノ他任意ニ本學部ニ於ケル授業科目ヲ學修スルコトヲ得他

第四條 一授業科目一學年毎週約三時間ヲ以テ授業ノ一單位トス

但シ毎週四時間以上ノモノハ之ヲ二單位トナスコトアルヘシ
同一學年ニ於ケル二種ノ講義ヲ合セテ授業ノ單位トナスコトアル
ヘシ

第五條 學生ハ每學年五單位以上ノ授業科目ヲ學修スヘシ

第六條 學生ハ授業科目ノ外ニ外國語ヲ修ムヘシ

外國語學修課程ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 授業科目及講義題目ハ每學年ノ始ニ之ヲ揭示ス

第四條第二項ノ場合ニハ二種ノ講義題目ヲ并ヘテ之ヲ揭示ス

第八條 授業科目及外國語ノ修了ハ試験ニ依リ之ヲ證明ス

第九條 授業科目ノ修了試験ハ三月十一日ヨリ之ヲ行フ但シ學年ノ中
途ニ於テ完結スル講義ニアリテハ隨時之ヲ行フコトヲ得

第十條 左ノ二項ニ該當スルヲ以テ卒業資格トス

- 一 別表第一各學科所定ノ科目單位數ヲ合セテ授業科目十八單位
以上及外國語ヲ修了スルコト
- 二 三學年在學シ卒業試験ニ合格スルコト

第十一條 卒業試験ハ論文試験及口述試験トス但シ口述試験ハ場合ニ
依リテ之ヲ省略スルコトアルヘシ

第十二條 論文ノ題目ハ豫メ當該學科教員ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第十三條 論文ハ一月三十一日マテニ之ヲ學部長ニ提出スヘシ

第十四條 論文試験ニ合格シタル者修了試験又ハ口述試験ニ缺席シタ
ル場合ニハ當該科目試験施行以前ニ願出タル者ニ限り教授會ノ議ヲ
經テ特別試験ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條 修了試験及卒業試験成績ハ甲、乙、丙、丁ノ四等トシ丙以上ヲ合
格トス

第十六條 卒業ノ後教員無試験檢定ヲ得ントスルモノハ其ノ志望ニ應
ジ在學中第十條第一項所定ノ授業科目ニ別表第二若クハ第三ノ科目
ヲ含メテ修了スヘシ

第十七條 在學六學年ニ及ヒ卒業セサルモノハ退學シタルモノトス但
シ休學シタル學年ハ之ヲ算入セス

別表第一

○第十四章 文學部 規程

學科	科目	單位數
國文學	國文	三
國史	國史	四
支那哲學	支那哲學	四
支那文學	支那文學	五
東洋史	東洋史	四
西洋史	西洋史	三
哲學	哲學	三
印度哲學	印度哲學	三
心理學	心理學	三
倫理學	倫理學	三
宗教學	宗教學	三
社會學	社會學	三

檢定科目	修了科目及單位數
佛蘭西文學	佛蘭西文學 九
獨逸文學	獨逸文學 九
英吉利文學	英吉利文學 九
梵文	梵文 三
言語學	言語學 三
美術史	美術史 三
教育學	教育學 三

別表第二(中學校師範學校高等女學校教員無試驗檢定ニ關スル分)

修身	教育
倫理學概論(1) 教育學概論(1) 倫理學(東洋西洋)(1) 社會學概論(1) 哲學概論(1)	教育學概論(1) 倫理學概論(1) 倫理學概論(1) 各科教授論(1) 社會學概論(1) 教育行政(1)

國語及文	國語學、國文學、支那哲學、支那文學(一〇)、言語學概論(一)、教育學概論(一)
歷史	國史概論、東洋史概論、西洋史概論、國史學、東洋史學、西洋史學(一三) 教育學概論(一)、教育史概論(一)
英語	(甲)英吉利語學、英吉利文學(七)、言語學概論(一)、教育學概論(一)、教育史概論(一) (乙)高等學校ニ於テ第一外國語トシテ履修シ更ニ本學部ニ於テ外國語學修課程ヲ修了シ且ツ教育學概論、教育史概論各一單位ヲ修了シタルモノ
獨逸語	(甲)獨逸語學、獨逸文學(七)、言語學概論(一)、教育學概論(一)、教育史概論(一) (乙)同前
佛蘭西語	(甲)佛蘭西語學、佛蘭西文學(七)、言語學概論(一)、教育學概論(一)、教育史概論(一) (乙)同前
別表第三(高等學校教員無試驗檢定ニ關スル分)	
檢定科目	修了科目及單位數
修身	倫理學概論(一)、倫理學(東洋及西洋)(三)、支那哲學(一)、印度哲學又ハ宗教學(一)、社會學概論(一)、哲學(一)、教育學(一)
國語	國語學、國文學(九)、支那哲學、支那文學(三)、教育學(二)
漢文	支那哲學、支那文學(九)、國語學、國文學(三)、教育學(二)
英語	英吉利語學、英吉利文學(九)、言語學概論(一)、教育學(二)
佛蘭西語	佛蘭西語學、佛蘭西文學(九)、言語學概論(一)、教育學(二)

獨逸語	獨逸語學、獨逸文學(九)、言語學概論(一)、教育學(二)
日本史及東洋史	史學概論、國史概論、東洋史概論、西洋史概論、國史學、東洋史學(一五)、教育學(二)
西洋史	史學概論、西洋史概論、西洋史學、國史概論、東洋史概論、東洋史學(一三)、教育學(二)
哲學概說	哲學概論(一)、東洋哲學史概論(一)、支那哲學(一)、印度哲學(一)、西洋哲學史概論(一)、倫理學概論(一)、社會學概論(一)、宗教學概論(一)、教育學(二)
心理及論理	心理學概論(一)、心理學(二)、論理學(一)、哲學概論(一)、哲學(二)、倫理學概論(一)、社會學概論(一)、教育學(二)

外國語學修課程

第一條 文學部規程第六條ニ據ル外國語ハ英吉利語、獨逸語、佛蘭西語ノ三種トナス

第二條 英吉利文學ヲ學修スルモノハ獨逸語、佛蘭西語ノ中一種獨逸文學ヲ學修スルモノハ英吉利語、佛蘭西語ノ中一種佛蘭西文學ヲ學修スルモノハ英吉利語、獨逸語ノ中一種其ノ他ノ學科ヲ學修スルモノハ英吉利語、獨逸語、佛蘭西語ノ中一種ヲ選定シ學修ノ始ニ於テ之ヲ届出ツヘシ

第三條 學修期間ヲ前期後期ニ分チ各一學年トス

第四條 學修科目及時間數ハ每期ノ始ニ於テ之ヲ揭示ス

第五條 修了試験ハ每期ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第六條 毎年五月特別試験ヲ行ヒ其ノ成績ニ依リ一期若クハ兩期ノ外國語ヲ修了シタルモノト認定スルコトアルヘシ

附則

第一條 本規程ハ大正十年四月ヨリ之ヲ施行ス

第二條 元文科大學學科及授業規定又ハ舊文學部規程ニ依リテ修了シタル一單位ハ本規定ノ一單位ト認ム但シ元文科大學學科及授業規程ニ依リテ修了シタル二單位ハ教授會ノ決議ニ依リ二單位ト認ムルコトアルヘシ

第三條 元文科大學試驗規程ニ依ル成績評點ハ之ヲ本規程ノ甲、乙、丙、丁ニ改ム

第四條 本規程施行ノ際在學五年以上ニ及ヘルモノハ尙二學年間に學スルコトヲ得

第三 史料編纂掛

本掛ノ事業ハ明治二年四月四日勅語ヲ三條太政大臣ニ賜ヒ修史ノ業ヲ興スヘキ旨ヲ宜ハセラレタルニ濫觴ス其後數々官制ノ沿革アリ二十一年內閣修史局ヲ廢セラレ其著手ノ修史事業ヲ本學ニ屬セララルニ及ヒ編年史編纂掛ヲ設置シタルニ起因ス同二十八年四月現今ノ名稱ニ改メ歴史材料ノ蒐集ト其編纂トニ從事セシカ其稿大略成ルヲ以テ同三十三年四月ヨリ更ニ大ニ修訂ヲ加ヘ成ルニ隨ヒ漸次ニ大日本史料、大日本古文書ノ名ヲ以テ出版スル事トセリ同三十八年四月新ニ史料編纂官等ノ官制ヲ設ケラレ大日本史料ニアリテハ先ツ鎌倉時代、南北朝時代、江戸時代ノ三部ヲ置キ大日本古文書ノ部ト共ニ執レモ引續キ編纂出版ニ從事セリ同四十二年ヨリ室町時代ノ一部、大正十年ヨリ平安時代ノ一部ヲ開始セリ又明治三十九年八月外務省ヨリ其從來編纂中ナリシ幕末外國關係文書集編纂事業ト之ニ關スル書類トヲ引繼キテ更ニ修正増補ヲ加ヘ同四十二年度ヨリ幕末外國關係文書ト題シ大日本古文書ノ一部分トシテ漸次出版スルニ至レリ今日マテニ出版セルモノハ史料七十五冊、古文

書六十七冊トス又從來諸方面ヨリ蒐集シタル肖像畫及ヒ其他ノ繪畫中
 ヨリ教育上ニ必要ナルモノヲ擇ヒ歴史科教授用參考掛圖ト題シテ逐次
 出版スルコトトナシ明治四十年十一月ニ第一輯第一回ヲ發行シ漸次十
 二輯百二十七種(百四十四枚)ヲ發行セリ又大正十年ヨリ古文書繪畫類ヲ
 收メテ史林聚芳ト題シテ第六輯マテ編纂發行セリ以上ノ事業進行ニツ
 イテ其材料ノ蒐集ハ年ヲ逐ヒテ増加シ其主ナルモノハ聽許ヲ得テ騰寫
 シタル奈良正倉院御物ノ古文書ヲ始メ社寺諸家等ノモノニシテ既ニ騰
 寫摸寫影寫ヲ了シタル古文書ハ約十六萬四千五百餘通古記録等五萬四
 千二百餘點ニ上リ肖像畫等ノ摸寫七百八十三點古地圖類ノ摸寫四百二
 十三點肖像畫繪卷物古文書等ノ寫真六千六百三十二點ニ上レリ故ニ圖
 書館ト同シク教授學生ノ研究ニ資スルコトハ勿論又各府縣郡市町村史
 編纂ノ爲メ或ハ華族其他ノ諸向ヨリ家史若クハ特殊ノ事項取調ノ爲メ
 等特ニ許可ヲ得テ其資料ヲ此ニ取ルモノ亦少カラス又近年ハ時々史料
 展覽會ヲ開キ古文書記録圖畫等ヲ陳列シテ専門家ヲシテ研究ノ資料ヲ
 得シメ衆人ヲシテ歴史ノ興味ヲ感得セシム

○第十五章 理學部

第一 職員(同職中ノ氏名ハ就職ノ順ニ掲ク)

學部長

教授理學博士理學士

五島清太郎

東京

教授

地質學第二講座擔任

理學博士理學士

横山又次郎

東京

星學第二講座擔任

理學博士理學士

平山信

東京

植物學第二講座分擔

理學博士理學士

三好學

東京

オノラリ、フェロー、オブ、フイジカル、ソサエチー(ロンドン) マムブル、オノレール、ド、ラ、ソシエテ、ド、フイジク(ジエネヴ)

理論物理學第一講座擔任

理學博士理學士

長岡半太郎

長崎

ドクトル、オブ、フイロソフイー(ジヨンス、ホップキンス大學)

動物學第二講座擔任

理學博士農學士

渡瀬庄三郎

東京

數學第二講座擔任

理學博士理學士

坂井英太郎

東京

數學第三講座擔任

理學博士理學士

高木貞治

岐阜

理論物理學第二講座擔任

理學博士理學士

田丸卓郎

東京

化學第四講座擔任

理學博士理學士

松原行一

東京

○第十五章 理學部 職員

數學第四講座擔任 理學博士理學士 吉江琢兒 山形

動物學第三講座擔任 遺傳學講座擔任 理學博士理學士 五島清太郎 東京

植物學第三講座擔任 地理學講座擔任 理學博士理學士 藤井健次郎 石川

物理學第一講座擔任 結晶學講座兼擔任 理學博士理學士 山崎直方 東京

數學第五講座擔任 理學博士理學士 中村清二 東京

物理學第三講座擔任 理學博士理學士 中川銓吉 石川

植物學第二講座擔任 植物學第三講座擔任 理學博士理學士 寺田寅彦 高知

航空物理學講座擔任 理學博士理學士 柴田桂太 東京

化學第二講座擔任 理學博士理學士 寺澤寬一 東京

化學第三講座擔任 分析化學講座擔任 理學博士理學士 片山正夫 岡山

星學第一講座擔任 理學博士理學士 柴田雄次 東京

生物化學講座兼擔任 理學博士理學士 平山清次 宮城

地質學第三講座擔任 醫學博士理學士 柿內三郎 東京

物理學第二講座擔任 理學士 加藤武夫 山形

物理學第一講座擔任 理學博士理學士 佐野靜雄 東京

放射能作學講座擔任

在外研究中

數學第一講座擔任

ドクトル、オフロソフイー(コロンビア大學)

動物學第一講座擔任 理學博士理學士 木下季吉 熊本

植物學第一講座擔任 理學博士理學士 早乙女清房 東京

地震學講座擔任 理學博士理學士 竹內端三 東京

物理學第二講座擔任 理學博士理學士 谷津直秀 東京

物理學第一講座擔任 理學博士理學士 早田文藏 新潟

物理金相學講座擔任 理學博士理學士 今村明恒 鹿兒島

氣象學講座擔任 理學博士理學士 高嶺俊夫 東京

化學第一講座擔任 理學博士理學士 西川正治 東京

授業擔任 理學士 藤原咲平 長野

理學士 鮫島實三郎 大阪

水產學 教授理學博士理學士 岸上鎌吉 東京

生物化學 教授農學博士農學士 鈴木梅太郎 沖繩

應用化學 教授工學博士工學士 大島義清 東京

助教授

星學 理學士 松隈健彦 佐賀
 航空學 理學士 小林辰男 岡山
 動物學 理學士 田中茂穂 高知
 電氣化學講座擔任 理學士 山口與平 静岡
 地質學 地質學第一講座擔任 理學士 坪井誠太郎 東京
 マムブル、コレスボンダン、ド、ラツツシアシヨ、ブール、
 ランセニユマン、デ、シヤンス、アントロボロジツク(パリ)、
 マムブル、チチュレール、エー、マンブル、ヂユ、コンセキユ、ツ、デキレクシ
 ヨン、ツ、ランスチチユ、アンテルナシヨナール、ダントロボロジ(パリ)

人類學講座擔任 文學博士 鳥居龍藏 東京
 化學 理學士 久保田勉之助 千葉
 植物學(在外研究中) 理學博士 中井猛之進 山口
 地理學 理學士 辻村太郎 神奈川
 分析化學講座擔任 理學士 木村健二郎 神奈川
 星學(在外研究中) 理學士 萩原雄祐 大阪
 工業物理學講座擔任 理學士 拔山大三 東京

講師

植物學 理學博士 理學士 服部廣太郎 愛知
 牧野富太郎 高知
 植物學 理學士 石田收藏 秋田
 人類學 理學博士 理學士 飯盛里安 東京
 分析化學講座擔任 理學士 淺原源七 大阪
 化學 理學博士 理學士 高橋 胖 香川
 物理 理學博士 理學士 佐藤傳藏 熊本
 鑛物學 理學士 山羽儀兵 東京
 植物學 理學士 小倉謙 宮城
 物理學 石田義雄 東京
 ドクトル、フィロソフィエー(ライプチヒ)大學
 フチーレン、メンバー、オフ、サオロサカル、ソサイテー、オフ、ロンドン

地質學 理學博士 理學士 小藤文次郎 島根
 動物學 理學博士 理學士 鏑木外岐雄 石川
 地理學 理學士 佐藤弘 大分

星學

理學士 福見 尙文 愛媛

第二 學科課程

第一條 本學部ニ左ノ十學科ヲ置ク

- 數學科
- 天文學科
- 物理學科
- 化學科
- 動物學科
- 植物學科
- 地質學科
- 礦物學科
- 地理學科
- 地震學科

學生ハ一ノ學科ニ就キテ入學ヲ許可セララルモノトス

第二條 各學科ノ授業科目ヲ必修科目選擇科目參考科目ノ三種トス

第三條 學生ハ其ノ所屬以外ノ學科ノ授業科目ヲモ學修スルコトヲ得

第四條 學生ハ每學年ノ始ニ於テ當該學年間に學修セント欲スル科目

ヲ定メテ之ヲ申請シ許可ヲ受クベシ

授業ノ開始期カ學年ノ始ニアラサル科目ニアリテハ其ノ時ニ於テ前

項ノ申請ヲナスコトヲ得

第五條 一科目ニ就キ前條ノ申請ヲナス學生ノ員數學修セシメ得ヘキ

人員ニ超過スルトキハ左ノ順位ニヨリ之ヲ許可ス

- 一 當該科目ヲ必修科目トスル者
- 二 當該科目ヲ選擇科目トスル者
- 三 當該科目ヲ參考科目トスル者
- 四 其ノ他ノ者

同一順位ノ者ニ就キテノ順序ハ適宜之ヲ定ム

第六條 各科目ノ成績ハ優良可不可ノ四等トシ優良可ヲ合格トス

前項ノ成績ハ擔任教員ノ報告ニ基キ教授會ニ於テ之ヲ決定ス

第七條 學修セル科目及成績ハ學生ノ請求ニヨリ學修簿ニ記入シテ擔

任教員之ヲ證明ス

第八條 三學年以上在學シ所屬學科ノ必修科目全部及左ノ標準ニヨル
選擇科目ニ就キ合格ノ成績ヲ得タル者ヲ卒業者トス

數學科 二科目以上

天文學科 四科目以上

物理學科 甲乙ノ内一及特別講義二科目以上

化學科 甲乙丙ノ内ノ一以上

動物學科 三科目以上

植物學科 二科目以上

地質學科 甲乙ノ内一以上

鑛物學科 一科目以上

地理學科 三科目以上

地震學科 三科目以上

第九條 在學期間ハ六學年以上ニ涉ルコトヲ得ス但シ休學シタル學年
ハ之ヲ算入セス

欠

欠

遺傳學	一年	二	二	
人體生理學一般	一年	二	二	
人體生理學				
人體解剖學				
古生物學	一年	二	二	
生物化學	一年	二	二	
醫化學				
人類學	一年	二	二	
自然地質學	半年	三	二	
心理學概論				
病理學概論				
一般物理學	一年	三	二	
化學通論	一年	三	二	
數學	一年	三	二	
魚學實驗	一年			一
細菌學及實驗	半年			二
植物分類學實驗	一年			二
植物組織學及細胞學實驗	一年			二
植物生理學實驗	一年			二
遺傳學實習	一年			三
生理學實習	一年			一

古生物學實驗	一年			二
生物化學實驗	半年			二
植物學科				
必修科目				
植物分類學	一年	三	三	
植物形態學	一年	三	三	
植物生理學及生態學	一年	三	三	
遺傳學	一年	二	二	
生物化學	一年	二	二	
細菌學及實驗	半年			二
植物分類學	一年			二
植物組織學	一年			二
細胞學實驗	一年			二
植物生理學實驗	一年			三
遺傳學實習	一年			一
生物化學實驗	半年			二
植物學講習				
特別研究及論文				
選擇科目				
應用植物學	半年			二
動物學	一年			三

○第十五章

理學部 學科課程

動物學總論	半年	三	三	
有脊椎動物發生學	一年	三	三	
動物組織學及實習	半年	三	三	
人體生理學一般	一年	二	三	
地史學	半年	三	三	
動物解剖實驗	一年	三	三	
羅典語學	一年	二	三	
參考科目				
自然地質學	半年	三	三	
古生物學	一年	二	三	
一般物理學	一年	三	三	
化學通論	一年	三	三	
有機化學	一年	五	三	
臨海實驗	一年	五	三	
地質學科	夏期休業中二週間			
地質學科				
必修科目				
自然地質學	半年	三	三	
地史學	半年	三	三	
地質學	半年	三	三	
地質學實驗	半年	三	三	

特別研究及論文	一年	二	二	
選擇科目				
甲 岩石學及實驗	一年	二	二	
應用地質學及實習	一年	三	三	
古生物學及實驗	一年	二	二	
動物學	一年	三	三	
植物分類學	一年	三	三	
植物學實驗	一年	三	三	
參考科目				
地理學	一年	二	二	
礦物學	一年	二	二	
一般物理學	一年	三	三	
化學通論	一年	三	三	
地震學	一年	三	三	
人類學	一年	三	三	
石油探礦學	一年	三	三	
物理學實驗	半年	三	三	
化學實驗	半年	三	三	
礦物識別實驗	一年	三	三	
礦物學科				
必修科目				

礦物學	一年	二	二	
結晶學	半年	二	二	
地質學	一年	三	三	
岩石學及實驗	一年	二	二	
古生物學	一年	二	二	
礦物識別實驗	一年	二	二	
礦物學實驗	一年	二	二	
化學實驗	一年	二	二	
實習旅行	一年	二	二	
礦物巡檢	一年	二	二	
特別研究及論文	一年	二	二	
選擇科目				
應用礦物學	半年	二	二	
結晶光學	半年	二	二	
地理學科				
必修科目				
自然地理學	一年	三	三	
人文地理學	一年	三	三	
地誌(甲)(隔年開講)	一年	二	二	

地誌(乙)(隔年開講)	一年	二	二	
地理學演習	一年	二	二	
地理學研究	一年	二	二	
地理學巡檢	一年	二	二	
圖學及實習	一年	二	二	
選擇科目				
地理學特別講義	半年	一	一	
自然地質學	半年	三	三	
地史學	半年	三	三	
岩石學及實驗	一年	二	二	
礦物學	一年	二	二	
礦物識別實驗	一年	二	二	
一般物理學	一年	三	三	
物理學實驗	一年	三	三	
地點測定法實習	半年	一	一	
地球物理學	半年	一	一	
海洋學	半年	一	一	
氣象學	半年	一	一	
地震學	半年	一	一	
人類學	半年	二	二	
史學概論	半年	二	二	

○第十五章 理學部 學科課程

國法學	參考科目	地球地質學	半年	一
一般天文學		自然地質學	半年	一
測地學		地史學	半年	三
政治史		地震學特別講義		
社會學		地震學特別研究及論文		
經濟學		地質學野外巡檢		
統計學		選擇科目		
地震學科		材料強弱論	一年	三
必修科目		氣象學	一年	一
地震學	期間 半年	天體物理學	一年	一
地震計測學及實習(第一段)	一年	岩石學及實驗	一年	三
地震計測學及實習(第二段)	一年	物性論及熱學	一年	三
微積分學	一年	確率及其應用	一年	二
一般物理學	一年	參考科目		
物理學實驗(第一段)	一年	土木工程大意	半年	二
力學(質點及剛體)	一年	建築學大意	一年	二
流體力學	半年	火山物理學	半年	一
彈性論及音響學	半年	火災論	半年	一
應用微分方程式論	一年	地形學	一年	一

附則

現ニ在學スル學生ニ對スル授業科目ハ從前ノ學科課程ヲ參酌シテ各學科ニ就キ適宜之ヲ定ム

第三 標本室

博物學教室動物學教室所屬標本室

動物學標本室ニハ授業用並研究用ノ爲内外所產ノ動物標本ヲ保存ス本室所藏ノ標本ハ多年絶エス職員學生ヲ各地ニ派シテ採集シ若クハ外國博物館大學等ト交換シタルモノニシテ殊ニ下等動物ノ標本ニ富ミ且研究ノ結果新種トシテ發表セラレタル模範標本少シトセス其中較完備セルモノヲ舉クレハ鳥類ハ約四百餘種三千餘點ニシテ幾ント本邦所產ノモノヲ網羅ス爬蟲類兩棲類魚類中本邦ニ產スル普通ノモノハ概皆之ヲ備ヘ且臺灣沖繩樺太等所產ノモノ亦尠シトセス甲殼類ハ相州三崎備後鞆及小笠原島等南部所產ノモノヲ多シトス軟體動物ハ特ニ豐富ニシテ後鰓類有肺類等モ所藏ノ種類甚多シ又米國ボストン博物學會ノ寄贈ニ係ル貝類標本ノ如キハ識別ノ模範トナスヘキモノナリ昆蟲類ハ東京日

光岐阜近傍沖繩臺灣等ノ所産ノモノヲ多シトス棘皮動物環節蟲内外寄
 生動物類其他下等蠕蟲類腔腸動物標本ノ如キハ新種若クハ本邦ニ存在
 スルコトヲ曾テ世ニ知ラレサリシモノ幾ント其數ノ半ニ過ク海綿類中
 近來相模洋數百尋ノ海底ヨリ續々發見シタル種類モ悉ク本室ニ蒐集セ
 ラル就中偕老同穴拂子貝等玻璃海綿ノ絶美偉大ナルモノニ至リテハ未
 タ他ニ其比ヲ見ス而カモ本學部ニ於テ始メテ此新種ヲ世ニ知ラシムル
 ヲ得タルハ亦多幸トス目下内外國産標本ノ數約六千餘種アリ專ハラ授
 業用若クハ參考用ニ資センカ爲メ蒐集スルモノナレハ其排列ノ裝置保
 存ノ方法等自ラ普通博物館ト其趣ヲ異ニスル所ナキニアラス

地質學教室所屬標本室

地質學標本室ヲ五區ニ分チ左ノ標本ヲ陳列シ以テ地質學研究ノ參考ニ
 質ス

- (一) 地層史標本
 有化石地層ヲ太古代、中古代、近古代ノ三時代ニ分チ各時代特有ノ動

- (二) 古生物標本
 植物化石ヲ包藏ス即チ其時期ノ新古ニ從ヒ標本ヲ陳列シ地質時代
 生物ノ發育ヲ知ラシム又各時代特有ノ岩石ヲモ併セテ陳列シ如何
 ナル岩石中ニ化石ヲ埋存スルヤヲ示ス其數三千五百餘個アリ
- (三) 古生物標本
 化石トシテ産スル古代ノ動植物ヲ動物學及植物學上ノ分類ニ從ヒ
 陳列ス其數二千三百餘個アリ
- (四) 礦物標本
 外國礦物ハ種々ノ組ニ分チ其最モ種類ニ富ム者ハ標本ノ個數二千
 餘ニ達ス又講義用ノ晶形物理性等ノ標本アリ
- (五) 岩石標本
 化學上ノ分類ニ從ヒ陳列ス其數千六百餘個アリ
- (六) 本邦岩石及化石標本
 岩石ハ本邦地層ノ代表者トナルヘキ模範標本凡ソ六百個ヲ化學上
 ノ分類ニ據テ陳列シ化石ハ石炭紀ヨリ第四紀マテノモノ凡ソ千五
 百個ヲ地質時代ノ順序ニ依テ陳列セリ而シテ化石ノ中ニハ從來僅

カニ一個ヲ出シタル極メテ貴重ノ品モ少カラス
此他石膏製ノ大化石模型木製ノ斷層模型粘土製ノ火山及山脈造成ヲ示
スヘキ模型等數十個ヲ備フ

鑛物學教室所屬標本室

鑛物學教室ノ標本室ハ主トシテ本邦ノ鑛物ヲ陳列シ陳列品以外ノ鑛物
學及地質學上ノ諸標本ハ大概之ヲ倉庫内及列品室ノ引キ出シニ藏セリ
陳列品ハ主トシテ左ノ部類ニ屬ス

(一) 本邦鑛物類別標本

上ケ蓋ノ陳列箱十箇ニ入レ既ニ本邦ニテ發見セラレタル凡ソ二百種ヲ
デ一な氏鑛物類別ノ順序ニ陳列ス注目スヘキモノハくなしり島其他ノ
中空硫黃球臺灣ノ桂狀硫黃越前ノ自然砒結晶吉岡ノ磁硫鐵鑛結晶小岐
及遠平ノ黃鐵鑛ノ奇晶太良ノ方鉛鑛大晶尾去澤ノはりす鑛荒川ノ黃銅
鑛奇晶金瓜石ノ硫砒銅鑛良晶備後信濃ノぢあすばあ越中及羽後ノ鱈狀
硅石岩代其他ノ算盤珠石奇形ナル玉髓及蛋白石石神山ノ鱗硅石美濃ノ

○第十五章 理學部 標本室

苗木石佐渡ノ奇形方解石諸所ノ方解石ノ平行相結水澤ノ方解石信濃ノ
霞石ノ珠石見松代ノ霞石椿ノ毒重石ノ柱狀晶荒川ノ青鉛鑛結晶臺灣ト
秋田縣ノ北投石甲斐ノ重石大晶ト其變質物足尾ノ藍鐵鑛結晶金瓜石ノ
明礬石結晶美濃ノ正長石ト石英ノ種々ノ相結奇ナル着色アル黃玉御所
平ノ電氣石朝鮮ノ方ソーダ石尾平ノ良晶鑛物ダンブリツト斧石ヘデン
ヘルダ石鑛石中ノ董青石接觸岩中ノ董青石長石類ノ大晶等アリ
(二) 鑛物成因標本
棚ニ陳列シタル本邦產ノ大標本ニテ成リ總數凡ソ百五十個アリペグム
タイト脈ノ鑛物氣成鑛物本邦ニ夥シク發達セル接觸鑛床ノ諸鑛物諸鑛
石類水成鑛物等ニ分ツ注目スヘキハ甲斐ノ水晶ノ大雙晶白板ノ閃亞鉛
鑛甲斐ノふるべりト大假晶等ナリ
(三) 其他ノ標本
主トシテ大標本ニシテ臺灣及羽後ノ北投石放射能ノ著シキ新鑛物輝安
鑛ノ大晶肥前小濱溫泉ノ沈澱物方解石ノ形ヲ爲セル泥灰石等ハ注目ス
ヘシ

植物學標品室及植物化石實驗室
 植物學教室所藏ノ標本ハ、腊葉酒精漬標品材鑑等ニシテ職員學生等ノ多年採集シタルモノ及外國ノ博物館、植物園、大學、植物家等ヨリ寄贈シタルモノニシテ斯學研究ノ資料ニ供ス殊ニ本邦產腊葉中ニハ新種及稀有ノ品アリテ模範標本尠カラス而シテ植物園ニ栽培シタル內國產二千八百九十九種朝鮮產百四十一種及支那產百三十八種ハ已ニ明治十八年刊行ノ帝國大學植物標品目錄ニ載セテ世ニ公ニセシ以來內地、琉球、北海道、臺灣、英領香港、佛領印度支那、小笠原島、樺太等各所ニ職員ヲ派シテ採集シタル標品ノ數大ニ増加セシノミナラス内外ノ學者有志者等ヨリノ寄贈品モ亦大ニ増加セリ

日本植物標本
 安藤伊作寄贈百二十點、吉野善介寄贈百五十點、二階重樓寄贈一千六百點、木下俶夫寄贈故矢島省三採集二千五百九十點、琉球產五百點、小笠原島產一千二百點

理學博士中井猛之進寄贈五百點

臺灣植物標本

臺灣總督府寄贈三千點、故相馬楨三郎寄贈三百點、松田英二寄贈三百點、故宣教師、ユ、フホリ、エ、寄贈六百點

樺太植物標本

中原源治採集三百點、樺太廳寄贈南樺太產八百點

朝鮮滿洲植物標本

ペトログラード帝立植物園寄贈朝鮮產八十點、今井半次郎寄贈五百點、アール、シ、ミルス寄贈北朝鮮產二百點、舊朝鮮總督府間島派出所寄贈間島產二百五十點、八田吉平寄贈同上產一百點、ホ、コ、マ、ロ、フ寄贈朝鮮及滿洲產九百五十點、桑原準策寄贈滿洲產七十點、アール、シ、ミルス寄贈北及中部朝鮮產三百二十點、森爲三寄贈濟州島及朝鮮半島產二千百九十點、石戸谷勉寄贈同上產一千四百點、朝鮮總督府寄贈理學博士中井猛之進採集濟州島及朝鮮產二萬一千二百四十點、理學博士中井猛之進寄贈同上產四千三百點、宣教師、タ、ク、イ、寄贈濟州島產

一千點
支那植物標本

キウ王立植物園寄贈エー、ヘンリー採集中部支那產八百十四點、稻並
 幸吉寄贈同上產二百二十點、矢部吉禎寄贈北支那產六十二點、菊池謙
 二郎、岡真三及森惠梁寄贈三百點、香港植物園寄贈香港產四十一點、成
 田清輝及鳥居龍藏寄贈蒙古產五十點、大森千藏寄贈山西省產九十點、成
 鈴木珪壽寄贈杭州產六十點、梅村次修寄贈甘肅省產九十點、田中久藏
 寄贈陝西省產五十點、黃以仁寄贈江蘇省產百三十點、森惠梁寄贈上海
 產六十點、理學博士松村任三及小野孝太郎寄贈蘇州產二百三十點、張
 之銘寄贈寧波產二百七十點、本多厚二寄贈杭州植物四百五十點
 其他亞細亞產植物標本
 ブイテソツオルグ植物園寄贈瓜哇產有用植物五百點、菲律賓政廳科
 學局寄贈菲律賓產六百點
 歐米植物標本
 ハーバード大學グレ植物標本館寄贈北米產一百點、ブリソングル寄

贈墨國產一千五百點、カリエール及クリスト寄贈歐洲產五百點、ベト
 ログラード帝立植物園寄贈同上二千點、維納王立博物館寄贈歐洲產
 隱花植物四千四百點、維納帝立大學植物學教室寄贈奧洪產植物八百
 點、化石植物顯微鏡標本三十九點、日本產中世代化石植物ノ顯微鏡、ブ
 レバート二百點

以上斯學研究上ニ貴重ナル標本ハ從來教室ノ一部ニ保存セシガ新ニ耐
 火装置ヲ有スル標本館一棟ヲ建設シテ悉ク之ヲ此館中ニ收容保管スル
 コトトセリ又別ニ男爵三井八郎右衛門寄贈ニ係ル植物化石實驗場一棟
 ヲ設ク之ニ化石切斷機及化石削磨機各一臺ヲ据付テ實驗ニ從事ス
 人類學教室所屬標本室
 人類學標本陳列室ハ二階建ニシテ階上階下共ニ四室ニ分チ第一室ニハ
 諸外國ニ於テ發見ノ古器物中初學者ニ其大要ヲ示スヘキモノ好標本ト
 シテ殊ニ示スニ足ルヘキモノ及學術上殊ニ貴重ナルモノ等ヲ陳列シ第
 二室ニハ本邦石器時代ノ遺物中精細ナル研究上ノ材料トシテ使用スヘ

キ者ヲ發見地ノ地理的順序ニ由リ陳列シ第三室ハ標本整理等ノ爲ニ用
 ヒ第四室ニハ本邦ニ於テ發見ノ遺物ヲ陳列ス第五室ニハ北海道本島土
 人樺太諸種族及千島土人ノ風俗習慣ヲ示スヘキ諸標本ヲ置キ第六室ニ
 ハ臺灣種族ノ風俗習慣ヲ示スヘキ諸標品ヲ陳ネ第七室ニハ「シヤム」人「マ
 レイ」諸島人南洋諸種族北「アメリカ」北方諸種族等ノ風俗習慣ヲ示スヘキ
 諸標本ヲ置キ第八室ニハ琉球人朝鮮人及支那人ノ風俗習慣ヲ示スヘキ
 諸標本ヲ配置ス又教室ニ接スル別室ニハ人類學一般ニ關スル諸標本ヲ
 陳列ス

以上ノ諸品其他内外諸種族ノ頭骨ノ如キ何レモ場所狹隘ナルカ爲メ陳
 列宜シキヲ得ス不便少ナカラス且今後標本益々増加スヘキヲ以テ適當
 ナル陳列室ノ設置ヲ俟テ一層斯學研究ノ便ヲ圖ラントス

第四 理學部附屬植物園

理學部附屬植物園ハ理學部ノ所轄ニシテ其面積四萬八千八百餘坪ヲ有
 シ東京帝國大學ヲ距ルコト西北凡二十町小石川白山御殿町ニ在リ園内
 ニハ遍ク諸種ノ植物ヲ栽培シ以テ植物學昆蟲學藥學等ヲ修ムル學生ノ

實驗用ニ資ス其種類今ヤ内外產ヲ合シテ三千餘種ニ及ヘリ而シテ園内
 ノ大區畫ニハエングレル及グラントル兩氏ノ分類法ニ從ヒテ植物科目
 壇ヲ設ケ又他ノ區畫ニハ藥用植物及日蔭植物等各類ヲ分チテ栽培ス此
 他珍奇ナル盆栽植物アリ之レカ保育ニ充ツル温室ヲ有ス温室ハ日本式
 ト歐洲式トノ二種アリ即チ日本式ノ温室ニハ所謂穴室陸室大阪室等ノ
 設置アリ歐洲式ノ温室ニハ專ラ熱帶地方ニ産スル植物ヲ栽培スルモノ
 ト藥用植物ヲ栽培スルモノト植物學教室ニ附屬シテ遺傳學實驗用ニ供
 スルモノトノ三種アリ
 植物學教室ハ園ノ東方ニ在リ是レ明治三十年七月植物學研考ノ便ヲ圖
 リテ東京帝國大學構内ヨリ移設スル所ニ係ル之ニ隣スルモノヲ植物園
 事務室トス
 園中ノ西方區域ニ庭園アリ頗ル泉石ノ美アリ四時共ニ景趣ニ富メリ其
 南方ニ家屋アリ之ヲ集會所トス是レ主トシテ諸學術會ニ係ル集會等ノ
 用ニ充ツ
 又本園ニ於テハ廣ク海外ノ諸學校植物園及植物學者ト常ニ種子ノ交換

ヲ爲スノミナラス又毎年種子目錄ヲ印刷シテ之ニ内國諸學校並ニ外國諸植物園大學及植物學者等ニ贈致シ以テ種子ノ選擇ニ便ス

明治三十五年十一月栃木縣下日光町字佛岩ノ地二千六百餘坪ヲ購入シ始メテ植物分園ヲ設ケタリシモ敷地甚タ狹小ナリシヲ以テ明治四十二年六月更ニ同日光町字蓮花石ノ土地九千九百餘坪ヲ購入シ明治四十四年十一月該園ヲ茲ニ移シ更ニ明治四十五年同所ノ土地四千餘坪大正三年隣接地三千五百四十餘坪大正四年百五十餘坪大正七年二千五百餘坪ヲ購入シテ本學ノ所有トシ在來ノ宿舍ノ外ニ實驗室ヲ新設シ既定ノ計畫ニ從ヒ園内ノ經營ヲ進メ以テ設備ノ完成ヲ圖ルコトトス蓋シ日光山ハ各種ノ植物ニ富ミ最モ高山植物ニ適應ス故ニ此分園ヲ設ケ一ハ本學部教員學生生徒ヲシテ高山植物ノ研究ニ便ナラシメ一ハ該地方及各地高山ノ植物ヲ蒐集培養シ且海外ノ高山植物ヲモ移植シテ以テ斯學研究ノ材料ニ供スルコトトス

植物園來觀規則ハ左ノ如シ

第一條 理學部附屬植物園觀覽規則ニ依リテ來觀スル者ハ何人ニテモ來觀スルヲ得ヘシ

地ニ研究スル所トス

第二條 本園内ノ植物ハ總テ園長ノ特許ヲ得タル者ニ非レハ自生ノモノト雖モ採折スルコトヲ得ス

第三條 本園ハ毎日(一月一日ヲ除ク)左ノ時間内ニ於テ來觀ヲ許ス但臨時來觀ヲ謝絶スルコトアルトキハ門外ニ揭示スヘシ

自四月一日	至四月三十日	午前六時ヨリ午後五時三十分マテ
自五月一日	至八月三十一日	午前六時ヨリ午後六時マテ
自九月一日	至九月三十日	午前七時ヨリ午後五時マテ
自三月一日	至三月三十一日	

自十一月一日
至十一月三十日
自十二月一日
至二月末日

午前七時ヨリ午後四時三十分マテ
午前八時ヨリ午後四時マテ

第四條 東京帝國大學職員及學生生徒ヲ除ク外來觀者ハ必ス觀覽券ヲ携フヘシ

但學生ハ制服ヲ着用シ生徒ハ理學部ヨリ交付セル證票ヲ携フヘシ又十年未滿ノ小兒ハ相當保護者ノ附添アルヲ要ス

第五條 觀覽券ハ左ノ四種トス

通常觀覽券

五歳未滿ノ者ハ觀覽券ヲ要セス五歳以上十歳未滿ノ小兒ハ一枚金十錢

一枚 金貳拾錢

特別觀覽券

溫室觀覽券山草栽培所觀覽券及其他

各一枚 金五錢

二十回觀覽券

壹冊 金貳圓八拾錢

五十回觀覽券

壹冊 金六圓

但諸學校生徒ノ團體觀覽者等ニハ特ニ減額ヲ爲スコトアルヘシ
溫室ノ觀覽ハ毎日曜日祝祭日並土曜日正午ヨリトス尤臨時之ヲ許

可スルコトアルヘシ

山草栽培所及其他ノ特別觀覽ハ隨時之ヲ許可ス

第六條 左ノ事項ニ該當スル者ハ入園ヲ謝絶シ又ハ園内ヨリ退出セシムヘシ

一 癡狂者又ハ亂醉者

二 足駄及日和下駄ヲ穿チ又ハ畜類ヲ牽ク者

三 園内ニ於テ飲酒放歌吟誦及其他喧騒ノ所爲アル者

四 風俗ヲ害シ安寧秩序ヲ亂スノ虞アル者

五 前各號ノ外園内ノ揭示ニ背キ又ハ掛員ノ制止ニ應セサル者

第七條 園内ノ花卉樹木其他物品ヲ傷害スルトキハ相當ノ代價ヲ償ハシム

但其所爲ニシテ故意ニ出ツルト認ムルトキハ尙ホ其筋ノ處分ヲ受

ケシムルコトアルヘシ

第八條 植物學篤志者ニハ特許證ヲ交附シテ實地研究上ノ便宜ヲ與フ

ルコトアルヘシ

第九條 園長ハ觀覽者ニ必要ノ事項ヲ隨時園内ニ揭示スヘシ

植物園日光分園觀覽規則

第一條 本分園ハ左ノ日時ニ於テ觀覽ヲ許可ス
但臨時觀覽ヲ謝絶スルコトアルトキハ門外ニ揭示スヘシ

自五月三十日
至十一月三十日

午前八時ヨリ午後四時三十分マテ

第二條 觀覽人ノ入園ハ際觀覽券ヲ門衛ニ示シ退出ノ際門衛ニ渡スベシ但出門ノ際觀覽券ヲ有セサル者ニ對シテハ觀覽料ヲ徵收ス

第三條 觀覽券ハ左ノ二種トス

通常觀覽券

(五歳未満者ハ觀覽券ヲ要セス五歳以上十歳未満ノ小兒ハ一枚金拾錢)

一枚 金 貳 拾 錢

二十回觀覽券

一冊 金 參 圓 貳 拾 錢

第四條 前三條以外ノ事項ニ關シテハ總テ理學部附屬植物園觀覽規則ヲ準用ス

第五條 地震學教室所屬實驗所

理學部地震學實驗所ハ明治十三年ノ創設ニ係ル本所ニ於テ元機械工學教師ユロイノグ氏故關谷教授及其他ノ諸氏曾テ數種ノ水平動及上下動

地震器械ヲ考按製作シ地震研究ニ從事セリ爾後歲月ヲ經ルニ從ヒ器械ニ改良ヲ加ヘ現今ニテハ大小ノ地震ハ勿論脈動微動及遠震ノ餘波ヲ十分觀測シ得ルニ至レルカ別ニ工場ヲ設ケ地震器械ノ改良製作ニ從事ス且各種ノ地震計ヲ一ツ橋外東京帝國大學用地内地震觀測所其他數ヶ所ニ配置シテ地動ヲ驗測シ或ハ之ヲ以テ地震ノ建築物ニ及スノ影響及地質地形等ニ因リテ變化スルノ模様ヲ研究ス又本所ハ震災豫防調査會ニテ施行スル種々ノ地震調査事項ニ關シテ其研究ヲ幫助シ内國ニ大震噴火等ノ地變アルトキハ本所員ハ現場ニ出張シテ之カ調査ニ從事スルヲ常トス

第六條 理學部附屬臨海實驗所

臨海實驗所ハ理學部ニ附屬シ其教員及學生生徒ヲシテ專ラ海產生物ノ研究實驗ニ從事セシムル所トス抑本所ハ創メテ明治十八年中地ヲ相模國三浦郡三崎町ニトシ同二十年三月建築工事成リタルニ起リ爾來同地ニ在ルコト十年其間研究ノ業大ニ進ミ學生年ヲ逐ヒテ増加シ爲メニ所

内狹隘ヲ告ケ本所ヲ他ノ一層好適ノ地ニ移スノ必要ヲ感スルニ至レリ然ルニ三崎町ヲ距ル北方里許ニシテ小網代荒井城址附近ハ地勢及海洋ノ狀況實ニ臨海實驗所ヲ設置スルニ適ス故ニ明治二十九年三月其一部ヲ購入シ尋テ同三十年十二月其隣地ヲ宮内省ヨリ交付セラレ此ニ始メテ荒井城址總反別二町四反歩餘(七千二百坪餘)ノ地全ク東京帝國大學ノ所有トナル明治三十年中移轉ノ工事略ホ落成シタルヲ以テ同年十二月本所ヲ此ニ開始セリ其建築物ハ舊實驗所ヲ移シタルモノト他ニ新築シタルモノトニシテ別ニ寄宿舎ヲ設ケ以テ研究ニ従事スル職員及學生生徒ノ宿舍ニ充テタリ又明治三十八年米國人ピエヂーニ氏本所ニ別莊風ノ一小家屋ヲ建築シ職員宿泊用トシテ之ヲ寄附セリ

農學部木産學科學生ノ臨海實習ヲモ本所ニ於テ之ヲ行ハシムルコトトナシタルヲ以テ其必要ニ應ヘンカ爲メ明治四十一年ニ於テ更ニ附近ノ土地七千三百七十四坪ヲ得實驗室ヲ増築シ諸設備ヲ完カラシムル等本所擴張ノ事業已ニ大ニ進ミ明治四十三年ニ於テ之カ竣成ヲ見ルニ至レリ故ニ現今ハ優ニ四十餘名ノ學生及研究者ヲ容ルルノ設備ヲ得其他圖

書室標品陳列室水族飼養槽石油機唧筒風車等ノ設備及寄宿舎ノ増築皆既ニ竣工セリ

抑生物學上臨海實驗ノ必要ナル所以ノモノハ動植物ノ海ニ産スルモノハ其數ニ於テ將タ其狀態ノ千差萬別ナルニ於テ殆ント無限ト稱スヘク而シテ之レカ活動發育等ノ觀察ハ其棲息地ニ於テ爲スニアラサレバ行フ可ラス且此地ノ海産ニ富ミ漁獲ニ便ナル近海其比ヲ見サル所ニシテ斯學研究上ノ便益アル實ニ大ナリトス其研究ノ結果ニシテ已ニ世ニ公ニセラレタルモノ二三ニシテ止マラス本所ノ名既ニ歐米ノ學者間ニ高シ現今動物學者間ニ珍重セラルル動物中此相模洋ノ産ニ係ルモノ甚タ多シ例ヘハ彼ノ構造ノ美麗ト精巧トヲ極メタル玻璃海綿諸種(偕老同穴拂子貝等)如キ蟹簇中體軀ノ最モ巨大ナルヲ以テ有名ナル蠟マカシガニノ如キ前世界ヨリノ遺留物タル稀有ノどりのあし、らぶかざめ、箕作ざめ、長者貝ノ如キモノ即チ是レナリ其他未タ世ニ知ラレサル興味深キ動物ニシテ目今本邦學者ノ研究中ニ係ルモノ又ハ其後來大ニ研究ヲ待ツモノ甚タ多シトス

本所ハ又官公私立學校ノ教員其他篤志ノ者ハ願ニ依リ實驗所ノ使用ヲ許可スルコトアルヲ以テ春夏ノ候諸府縣ヨリ來リテ實驗ニ從事シ活物指教ノ實益ヲ覺リ海中生物界ノ真相ヲ解シ或ハ標本保存ノ方法ヲ學ヒ幾多ノ標品ヲ調製携帶シテ歸途ニ就クモノ年ニ多キヲ加フ尙ホ本所ニ於テ便宜ニ應シ動物學臨海實習會ナルモノヲ開クノ規定アリ蓋シ本邦普通教育上ニ及ホスノ裨益亦決シテ尠カラサルヘシ同會ノ規則左ノ如シ

第一條 動物學臨海實習會規則

上ノ實習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

實習ノ指導ハ理學部教授助教若クハ講師之ヲ擔任ス

第二條 動物學臨海實習會ノ開期ハ三週間乃至四週間トス

第三條 募集ノ人員及開會期日ハ官報ヲ以テ廣告ス

第四條 入會ヲ望ム者ハ第十二條書式ニ依リ東京帝國大學理學部長ヘ

願出ツヘシ

第五條 入會ヲ許可シタル時ハ理學部ヨリ當該學校ヘ通知ス

第六條 入會許可ノ通知ヲ得タル者ハ實習料金拾圓ヲ東京帝國大學會計課ニ納付スヘシ

但既納ノ實習料ハ入會出願者ノ都合ニ依リ入會ヲ取消ス等ノコトアルモ之ヲ返付セス

第七條 會員ハ各自顯微鏡及解剖器械ヲ携帶スヘシ

第八條 實習中ハ解剖皿硝子器具及豫備ニ器具器械ヲ會員ニ貸付シ又實習材料及必要藥品ヲ給ス

第九條 會員ハ本所ニ於ケル時々ノ揭示ヲ堅ク遵守スヘシ

第十條 會員中本所ニ於テ實習ニ不適當ナリト認メタルモノハ之ヲ除名スルコトアルヘシ

第十一條 實習滿期ニ至リ其成績佳良ナル者ニハ理學部ヨリ證明書ヲ附與ス

第十二條 動物學臨海實習會入會願書式ハ左ノ如シ

○第十五章 理學部 臨海實習會規則

動物學臨海實習會入會願

何立學何學校職名

何 某 生年月日

右東京帝國大學理學部附屬臨海實習所ニ於テ動物學臨海實習志望ニ付御許可被成下度履歷書相添此段相願候也

年月日

右

何 某印

東京帝國大學理學部長宛

前書何某ハ本校博物學教員ニ有之候處尙教授上ノ練達ヲ計ル爲メ動物學臨海實習會ニ入會志望ニ付御許可相成候様致度入會中本人ニ係ル一切ノ事件ハ拙者ニ於テ引受可申候右保證致候也

右

學校長 何 某印

履歷書

本籍族

現在ノ職名 何 某印

生年月日

年	月	日	學業官職賞罰等	當該官衙等
何年	何月	何日	何々	何々
何年	何月	何日	何々	何々

○第十六章 農學部

第一 職員 (同職中ノ氏名ハ就職ノ順ニ掲ク)

學部長

教授林學博士林學士 川瀬善太郎 東京

教授

ドクトル、フィロソフイエー(フライブルヒ大學)

動物學、昆蟲學、養蠶學 第一講座擔任 理學博士理學士 石川千代松 静岡

水産學第二講座擔任 家畜外科學 第二講座擔任 獸醫學博士獸醫學士 須藤義衛門 宮城

林學第三講座擔任 林學博士林學士 川瀬善太郎 東京

ドクトル、エコノミー、プブリス(ミュンヘン大學)

林學第二講座擔任 林學博士林學士 本多靜六 埼玉

森林利用學講座擔任 林學博士林學士 河合錦太郎 東京

家畜衛生學、家畜藥物學講座擔任 獸醫學博士獸醫學士 津野慶太郎 東京

農林物理學、氣象學講座擔任 農學博士農學士 稻垣乙丙 長野

植物病理學講座擔任 理學博士理學士 白井光太郎 東京

林學第一講座擔任 林學博士林學士 右田半四郎 熊本

農政學、經濟學第二講座兼擔	法學博士法學士	矢作榮藏	沖繩
農藝化學、化學第二講座擔任	農學博士農學士	鈴木梅太郎	東京
水産學第一講座擔任	理學博士理學士	岸上鎌吉	東京
植物學講座擔任	理學博士理學士	池野成一郎	東京
水産學第三講座擔任	農學博士農學士	町田咲吉	東京
園藝學講座擔任	農學博士農學士	原照	東京
農學第二講座擔任	農學博士農學士	吉川祐輝	東京
農藝化學、化學第三講座擔任	農學博士農學士	澤村眞	東京
農業工學講座擔任	農學博士農學士	上野英三郎	三重
水産海洋學講座擔任	理學博士理學士	原十六太	静岡
畜産學第一講座擔任	農學博士農學士	岩住良治	宮城
農藝化學、化學第一講座擔任	農學博士農學士	麻生慶次郎	東京
林學第四講座擔任	林學博士林學士	諸戸北郎	三重
家畜内科學、家畜外科學 第三講座擔任	獸醫學博士獸醫學士	仁田直	静岡
地質學、土壤學講座擔任	理學博士理學士	脇水鐵五郎	岐阜

○第十六章 農學部 職員

農產製造學講座擔任	農學博士 農學士 高橋 偵造	長野
農學第一講座擔任	農學博士 農學士 佐藤 寛次	山形
家畜生理學講座擔任	獸醫學士 島村 虎猪	高知
動物學、昆蟲學、養蠶學第三講座擔任	農學士 宗 正雄	大分
農政學、經濟學第三講座擔任	農學士 那 須 皓	東京
農學第三講座擔任	農學博士 農學士 安藤 廣太郎	兵庫
授業擔任		
冷藏法、機械學	教授工學博士 工學士 加茂 正雄	愛媛
商法	教授法學博士 法學士 松波 仁一郎	大阪
經濟學	教授法學博士 法學士 河 津 暹	東京
動物發生學、動物組織學 水産動物學	教授理學博士 理學士 谷 津 直秀	東京
殖民政策	教授法學士 矢内 原 忠雄	愛媛
助教		
植物學(在外研究中)	理學博士 理學士 草野 俊助	福島
農藝化學(在外研究中)	農學士 山縣 宇之吉	東京

水産植物學	理學博士 三宅 曠一	東京
林學	林學博士 林學士 藪部 一郎	和歌山
獸醫學(在外研究中)	獸醫學士 鈴木 竹麿	宮城
林學(千葉縣演習林勤務)(在外研究中)	林學士 高島 規孝	静岡
林學(在外研究中)	林學博士 林學士 三浦 伊八郎	和歌山
獸醫學	獸醫學士 江 本 修	徳島
經濟學(在外研究中)	經濟學士 荒木 光太郎	東京
動物學	竹下 武松	新潟
農學(在外研究中)	農學士 佐々木 喬	鳥取
水産動物學	水産學士 雨宮 育作	東京
農學	農學士 有馬 頼寧	東京
農藝化學	農學士 松山 芳彦	熊本
林學	林學士 沼田 大學	東京
農藝化學(在外研究中)	農學博士 農學士 藪田 貞治郎	滋賀

農藝化學 農學士 川村 一水 高知
 農學 農學士 衣川 義雄 茨城
 獸醫學 獸醫學士 板垣 四郎 山形
 農學 農學士 末松 直次 熊本
 林學(千葉縣演習林勤務) 林學士 牧 俊夫 愛知
 林學 林學士 吉田 正男 東京
 獸醫學 獸醫學士 增井 清 静岡
 農藝化學 農學士 春日井 新一郎 東京
 民法、法學通論 法學士 藤田 俊克 東京
 林學(北海道演習林勤務) 林學士 宮名孝太郎 愛媛
 農學 農學博士 農學士 淺見 與七 岐阜
 授業擔當
 水產動物學、同實驗 助教 理學士 田中 茂穂 高知
 物理化學 助教 理學士 山口 與平 静岡
 教育學 助教 文學士 阿部 重孝 新潟

政治學 講師 助教授 法學士 蠟山 政道 群馬

森林法律學 講師 工學 助教授 法學士 原嘉道 長野

法學演習 法學博士 法學士 清水 澄 北海道

水產植物學、同實驗 理學博士 理學士 岡村 金太郎 東京

機械學 工學士 星野 三郎 福島

高等數學及力學、數學、森林利用學、森林工學、物理學及氣象學、森林土木學、計畫及實習 林學博士 林學士 西垣 晋作 奈良

藥學、調劑法實習(在外研究中) 農學博士 農學士 矢木 久太郎 東京

動物學、同實驗 獸醫學士 田中 丑雄 東京

外科學、外科手術實習 獸醫學士 町田 次郎 埼玉

細菌學、同實習 理學士 松葉 重雄 埼玉

農業經濟、農學演習(在外研究中) 農學博士 農學士 橋本 傳左衛門 埼玉

電氣化學 理學博士 理學士 山崎 甚五郎 東京

特別講義	工學博士 工學士	佐伯勝太郎	山口
漁船論	工學士	春日信市	岐阜
森林管理法、狩獵術	林學士	八戸道雄	佐賀
財政學	法學士	藤井眞信	德島
植物學實驗	理學博士	岡村周諦	和歌山
農業法律	法學士	山田準次郎	愛知
森林動物學應用昆蟲學、動物學實驗	理學士	矢野宗幹	福岡
生物化學各論、蠶絲化學	農學博士 農學士	平塚英吉	山形
養蠶學	農學博士 農學士	石渡繁胤	神奈川
化學實驗	農學博士 農學士	山川洵	東京
<small>動物學實驗、害蟲論 森林動物學</small>	農學士	柴田文平	群馬
森林理水及砂防工學實習	林學士	石井末太郎	千葉
統計學		二階堂保則	新潟
有機化學	農學士	後藤格次	福岡

農產物取引所論	法學士	河合良成	富山
馬學、同實習、蹄鐵學、牧場實習	獸醫學士	內村兵藏	福島
馬學	獸醫學士	南澤時義	長野
<small>森林保護學 造林學、同實習、熱帶林業</small>	林學士	中村賢太郎	三重
解剖學、同實習		大澤竹次郎	岩手
測量學、同實習	農學士	可知貫一	岐阜
<small>パチエラー、チブ、サイエンス、イン、メカニカル、エンジニアリング(ミシガン州立學校)</small>	工學博士	松浦和平	群馬
機械學	農學士	小出滿二	兵庫
農業史、農政學	農學士	田中八郎	京都
製絲論	獸醫學博士 獸醫學士	武藤喜一郎	静岡
藥物學	獸醫學士	三谷五郎	廣島
內科學、內科診療實習	獸醫學士	田村重慶	福島
外科診療實習	法學博士 法學士	青山衆司	東京
商法	經濟學士	長谷田泰三	大阪
經濟學演習			

經濟學演習	經濟學士 小林良正	東京
漁政論	法學士 黑田鴻五	岡山
農業微生物論、植物學實驗	農學士 石山信一	東京
農業倉庫論、農業經濟學、 農學大意、英語、農學演習	農學士 伊藤潤元	富山
牧場實習、農場實習	獸醫學士 增村嘉雄	福井
實科講師		
蹄鐵法實習、家畜管理實習	農學士 兵頭芳太郎	東京
農產製造學、化學	農學士 住江金之	熊本
農業工學	農學士 正村慎三郎	愛知
農業工學	農學士 森周六	鹿兒島
農學實驗	農學士 本間誠	青森
經濟學	農學士 棚橋初太郎	東京
物理學及氣象學、英語實習	農學博士 農學士 杉原清一	岡山
獨逸語	林學士 野宮定茂	東京

農業教員養成所講師

農業教授法、修身、實地授業	農學士 橋村博	佐賀
作物、作物病蟲害、農學實驗、英語	農學士 松田秀雄	長崎
養蠶、作物病蟲害、農學實驗	農學士 柴田文平	群馬
心理及論理	文學士 青木誠四郎	長野
數學	農學士 難波得三	岡山
農具及農業土木、農學實驗	農學士 森周六	鹿兒島
物理氣象、英語	農學博士 農學士 杉原清一	岡山
園藝學	農學士 福田嘉太郎	香川
獸醫學大意	獸醫學士 松葉重雄	埼玉
修身	文學士 神代峻通	宮崎
哲學概論	文學士 大室貞一郎	千葉
教育行政	法學士 伊藤仁吉	福島
化學、農產製造	農學士 佐々木林治郎	岩手

教育學
社會學
實科授業擔任

文學士 鈴木繁藏 北海道
文學士 林惠海 山口

農學
農學
化學實驗
英語

農學士 井上重陽 岩手
農學士 大槻正男 宮城
農學士 片桐英郎 長野
農學士 芝田清吾 德島

農業教員養成所授業擔任
水產學大意
法學大意

水產學士 橫屋猷 岡山
農學士 大槻正男 宮城

第一條 農學部ニ左ノ五學科ヲ置ク

農學科
農藝化學科
林學科

文學士 木繁藏 北海道
文學士 林惠海 山口
文學士 鈴木繁藏 北海道
文學士 大槻正男 宮城
文學士 井上重陽 岩手
文學士 片桐英郎 長野
文學士 芝田清吾 德島
文學士 橫屋猷 岡山
文學士 大槻正男 宮城

獸醫學科
水產學科

第二條 一學年ヲ分チテ左ノ二學期トス
夏學期 四月一日ヨリ十月三十一日ニ至ル
冬學期 十一月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第三條 授業科目ヲ必修科目及選擇科目トス
第四條 各學科ニ於ケル必修科目、選擇科目並ニ其每週授業時間數左ノ如シ

農學科		獸醫學科		水產學科	
第一部		第一部		第一部	
必修科目		必修科目		必修科目	
夏學期		冬學期		夏學期	
應用氣象學	三	農業微生物論	一	水產學大意	四
農林地質學	三	農業動物學	一	法學大意	四
土壤學	三	農業物理學	一	農學大意	四
肥料學	三	應用昆蟲學	一	英語	四
植物生理學	三	栽培汎論	一	農業教員養成所授業擔任	四
植物病理學	四	作物學	三	水產學士	四
		園藝學	三	農學士	四
		畜產學	三	農學士	四
		養蠶學	四	農學士	四
			一	農學士	四

○第十六章 農學部 學科課程

園藝學	三	二
畜產學	三	四
養蠶學	四	二
測量學	二	二
農業工程學	四	三
農業經濟學	二	四
農政學	二	三
比較農業	二	四
農業史	一	二
經濟學	四	一
財政學	四	一
民法	四	一
商法	三	四
農業法律	四	三
經濟學演習	四	四
法學演習	四	四
農學演習	二	二
農政學演習	二	二
測量學演習	二	一
農場實習	二	一
卒業論文	二	二

選擇科目	夏學期	冬學期
政治學	四	三
統計學	一	四
會計學	一	三
農業信用論	二	二
產業組合論	二	二
農業倉庫論	二	二
農產物取引所論	二	二
殖民政策	三	二
熱帶植物	二	一
製絲論	二	一
選擇スヘキ科目ハ三科目以上トス		
農藝化學科		
必修科目	夏學期	冬學期
有機化學	三	三
物理化學	二	二
分析化學	二	二
農林地質學	三	一
植物生理學	四	一
生物化學總論	二	二
生物化學各論	二	二

測量學	二	二
農業工程學	四	二
農業經濟學	二	四
農政學	一	三
比較農業	一	四
經濟學	四	一
法學通論	四	一
植物學實驗	二	一
動物學實驗	二	一
農學實驗	二	一
農學演習	一	一
測量學演習	一	一
農場實習	二	一
卒業論文	二	二
選擇科目		
細菌學及免疫學總論	一	二
蠶體生理學及病理學	一	二
實驗遺傳學	一	二
育種學	一	二
熱帶作物	二	一
造園學	三	一

農業機械	二	二
農業數學	一	二
馬學	二	一
耕地整理	二	一
製絲論	二	一
灌溉排水	二	一
統計學	二	一
民法	四	一
會計學	二	一
農業信用論	二	一
殖民政策	三	一
選擇スヘキ科目ハ五科目以上トス		
第二部		
必修科目	夏學期	冬學期
應用氣象學	三	三
土壤學	三	三
肥料學	三	三
植物病理學	三	三
應用昆蟲學	三	三
栽培汎論	三	三
作物學	三	三

生物化學研究法	二	三	一
土壤學	三	三	三
肥料學	三	三	三
栽培汎論	二	三	三
家畜營養學	二	三	三
醱酵生理學	三	三	三
農産製造學	三	三	三
分析化學實驗	(一)	(一)	(一)
農藝化學實驗	(一)	(一)	(一)
卒業論文	四	三	三
選擇科目	二	二	二
電氣化學	二	二	二
農業物理學	三	三	三
應用氣象學	四	四	四
農業動物學	四	四	四
經濟學	四	四	四
畜産學	二	二	二
家畜飼養學	二	二	二
酪農學	二	二	二
食物化學	三	三	三
養蠶學	四	三	三
蠶絲化學	三	三	三
機械學	三	三	三
細菌學及免疫學總論	三	三	三
農産物利用法	二	二	二
肥料製造學	二	二	二
農業經濟學	二	二	二
特別講義	二	二	二
農藝化學特別實驗	(夏學期)	(夏學期)	(夏學期)
醱酵學實驗	(夏學期)	(夏學期)	(夏學期)
生物化學實驗	(夏學期)	(夏學期)	(夏學期)
選擇スヘキ科目八十科目以上トシ内一科目ハ實驗ヲ	二	二	二
ニルコトヲ要ス	二	二	二
林學科	三	三	三
必修科目	三	三	三
應用氣象學	三	三	三
農林地質學	三	三	三
土壤學	三	三	三
森林化學	四	四	四
植物生理學	四	四	四
森林植物學	四	四	四
高等數學及力學	二	二	二

測量學	三	三	三
測樹學	三	三	三
經濟學	四	四	四
法學通論	四	四	四
林學算法及林業較利學	三	三	三
造林學	三	三	三
森林保護學	三	三	三
森林利用學	三	三	三
森林經理學	三	三	三
森林管理法	三	三	三
林政學	三	三	三
森林土木學	二	二	二
森林理水及砂防工學	三	三	三
林産製造學	二	二	二
森林植物學實驗	二	二	二
測量學實習及製圖	一回	一回	一回
測樹學實習	一回	一回	一回
造林學實習	一回	一回	一回
森林經理學實習	一回	一回	一回
森林理水及砂防工學實習	一回	一回	一回
林産製造學實驗	一回	一回	一回
實地演習	(隨)	(隨)	(隨)
卒業論文	二	二	二
選擇科目	二	二	二
樹病學	三	三	三
森林法律學	三	三	三
森林機械學	三	三	三
有機化學	三	三	三
生物化學總論	二	二	二
分析化學	二	二	二
物理化學	二	二	二
生物化學研究法	二	二	二
森林地文學	二	二	二
森林動物學	二	二	二
熱帶林業	二	二	二
造園學	三	三	三
狩獵術	三	三	三
財政學	四	四	四
農學大意	二	二	二
森林土木學計畫及實習	一回	一回	一回
森林特別講義及實習	一回	一回	一回
森林土木學並森林理水及砂防工學特別實習	一回	一回	一回

○第十六章 農學部 學科課程

森林化學實驗	五回	五回
選擇スヘキ科目ハ六科目以上トシ内一科目ハ林學特別講義及實習森林土木學並森林理水及砂防工學特別實習又ハ森林化學實驗タルコトヲ要ス		
獸醫學科		
必修科目	夏學期	冬學期
解剖學	五	三
組織學	二	一
胎生學	一	一
生理學	四	三
馬學	二	二
蹄鐵學	一	一
寄生動物學	一	一
藥物學	三	三
病理學總論	一	一
細菌學及免疫學總論	一	一
細菌學及免疫學各論	四	二
病理解剖學	三	四
內科學	三	四
外科學	四	五
畜產學	一	一

衛生學	三	三
傳染病學	三	三
產科學	三	三
乳肉衛生	三	三
獸醫警察法及行政法	一	一
解剖學實習	一	一
組織學實習	二	二
胎生學實習	一	一
蹄鐵學實習	一	一
生理學及醫化學實習	五回(二十日)	五回(二十日)
藥物學實習	五回(二十日)	五回(二十日)
外科手術實習	一	一
病理組織學實習	一	一
細菌學及免疫學實習	一	一
牧場實習	(隨)	(隨)
病理解剖學實習	二	二
乳肉檢查法實習	一	一
衛生學實習	一	一
內科診療實習	一	一
外科診療實習	一	一
馬學實習	一	一

○第十六章 農學部 學科課程

卒業論文	夏學期	冬學期
選擇科目		
生物化學總論	二	二
實驗遺傳學	一	一
家畜飼養學	一	一
土壤學	一	一
作物學	一	一
酪農學	一	一
畜產物利用法	一	一
法醫學	一	一
法學通論	一	一
經濟學	一	一
特別講義	一	一
選擇スヘキ科目ハ五科目以上トス		
必修科目	夏學期	冬學期
動物學總論	四	五
水產動物學	四	五
水產植物學	四	五
浮遊生物學	二	三
海洋學	三	三

水質論	二	二
水產學原論	一	一
水產養殖論	二	二
漁撈論	二	二
水產食物論	三	三
水產製造論	三	三
水族生態學	一	一
細菌學及水族病理論	二	二
動物組織學及發生學	二	二
有機化學	三	三
生物化學總論	二	二
冷藏法	二	二
漁政論	二	二
應用氣象學	三	三
機械學	二	二
流船論	一	一
水產學演習	二(二學年間)	二(二學年間)
動物學實驗	三(各一學期間)	三(各一學期間)
植物學實驗	四(各一學期間)	四(各一學期間)
化學實驗	一(各一學期間)	一(各一學期間)
海洋學實驗	二(各一學期間)	二(各一學期間)

實習 (隨時)

生物化學各論 二

卒業論文

水産動物學實驗

六回

選擇科目 夏學期

水産植物學實驗

六回

冬學期

實驗遺傳學

水産化學實驗

六回

經濟學

選擇スヘキ科目ハ三科目以上トシ内一科目ハ實驗タルコトヲ要ス

六回

物理化學

二

二

第五條 學生ハ必修科目及選擇シタル科目ノ外任意ニ本學部ノ授業科目ヲ聽講スルコトヲ得

第三 試驗規程

第一條 必修科目及選擇シタル科目ハ試驗ヲ受クルコトヲ要ス

第二條 試驗ハ同一科目ニ就キ毎年一回トシ十月又ハ三月ニ於テ之ヲ行フ

但シ受持教員ハ教授會ノ議ヲ經テ臨時ニ之ヲ行フコトヲ得

第三條 三學年以上在學シタル學生ハ前條ニ規定セル試驗ノ外六月ニ於テ試驗ヲ受クルコトヲ得

第四條 試驗ハ各科目ニ就キ合格不合格ヲ決ス

試驗ノ成績ハ甲乙丙トシ甲乙ヲ合格トス

第五條 實驗實習及演習ハ受持教員ノ意見ニヨリ試驗ヲ施行セスシテ成績ヲ定ムルコトヲ得

第六條 三學年以上在學シ學科課程第四條ニ規定セル必修科目及選擇シタル科目ノ試驗ニ合格シタルモノヲ卒業者トス

第七條 學生ノ在學期間ハ六學年以上ニ涉ルコトヲ得ス

第八條 休學シタル學年數及轉科前ノ在學年數ハ第三條第六條及第七條ニ規定セル在學年數ニ之ヲ算入セス

附 則

本規程ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本規程施行前ニ入學シタル學生ニ對シテハ舊規程ヲ適用ス

第四 農學部實科規則

○第十六章 農學部 試驗規程 農學部實科規則

第一條 農學部ニ左ノ實科ヲ置ク

農學實科
林學實科
獸醫學實科

第二條 各實科ノ修業期間ハ三學年トス

第三條 一學年ヲ分チテ左ノ二學期トス

夏學期四月一日ヨリ十月三十一日ニ至ル

冬學期十一月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第四條 各實科ニ於ケル授業科目並ニ其ノ每週授業時間數ハ左ノ如シ

農學實科學科課程	
第一年	夏學期 冬學期
植物學	二 二
化學	二 二
物理學及氣象學	三 二
地質學	三 三
動物學	三 三
土壤學	三 三
肥料學	三 三
作物學	三 三

農學部實科學科課程	
第一年	夏學期 冬學期
園藝學	三 三
畜產學	二 二
農產製造學	二 二
農業經濟學	三 三
農政學	三 三
獸醫學大意	一 一
林學大意	二 二
化學實驗	二 二
農學實驗	一 一
農場實習	一 一
農學演習	一 一
林學實科學科課程	
第一年	夏學期 冬學期
物理學及氣象學	二 二
地質學及土壤學	三 三
化學	二 二
植物學	二 二
數學	二 二
森林測量學	三 三
測樹學	三 三

畜産學	二	一	二	二	二	二	二	二	二
家畜飼養學	一	一	一	一	一	一	一	一	一
畜産物利用法	一	一	一	一	一	一	一	一	一
林學大意	一	一	一	一	一	一	一	一	一
法學大意	一	一	一	一	一	一	一	一	一
經濟學	一	一	一	一	一	一	一	一	一
細菌學實習	二	二	二	二	二	二	二	二	二
衛生學實習	一	一	一	一	一	一	一	一	一
乳肉検査法實習	一	一	一	一	一	一	一	一	一
内科診療實習	一	一	一	一	一	一	一	一	一
外科診療實習	一	一	一	一	一	一	一	一	一
馬學實習	一	一	一	一	一	一	一	一	一

外國人ニシテ特ニ入學ヲ許可セラレタル者ハ本條ノ授業科目中英語若クハ獨逸語ヲ學修セサルコトヲ得

第五條 農學實科ニ於テハ七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル期間農場實習ヲ課ス

第二 入學規程

第六條 各實科第一學年ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ入學試験ニ合格シタル者トス

- 一、中學校ヲ卒業シタル者
- 二、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
- 三、專門學校入學者檢定規程ニ依リ指定セラレタル學校ヲ卒業シ

第七條 農學實科ニ入學ヲ許可スヘキ者ノ約三分一ハ耕地十町步若クハ山林原野二十町步以上ヲ所有スル者又ハ其ノ子弟ヨリ之ヲ選拔ス

第八條 入學試験ハ左ノ學科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

- 作文
- 算術
- 代數
- 幾何
- 三角
- 動物學
- 植物學
- 物理學
- 化學
- 英語
- 英文和譯

第九條 入學志願者ニハ身體檢査ヲ行フ

第十條 入學志願者ハ別ニ定メタル書式ニ依リ入學願書ヲ差出スヘシ

第十一條 入學志願者ハ試験手数料トシテ金五圓ヲ納付スヘシ

○第十六章 農學部 農學部實科規則

第十三條 入學ヲ許可セラレタル者ハ保證人二人ヨリ所定ノ在學證書ヲ差出スヘシ
保證人ノ中一人ハ父兄(父兄ナキ者ハ親戚他ノ一人ハ東京府内ニ住所ヲ有スル市町村公民タルコトヲ要ス但シ農學部長ニ於テ適當ト認めタル者ハ此ノ限ニ在ラス)

第十四條 保證人死亡シ若クハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ在學證書ヲ差出スヘシ

第三 試驗規程

第十五條 試驗ハ學期及學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第十六條 試驗ノ成績ハ評點ヲ以テ之ヲ示シ百點ヲ滿點トス

第十七條 實驗實習及演習ハ受持教員ノ意見ニ依リ試驗ヲ施行セヌシテ成績ヲ定ムルコトヲ得

第十八條 各科目ニ對スル學期試驗ノ平均點數ト學年試驗點數トノ和ヲ二分シタルモノヲ各科目ノ學年點數トス

第十九條 各科目ノ學年點數ノ和ヲ科目數ニテ除シタルモノヲ學年平均點數トス

均點數トス

但シ農學實科ノ學年平均點數ハ農場實習以外ノ諸科目ノ學年點數ノ平均數ニ四ヲ乘シ農場實習ノ學年點數ヲ加ヘ五ヲ以テ除シタルモノトス

第二十條 各科目ノ學年點數五十以上及學年平均點數六十以上ヲ得タル者ヲ合格シタル者トス

第二十一條 學年試驗ニ缺席シタル者ハ零點ヲ附スルモ但シ病氣其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ學年試驗ニ缺席シタル者ハ教授會ノ決議ヲ經テ次學年ノ始ニ於テ特ニ試驗ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十二條 同一學年ニ於テ合格セサルコト二回ニ及フ者ハ之ヲ除籍ス

第二十三條 生徒ノ席次ハ五十音順ニ依ル

第四 授業料

第二十四條 授業料ハ一學年金六拾圓トシ左ノ二期ニ分チテ之ヲ徵收

右之通り相違無之候也

右

年月日

何モ又ハ

第五 農學部蹄鐵術傳習規則

第一條 蹄鐵ヲ實地ニ就キ修メント欲スル者ノ爲ニ蹄鐵術傳習生若干名ヲ置ク

第二條 傳習生ハ蹄鐵工場ニ於テ執業スルモノトス

第三條 傳習生タラント欲スル者ハ年齢滿十七歳以上ニシテ品行方正身體健全實地ノ勞働ニ堪ヘ左ノ資格ヲ有スルモノニ限ル

獸醫開業免狀ヲ所持スル者又ハ府縣立獸醫學校若クハ農學校獸醫科卒業ノ者
但府縣知事、郡市町村長、官立牧場長等ヨリ其地方ノ狀況ヲ具シ特

ニ照會アル者ハ本文ノ資格ヲ有セサルモ傳習生タルコトヲ許ス

コトアルベシ

第四條 傳習ノ年限ハ一年トス

第五條 傳習生タラント欲スル者ハ第一號書式ノ願書ニ履歷書卒業證書開業

免狀有スヲ添ヘ差出スヘシ

第六條 傳習生ノ許可ヲ得タル者ハ正副保證人ヨリ第二號書式ノ保證

書ヲ差出スヘシ

第七條 正副保證人ハ丁年以上ニシテ東京府内ニ於テ一家計ヲ立ツル

者又ハ本學ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

第八條 保證人又ハ副保證人死去若クハ他府縣ニ轉住セルトキハ直ニ

之ヲ換ヘ更ニ保證書ヲ書改ムヘシ

第九條 但保證人又ハ副保證人旅行セントスルトキハ豫メ相當ノ代理者ヲ

立テ届出ツヘシ

第十條 本學部ニ於テ正副保證人又ハ代理者ヲ不充分ト認ムルトキハ

第十條 授業料ハ之ヲ徴收セス

第十一條 實習ノ爲メ使用スル材料ハ場合ニ依リ自辨セシムルコトアルヘシ

第十二條 執業中ハ總テ掛員ノ指揮ニ從フヘシ

第十三條 疾病其他事故アリテ執業スル能ハサルトキハ始業時刻前其旨掛員ニ届出ツヘシ

第十四條 怠惰ニシテ上達ノ見込ナキ者品行不良ノ者又ハ屢缺業スル者ハ之ヲ除名スル

第十五條 傳習滿期ニ至リ熟練ノ成績アル者ニハ證明狀ヲ與フ但傳習期限内ト雖モ其熟練ノ成績アル者ニハ特ニ證明狀ヲ與フルコトアルヘシ

第一號書式

傳習願書

某儀蹄鐵術傳習志願ニ付御許可相成度別紙履歷書相添此段奉願候也

現住所

本籍族(戸主ナラズハ何某男或ハ弟等)

年月日

何

某 印

農學部長何某殿

第二號書式

保證書

宿所

本籍族(戸主ナラズハ何某男或ハ弟等)

何

某

生年月日

右ノ者今般貴學ニ於テ蹄鐵術傳習御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク爲相守可申且傳習中本人ニ係ル一切ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申候右保證致候也
但向後私共宿所移轉或ハ印章相改候節ハ速ニ御届可致候也

宿所

年月日 何 某 印

本籍族

副保證人

何 某 印

生年月日

農學部長何某殿

第六 農學部農業實地見習蠶業實地見習

林業實地見習規則

第一條 農業蠶業若クハ林業ヲ實地ニ就キ修メント欲スル者ノ爲メニ 農業實地見習蠶業實地見習林業實地見習ヲ置キ若干名宛之ヲ許ス

第二條 農業實地見習ハ農場ニ於テ蠶業實地見習ハ養蠶室若クハ桑園

ニ於テ林業實地見習ハ實習地若クハ演習林ニ於テ執業スルモノトス

第三條 農業實地見習蠶業實地見習林業實地見習タラント欲スル者ハ 年齢滿十七歳以上ニシテ品行方正身體健全實地ノ勞働ニ堪ユル者ニ 限ル尤出願者中ニ就キ讀書算術ノ簡易ナル試験ヲ行フコトアルヘシ

第四條 農業實地見習蠶業實地見習林業實地見習ノ年限ハ二ケ年トス

第五條 前諸條ノ外ハ農學部蹄鐵術傳習規則ニ據ル

第七 農業教員養成所規則

第一條 本所ハ農業學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條 修業年限ハ三年トス

第三條 授業料ハ之ヲ徴收セス

第四條 學年ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ分チテ左ノ二學期トス

夏學期 四月一日ヨリ十月三十一日ニ至ル

○第十六章 農學部 農學部農業實地見習蠶業實地見習 林業實地見習規則

冬學期 十一月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第六條 學科課程左ノ如シ

第一學年		第二學年	
夏學期	冬學期	夏學期	冬學期
農學實驗	一回	農學實驗	一回
農場實習	二	農場實習	二
修身	一時	修身	一時
心理及論理	二	心理及論理	二
數學	二	數學	二
物理及氣象	一	物理及氣象	一
化學	三	化學	三
植物學	二	植物學	二
動物學	二	動物學	二
地質及土壤	三	地質及土壤	三
肥料	一	肥料	一
作物病蟲害	二	作物病蟲害	二
經濟學	二	經濟學	二
英語	三	英語	三
體操	一	體操	一
農學實驗	二	農學實驗	二
農場實習	二	農場實習	二
修身	一時	修身	一時
農業教授法	二	農業教授法	二
化學	二	化學	二
作物病蟲害	三	作物病蟲害	三
畜產	三	畜產	三
養蠶	二	養蠶	二
農產製造	二	農產製造	二
農業經濟	二	農業經濟	二
法學大意	二	法學大意	二
英語	三	英語	三
體操	一	體操	一
家畜飼養及食物化學	二	家畜飼養及食物化學	二
農業工學	二	農業工學	二
農政	二	農政	二
林學大意	三	林學大意	三
水產學大意	一	水產學大意	一
獸醫學大意	二	獸醫學大意	二
英語	三	英語	三
體操	一	體操	一
農學實驗	一	農學實驗	一
農場實習	二	農場實習	二
農藝化學實驗	一	農藝化學實驗	一
實地授業	二	實地授業	二
研究報告	一	研究報告	一

第十六章 農學部 農學教員養成所規則

農學實驗 一回
 農藝化學實驗 一回
 農場實習 二
 實地授業 一

第三學年

夏學期 每週 一時
 冬學期 每週 一時
 修身 一時
 農業教授法 一
 教育行政 一
 哲學概論 三
 社會學 三
 園藝 三

第七條 夏期休業ヲ爲サス七月十一日ヨリ九月十日マテハ專ラ農場實習ヲ課ス但シ實習ノ都合ニ依リ臨時休業スルコトアルヘシ

第八條 本所ニ入學ヲ許スヘキ者ハ身體健全品行方正學中家事ニ係累ナク農業學校教員タルノ志望確實ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ入學期マテニ一年以上教職ニ在リタル者ニシテ地方長官ノ薦舉ニ係ル

モノトス但シ第一號及第二號ニ在リテハ在學中農業ヲ修メタル者ニ限ル

一、師範學校卒業者

二、中學校卒業者

三、尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年以上ノ農業學校若ハ之ト同程度ノ農業學校ヲ卒業シタル者

第九條 應募者豫定人員ニ超過シタルトキハ左ノ學科目ノ全部若ハ一部ニ付師範學校卒業ノ程度ニ依リ選抜試験ヲ行フ

國語及漢文 英語(譯解) 數學(算術、代數、幾何) 物理及化學 博物(動物、植物、礦物、生理) 農業 教育

第十條 入學志願者ニハ身體検査ヲ行フ但シ身體検査書ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

第十一條 入學志願者ハ左式ノ願書ヲ差出スヘシ

某儀貴學部附屬農業教員養成所ニ入學志願ニ付御許可相成度別紙

入學願書

現住所

某印(姓名ニハ假名ニハ附スヘシ)

生年月日

東京帝國大學農學部長何某殿

職

業(卒業證書寫添附)

兵 役

賞 罰

右ノ通相違無之候也

右

年 月 日

何

某印

第十二條 入學ヲ許可セラレタル者ハ保證人二人ヲ定メテ所定ノ在學證書ヲ差出スヘシ

保證人ノ中一人ハ父兄(父兄無キ者ハ親戚)一人ハ東京府内ニ住所ヲ有スル市町村公民タルコトヲ要ス但レ農學部長ニ於テ適當ト認メタル者ハ此ノ限ニアラス

第十三條 保證人死亡シ若ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ在學證書ヲ差出スヘシ

第十四條 試験ハ每學期ノ終ニ於テ之ヲ行フ但シ實驗實習及實地授業ニ付テハ教官ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第十五條 各學科目ノ成績ハ百點ヲ以テ滿點トス

第十六條 學年成績ハ各學期ノ成績ヲ平均シタルモノトス

第十七條 各學科目ノ學年成績五十點以上及全學科目ノ平均成績六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トス

第十八條 病氣其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ試験ニ缺席シタル者ニ

ハ次學期ノ始ニ於テ特ニ試験ヲ行フコトアルヘシ

第十九條 休學ハ同一學年ニ在ル間ハ一回ニ限り許可スルモノトス

第二十條 兵役ニ服スル者服役期間一年以内ナルトキハ其ノ間休學シ

滿期後直ニ元ノ學年ニ復スルコトヲ得

第二十一條 本所ニ研究科ヲ置キ修業年限ヲ一年トス但シ研究ノ必要ニ依リ在學延期ヲ願出ツルトキハ更ニ一年以内之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十二條 研究科ニハ本所卒業業者ニシテ既習ノ學科目ニ付尙研究セ

ント欲スル者ニ限り入學ヲ許ス

第二十三條 研究科生徒ハ指導教官ニ就キテ研究スルモノトス但シ研究上必要ト認ムル學科目ニ付テハ特ニ授業ヲ課ス

第二十四條 研究科生徒ノ研究及授業ノ時數ハ每週十八時ヲ下ラサルモノトス

第二十五條 研究科生徒研究ヲ終リタルトキハ報告書ヲ提出セシメ成

續考査ノ上修了證明書ヲ授與ス
第二十六條 本則ニ掲ケサルモノハ學部通則ニ依ル

第八 農場、苗圃、植物園等

農場ノ面積ハ田畑合計十五町步餘アリ分テ實習地、試驗地、作物見本園、園藝見本園及經濟農場見本地トス而シテ場内ニ實習室、農具室、種子室、肥料室、農産製造室、養蠶室、收納舍又家畜家禽舍等之ニ要スル建物アリ實習地ハ學生生徒ヲシテ農業諸操作及農場管理ヲ收得セシムル所トス
試驗地ハ作物ニ於ケル教官ノ研究及學生生徒ノ實驗ヲナス所トス
作物見本園ニハ普通作物、工藝作物、牧草等之レカ見本作物ヲ栽培ス
園藝見本園ニハ果樹、蔬菜、庭園木等之レカ見本植物ヲ栽培ス
經濟農場見本地ハ之ヲ分テ二區トナス本學ノ指示スル事項ヲ遵守スル
二戸ノ農家ヲ住ハシメ該地所及關係家屋ヲ貸與シ以テ農家經濟應用試驗ノ用ニ供ス

農藝化學科試驗田圃ハ明治十八年ノ頃始メテ端緒ヲ開キ二十二年ノ頃ヨリワグネル氏ノ法式ニ從ヒ金屬ノ圓筒若クハ木框ヲ用ヒテ專ラ科學的研究ヲ施行スルニ至レリ研究ノ目的固ヨリ一ナラスト雖モ主トシテ植物榮養肥料土壤成分鑛毒各種作物ノ品質ト榮養分トノ關係等ノ研究ニシテ作物ハ土中ニ堆メタル木框及亞鉛製圓筒内ニ於テ務メテ天然ノ状態ニ倣ヒ栽培シ之ニ用フル圃土ノ如キハ其選擇極メテ精密ヲ要トセリ又試驗ニ用フル榮養分ハ多クハ純粹ノ化學用品ニシテ間、人造肥料ヲ混用ス是等ハ皆豫メ分析シ量ヲ定メテ之ヲ施スカ故ニ一般農耕ノ方法トハ特ニ異ナルコト多シト雖モ要ハ普通汎用ノ原理ヲ攻究シテ實際ノ應用ニ資セント欲スルニ在リ而シテ試驗ノ繼續ヲ要スルモノハ既ニ廿七年乃至三十四年ノ星霜ヲ經タルモノ尠カラス又別ニ玻璃室ヲ設ケ專ラ精密ナル水耕試驗ヲ施シ或ハワグネル氏培養器ヲ用ヒテ植物榮養ニ關スル諸般ノ研究ヲ施行ス蓋シ水田及陸圃ニ在リテハ多少塵埃ノ混入スル虞アルヲ以テ特ニ精確ヲ要スルモノハ皆此室内ニ於テ之ヲ施行ス林木苗圃ハ其面積凡二町步ニシテ學生生徒ノ造林學實習ノ用ニ供シ

又内外國産各種ノ樹苗ヲ造リ播種及生育上ノ試験ヲ爲ス目下内外國産樹種併セテ數百種ヲ存ス
 林木見本園ハ内外國産有用樹木ヲ植栽シ造林學並ニ森林植物學實習ノ用ニ供ス其面積一町四反歩ニシテ目下内國産樹種百四十餘種外國産樹種六十餘種ヲ存ス
 植物園ハ其面積一町八反一畝歩ヲ有ス之ヲ樹木植物園ト草木植物園トノ二部ニ大別ス樹木植物園ハ本邦産ノ樹木大約五百種ヲ列植ス又植物學教室ノ背後ニ三反歩ノ鉢置場アリ此ニ並ヒテ草本植物園三反八畝二十歩ト植物試植地一反二畝十歩トアリ猶ホ鉢置場ニハ珍奇植物凡六百種ヲ蓄フ別ニ梅園凡五畝歩アリテ梅樹六十種ヲ培養ス又一ノ唐窖ト一ノ穴室トノ設ケアルモ不完全ニシテ暖地産ノ植物ヲ充分培養保育スルニ足ラス

第九、實驗室、列品室等
 農學科實驗室ハ農學科學生生徒ヲシテ作物、園藝、畜産其他農學ニ關スル

實驗ヲ爲サシムル所トス
 農學科金網室ハ其室ニ連接構造スル木室ト相俟テ一ハ鳥害ヲ防キ一ハ雨水風害ヲ避ケ細密ナル作物試驗ノ用ニ供ス
 農學科温室ハ高溫ヲ要スル作物及園藝植物ノ栽培並諸種作物ノ生育促進等ノ實驗ニ供ス
 農藝化學實驗室ハ農藝化學科學生生徒ヲシテ定量分析ヲ實習セシムル處ニシテ土壤ノ器械分析日常ノ食物、茶、酒、葡萄酒、麥酒、牛乳、醬油、飲用水、灌溉水等ノ定量分析、水耕法、酒母、微菌類ノ純粹培養重要ナル農産物ノ製造動物飼料中ニ含有セル各成分ノ消化率並榮養率ノ檢定等ニ要スル器械及裝置ヲ具備ス
 林産物實驗所ハ林産物ニ關スル諸種ノ研究ヲ爲シ並學生生徒ヲシテ之ヲ實驗セシムル處ニシテ木材乾溜器、樟腦蒸溜器、木材強度試驗器等ヲ設備シ又化學實驗ノ裝置ヲ爲ス
 農學科列品室ニハ穀菽、果實、蔬菜類、種實、酒精浸品、石膏模型、蠟模型、圖畫工藝作物並製造品、園藝上ノ標本ヨリ養畜、養蠶、製絲此他和洋農具等ノ諸標

本ニ至ルマデ部ヲ定メ類ヲ分チ之ヲ陳列ス而シテ該標本ハ從來既ニ蒐集セルモノノ外内外國博覽會等ニ於テ購入若クハ交換セシモノ及他ノ寄贈ニ係ルモノ等ヲ合セ其數頗ル多シト雖モ今後益々蒐集シテ整備セシメントス

林學科列品室ニハ林業用具ニ在リテハ内外諸國ニ用フルトコロノ各種ノ伐木運材植樹等ノ器具器械及圖畫寫真等合セテ數百點ヲ備ヘアリ以テ森林利用學及造林學講習ノ用ニ供シ又木材標本ニ在テハ内外著名ノ產地ヨリ蒐集シタルモノ數百種アリ其他森林樹木ノ種子、腊葉、各種ノ木炭及其副產物、樹脂、澱粉等ヲ集メテ實習ノ用ニ供ス

水產化學實驗室ハ水產學科學生ヲシテ定量分析ヲ實習セシムルトコロニシテ淡海水、水產物及水產製造品ニ關スル化學的研究ニ要スル諸般ノ器械ヲ具備ス

水產動物學實驗室ハ水產學科學生ヲシテ水產動物學海洋學及漁撈養殖ニ關スル實驗ヲナサシムル所トシ教授上及實驗上ノ參考トシテ斯學ニ關スル標本圖畫等ヲ備フ

水產植物學實驗室ハ水產學科學生ヲシテ水產植物學、細菌學ニ關スル實驗ヲナサシムル所トス

動物學實驗室ハ農學科及林學科學生生徒ヲシテ動物學及昆蟲學ノ實驗ヲナサシムル所トス而シテ動物學教授上ノ參考及試驗用トシテ採集或ハ購入シ本室ニ備ヘタル腊蟲ハ其數大約本邦産ニ於テ一萬有餘種外國産ニ於テ一千有餘種其他本學ニ於テ試育シタル有害及有益蟲類ノ標本トナシタルモノ五百有餘種内外國ノ蠶繭三百有餘類ヲ有セリ

動物學科列品室ハ動物學並水產動物學ニ關係アル標本類ヲ陳列ス

養蟲室ハ主トシテ田圃果樹其他森林ニ關係アル昆蟲ヲ飼育シ水中飼育池ハ水棲昆蟲ヲ飼育スル處ニシテ發育ノ經過習性等ヲ調査シ其害益如何ヲ鑑ミ彼ヲ驅除シ是ヲ蕃殖保護スルノ方法ヲ講スルヲ以テ本旨トス

加之昆蟲學ノ講義及實驗上必要ナル材料並標本ヲ製作スルヲ以テ目的トス昆蟲ヲ飼育スルニ當テハ卵子、幼蟲、蛹等ヲ蒐集シ幼蟲ノ嗜好スル植物ヲ選擇シテ之ニ給與シ其發育ヲ全カラシムルカ爲メ各種ノ育蟲箱ヲ作り養蟲室内ニ配置ス

養蠶室ハ木造ニシテ平屋及二階造ノ二種トシ學生練習及試験的育蠶ノ用ニ供スルモノニシテ之ヲ九部屋ニ區分ス又養蠶室ニハ職員學生宿直室桑切場上簇室貯桑室物置等ヲ附屬ス蠶病研究室ハ木骨煉瓦造ニシテ歐洲蠶室ヲ模擬シ專ラ蠶兒ノ病理ヲ研究ス蠶病ノ豫防撲滅ノ方法ヲ攻究シ且蠶具蠶室等ヲ消毒スルノ方法ヲ試験スルノ用ニ供シ或ハ蠶室內換氣ノ方法育蠶溫度ノ高低試験ヲ實行スル所トス

溫室ハ蠶兒其他ノ昆蟲類ノ加溫飼育ノ試験ヲ施行スル所ニシテ傍ラ桑樹育成ノ試験ヲナシ冬期ノ育蠶試験ニ供スルモノナリ

植物學實驗室ハ農學科及林學科學生生徒ヲシテ植物學及植物病理學ノ實驗ヲ爲サシムル所トス本室ニハ講習上參考ノ爲メ森林植物ノ腊葉數百種及植物病體標本若干點ヲ備フ

獸醫學科ニ於テハ解剖學組織學蹄鐵法ノ實驗室アリ皆該科學生生徒ノ實習ニ供ス

獸醫學標本ハ之ヲ解剖學蹄鐵法衛生學病理學ノ四類トシ學生生徒ノ學

術及實驗上ノ參考ニ資スルモノニシテ各其教室若クハ實驗室ニ分屬ス而シテ解剖學ニ屬スルモノハ馬體內臟蹄五官器等ノ模型ニシテ外國製ニ係ルモノ及各家畜ノ骨格解剖圖譜酒精浸及乾燥標本模型等ニシテ教官ノ工案調製ニ係ルモノ是ナリ其最主要ナルモノハ頭骨色分靱帶筋肉附着點內臟內耳動脈神經四肢切斷面四肢局所解剖等ノ標本ニシテ外國ニ於テモ尙未タ調製セラレサル斬新有益ノ標本ニ乏シカラス蹄鐵法ニ屬スルモノハ肢勢蹄形及步樣ノ說明ニ要スル圖譜現時歐米各國及支那朝鮮ニ於テ用ヒラルル普通蹄鐵變蹄用蹄鐵氷上蹄鐵及本那ニ於ケル變蹄標本ヲ合セテ凡二百餘種其他教官ノ調製ニ係ル古代ヨリ今世ニ至ル各國蹄鐵ノ沿革標本若干ヲ備フ衛生學ニ屬スルモノハ家畜飼料藥品植物園ノ三ニ分チ家畜飼料ニ在テハ穀類牧草種子及牧草ノ諸標本總テ二百十餘種藥品ニ在テハ各種藥物ノ標本八十餘種植物園ニ在テハ之ヲ二區ニ分割シ一ヲ牧草園一ヲ藥草園トシ各自自然分科ニヨリテ區別シ和種及洋種牧草普通有毒植物及藥用植物ヲ栽培ス病理學ニ在テハ各種傳染病畸形新生各系統ノ病的臟器等本邦家畜ニ多キ病的標品ハ率ネ之ヲ

網羅ス其數凡百餘種寄生動物標本六十餘種其他畜産學上ノ參考ニ資ス
 ヘキ各種蕪秣摸範厩著名ノ牛馬模型圖畫等若干ヲ有ス
 第十 家畜病院 家畜病院ハ農學部構内ニ在リ臨床講義及學術實驗ニ須要ナル患者ヲ入
 院セシム
 病院ヲ分チ甲乙丙ノ三舎トナス甲號ハ大動物^{馬牛}ノ病舎ニシテ内科患者
 八頭外科患者十二頭合計二十頭ノ患者ヲ容ルルノ裝置ヲ爲シ診察所及
 手術場之ニ附屬ス乙號ハ小動物^{羊豚犬}ノ病舎ニシテ診察所手術場及内
 外科病室ニ區分シ四十頭ノ患者ヲ入ルルニ足ル丙號ハ特ニ構内隔離セ
 ル場所ニ設ケ傳染病畜ヲ容ルル所トス
 診察及治療用ノ裝置ハ内外科産科眼科齒科蹄病科等ニ必要ノ諸器械ヲ
 網羅シ顯微鏡檢眼鏡鼻喉頭鏡檢尿器烙白金電氣治療器械消毒裝置絶菌
 的外科器械等ニ至ルマテ各科須要ノ器械ヲ備フ
 外來診察ハ日曜日及休業日ノ外毎日之ヲ行ヒ其時間ハ午前十時ヨリ正

午十二時マテトス但臨時急病等ハ時間外ト雖モ診察スルモ入トス入院
 患者ノ費用ハ大動物ト小動物トニヨリテ差異アリ
 病症ニ由リ特別ノ保護ヲ加ヘ成規入院料外ノ費用ヲ要スルトキハ持主
 ヲシテ之ヲ負擔セシム
 學術授業上特ニ必要ノ患者ニシテ其持主貧困ナル者ニ限り治療上一切
 ノ費用若クハ其幾分ヲ免除スルコトアリ
 患者ノ往診ヲ請フ者アルトキハ本學ニ於テ支障ナキ限りハ之ニ應ス但
 往診ニ要スル實費ハ患者ノ持主ヲシテ負擔セシム
 蹄鐵ヲ依頼スル者アルトキハ之ニ應ス但其費用ハ持主ヨリ之ヲ徴收ス
 第十一 六郷果樹園 從來農學部構内ニ果樹園ノ設アリシモ土質其栽植ニ適セス明治二十六
 年神奈川縣橘樹郡大師河原ニ於テ一町四反歩ノ地ヲ購入シテ果樹ヲ栽
 培シ及見本園トナセシカ近年六郷川ノ流域ニ變更ヲ來シ爲メニ屢水害
 ヲ被リ充分ノ成績ヲ驗シ能ハサルノ憾アリ依テ三十二年更ニ東京府下

荏原郡六鄉村大字八幡塚ニ於テ一町二反歩餘ノ地ヲ購入シ舊園ニ存セシモノヲ移植シ尙新種類ノ栽植ヲナセリ

農學部附屬演習林ハ總テ十ヶ所ニシテ内東京府下ニ二ヶ所千葉縣下、埼玉縣下、愛知縣下、北海道、臺灣及樺太ニ各一ヶ所朝鮮ニ二ヶ所アリ面積通計約十六萬七千町歩ヲ有ス

東京府下ニ在ルモノハ明治三十五年民地ノ購入ニ依リ設置セルモノニシテ府下豊多摩郡代々幡町大字代々木ニ約四町歩及北多摩郡府中町ニ約十三町歩トス前者ニハ内外國產重要樹木約七十種ヲ以テ各五畝乃至一反歩ノ見本林ヲ造成シ後者ニハ杉及松ヲ主トシテ其他内外國重要樹木十一種ノ小規模造林ヲ施行シ以テ林木ノ造成撫育並生長ニ關スル試驗ヲ行ヒ傍ラ學生生徒ノ實習ニ供スルコトトセリ

千葉縣演習林ハ面積約二千三百町歩房總ノ國界ニ依リテ清澄及奥山山林ノ二部ニ分タル清澄山林ハ面積約三百二十八町歩安房郡天津町大字

清澄ニ在リ明治二十七年國有林ノ移管ニ依リ初メテ設置セラレタルモノニシテ本學演習林ノ嚆矢タリ此ノ地ハ太平洋岸ヲ距ルコト一里有餘氣候溫暖地勢錯雜ニシテ各種樹木ノ生育ニ好適シ且ツ本學部ヨリノ交通比較的便利ナルヲ以テ演習林トシテ頗ル適當ノ地域ト謂フヲ得ヘシ然レトモ其面積狭少ニシテ完全ナル施業實習ノ用ニ適セサルヲ以テ明治三十年ニ至リ本山林ニ連續セル上總國君津郡龜山村所在奥山國有林ノ内約一千八百三十七町歩ノ交付ヲ受ケ尙其後數次小面積ノ交付若クハ購入ニ依リ今日ノ本演習林ヲ形成セシモノナリ

本林ハ常綠闊葉樹帶ノ北部ニ屬シ固有樹種トシテハかし、しひ、ひさかき、こなら等ヲ初メ七十有餘種ノ常綠並落葉闊葉樹トもみ、つが、かや及まつ類等ノ針葉樹ヲ産ス而シテ其林相ハ大部分前記ノ針葉樹ヲ上木トシ闊葉樹ヲ下木トスル中林ノ状態ヲナセトモ往古ヨリ利用殖林ノ途開ケタリシヲ以テ人工ニ依レル杉林モ亦少ナカラス而シテ明治三十八年施業案ヲ編製シ漸次之ヲ杉、扁柏ノ喬林ニ變更スルノ方針ヲ以テ經營スルコトトナリタレハ其林相ハ年ト共ニ改良セラレツツアリ又本林ハ上述ノ

方針ニ依リ本邦林業上ノ模範林タラシメシムコトヲ期スト雖モ面積未タ充分ナラス從ツテ模範林トシテ完全ヲ期スルヲ得サルハ甚タ遺憾トスル所ナリ然レトモ學術ノ研究並ニ學生生徒ノ實習ニ資スヘキ設備ニ至リテハカメテ之ヲ完全セシメシムコトヲ期シ既ニ之ヲ實施セシモノ少シトセス即チ其主要ナルモノヲ舉クレハ清澄山林字淺間山面積約四町歩ハ古來斧鉞ノ入ラサリシ所ニシテ本演習林内ニ於テ此ノ地固有ノ林相ヲ保有スル唯一ノ地區トス依リテ之ヲ禁伐林トナシ永ク現狀ヲ維持セシメテ林學上ノ參考ニ資スルコトトセリ又本山林内ニ於テ見本林約十三町歩ヲ設定シ内外國産樹木數十種ノ各單純林ヲ構成シ以テ其林業的性質ヲ研究スルノ用ニ供セリ此ノ他各地ニ於テ製炭乾溜試驗ヲ爲シ木炭醋酸石灰木精等ノ製造ヲ研究シ字小屋ケ尾ニ椎茸栽培所ヲ設ケテ椎茸ノ人工栽培法ニ關スル研究ノ用ニ供セリ明治三十二年本林内ニ派出所ヲ建設シ同時ニ演習ニ從事スル學生及生徒ヲ宿泊セシメシムガタメ清澄ニ寄宿舍ヲ新設セリ同三十六年標本室ヲ設ケ又派出所ノ傍ニ氣候觀測ニ關スル設備ヲナシ日々之レカ觀測ヲ施行スルコトトセリ四十一年

奥山山林ノ西部字郷臺ニ大正三年同東部ニ寄宿舍ヲ建設セリ又四十二年清澄山林字切通南澤ノ一部ニ故松野礪氏記念林ヲ設定セリ是同氏ノ本邦林學上ニ於ケル功績ヲ後世ニ傳ヘシムガタメ東京農林學校並本學部林學科同實科出身者及其他有志者ノ寄附ニ係ルモノナリ大正二年宇足谷ニ一區ヲ劃シ溪口ヲ扼シテ石堰堤ヲ設ケ自記檢潮器ヲ裝置シ林相ノ變化ト治水トノ關係ヲ調査シ森林治水上ノ試驗ヲ爲シツ、アリ北海道演習林ハ概測面積二萬九千三百町歩ニシテ石狩國空知郡空知川ノ上流右岸ニ位シ西ヨリ東ニ亘リテ略ホ長方形ヲナス本林ハ明治三十二年國有林ノ交付ヲ受ケテ設置セラレタルモノニシテ後大正二年ニ至リ更ニ該森林ノ北方ニ連續セルフレベツ國有林約四百十七町歩ノ交付ヲ受ケ又大正十一年西達布川ノ水源ニ當レル約二千五百五十四町歩ノ國有林ヲ購入シ以テ現在ノ地域ヲ成セリ本林設置ノ當時ハ全部全斧鉞ヲ加ヘタルコトナキ原生林ニシテ河川溪谷ニ沿ヘル低地ニハ多ク濶葉樹ヲ生シ山腹ヲ登ルニ從ヒ漸次針葉樹ノ純林トナリ其最高點ニ於テハ偃松ヲ生ス樹種ノ主要ナルモノハ椴松蝦夷松ノ二針葉樹ニシテなら

かつら、ほほのき、しなのき、いたやかへで、はりぎり、やちだも、しらかば等の
 潤葉樹良幹ヲ成シテ諸所ニ混生セリ明治三十四年上富良野村宇下富良
 野ニ派出所ヲ設置シ大正三年同村山部ニ派出所ヲ移轉シ以テ今日ニ至
 リ夙ニ管理者ヲ派遣シテ施業上ノ豫備的調査及設備ヲ爲サシメ明治四
 十年初メテ施業案ヲ編製シ爾來該案ニ據リ漸次森林ノ整理改良ヲ施行
 シ其他内外國樹種ノ造林試験木材乾溜試験本道産重要林木ニ關スル諸
 種ノ研究等ヲ爲シ又林道ヲ開キ軌道ヲ布設シテ運材ノ便ニ供シ且防火
 設備ヲ整へ年々實行ノ歩武ヲ進メツツアリ想フニ本林ハ地勢及植物帶
 ノ關係上頗ル中央歐羅巴ノ森林ニ類似シ加フルニ其空知川ニ沿ヘル部
 分ハ十勝國ニ通スル鐵路ニ接シ經營上頗ル利便ノ位置ヲ占ムルカ故ニ
 之レカ整理ヲ完ウシタル曉ニハ恐ラク獨逸國ノ森林ニ劣ラサル模範的
 森林タラシムルコト難事ニアラサルヘシ但タ此ノ地方ハ農耕地比較的
 多カラサルヲ以テ森林労働者ノ供給意ノ如クナラサルハ本林經營上最
 困難ヲ感スル所ナリサレハ夙ニ林間殖民ノ必要ヲ認メ之レガ實現ヲ圖
 ルト同時ニ農林労働ノ調節ニ關シ研究ヲ爲ス爲種々畫策スル所アリ明

治四十年溪流ニ沿ヘル低地ニ於テ一戸約四町歩ヲ限リ農耕地トシテ貸
 付スルノ制ヲ定メ農民ヲ招致シタリシカ其ノ希望者年々逐フテ増加シ
 目下本林内ニ在住スルモノ約五百戸ヲ算スルニ至レリ

臺灣演習林ハ概測面積五萬七千六百二十町歩ニシテ臺中州竹山及新高
 二郡ニ跨リ濁水溪ノ支流タル陳有蘭溪流ノ左岸全部及之ニ隣レル清
 水溝溪並北勢溪流ノ一部分ヲ包有シ最低點八百尺ヨリ起リテ最高點
 新高山ノ絶頂一萬三千餘尺ニ及ヒ其ノ森林ハ亞熱帶ヨリ寒帶ニ至ル凡
 テノ植物帶ヲ備へ且ツ其大部分ハ今尙原生林ノ状態ヲ存スルカ故ニ本
 邦森林學研究ノ用ニ供スルモノトシテハ最モ適當ナルモノナリ本林ニ
 産スル樹木ノ主要ナルモノハたいわんひのき、べにひ、たいわんすぎ、たい
 わんまつ等ノ針葉樹及かし、しひ、たぶ、くすのき、せんだん等ノ潤葉樹ニシ
 テ何レモ優良ノ生長ヲナス此ノ他溪流ニ沿ヘル低地ニハ、麻竹、桂竹又ハ
 孟宗竹ノ林約千五百町歩ヲ存ス本林ハ明治三十五年ノ設置ニ係リ面積
 ノ廣大ナル點ニ於テ本學部附屬演習林中ノ最タリト雖モ其約八割ハ生
 蕃地ニ屬シ且其ノ普通行政區ニ屬スル地域ニアリテモ頗ル通運ノ便ヲ

缺クカ故ニ未タ秩序的施業ヲ實行スルノ運ニ至ラスト雖モ大正二年度ニ於テ約六千町歩ノ地域ニ施業案ヲ編製シ大正五年更ニ本林ニ對スル整理案ヲ編成シ本林ノ整理ニ力メ又テイクキナ、彈力護謨其他熱帶植物及内地産杉、扁柏等ノ造林試験ヲ行ヒ良好ノ成績ヲ擧ケツツアリ明治三十七年派出所ヲ林圪埔(現時ノ竹山庄)ニ置キテ管理者ヲ派遣シ同四十一年業務ノ發展ニ伴ヒ現在敷地ヲ購入シテ廳舎ヲ新築セリ

朝鮮ニ於ケル演習林ハ二ヶ所ニ存在シ一ハ此ノ地ニ於ケル温帯ノ森林ヲ代表シ他ハ暖帯ノ森林ヲ代表ス前者ハ江原道高城郡ニ存シ赤壁江流域ノ大部分ヲ占ム其ノ概測面積二萬六千六百町歩ナリ後者ハ全羅南道求禮及光陽ノ二郡ニ跨リ蟾津江流域ノ左右ニ於テ之レカ支流一帯ノ地域ニ亘ル其ノ概測面積二萬二千九百町歩(内五百八十三町歩)ハ大正八、九兩年度ニ於テ民有地ヲ購入セルモノナリ共ニ大正元年朝鮮總督府ヨリ八十ヶ年間ノ契約ヲ以テ無料貸付ヲ受ケ設置セラレタルモノニシテ爾來日尙淺ク未タ諸般ノ調査及設備ヲ完クスルコト能ハスト雖モ江原道演習林ニ於テハ大正二年派出所ヲ高城ニ置キ全羅南道演習林ニ於

テハ大正三年派出所ヲ光陽ニ置キ共ニ管理者ヲ派遣シテ森林ノ調査ヲ爲シ經營案ヲ編成シ又造林上ノ試験ヲ實行シ整理上必要ナル林木ヲ伐採シ木炭ヲ製シ地方民ニ向テ用材燃料ヲ供給シ居レリ

樺太演習林ハ概測面積二萬八百町歩ニシテ樺太東海岸豊原支廳管下ニ在リ相川流域全部及小田寒川流域ノ一部ヲ包有シ本邦最北部ノ森林ヲ代表ス其主要ナル樹種ハ椴、松、蝦夷松ニシテ諸處ニ樺類ヲ混生ス本林ハ大正三年樺太廳ヨリ引繼ヲ受ケタルモノニシテ榮濱ニ派出所ヲ設ケ管理者ヲ派遣シテ森林ノ情況ヲ調査シ施業ノ方法ヲ講シ又伐木造林等ノ事業ヲ進メツツアリ

秩父演習林ハ面積六千九十七町歩餘ニシテ埼玉縣秩父郡大瀧村ニ在リ荒川ノ上流ニ位シ其大部分ハ森林植物帶中温帯南部ニ屬シもみ、つが、ひのき、いらもみ、こえふまつ、ねずこ等ノ針葉樹ぶな、なら、けやき、しをぢ、どち、かつら、いたやかへで、みねばり等ノ落葉闊葉樹ヲ産ス又其高所小面積ノ部分ハ温帯北部ヨリ寒帯ノ林相ヲ呈シこめつが、からまつ、たうひ、しらべかば、つづじ、しやくなげ等ヲ産ス從テ本林ハ本邦林業ノ要部ヲ占ムル温

帶林業ノ研究並ニ實習ニ適ス
 本林ハ元民有林タリシカ大正五年六年及七年ニ於テ本學ノ所有ニ歸セ
 シモノニシテ設置日尙淺ク未タ十分ノ施業ヲ營ムニ至ラス大正八年同
 村字柄木ニ一棟ノ官舎ヲ新築シ同十年秩父町ニ應舎ヲ新營シ管理員ヲ
 派遣シテ森林ノ情況其他經營上ノ調査ニ從事シ又伐採跡地ニ造林ヲ爲
 シ伐木製炭ノ事業ヲ開始シ千葉縣演習林ニ於ケル方法ニ準シ治水試験
 ヲ實行シ居レリ
 愛知縣演習林ハ東春日井郡品野、水野、赤津三村及丹羽郡城東村ニ在リテ
 二團地ニ分レ其面積約千三百五十町アリテ大率生良不良ノ松林及荒廢
 地ヨリ成ル元御料林ナリシガ大正十一年本學基本財産トノ交換ニ依リ
 テ設定セラレタルモノニシテ森林理水及砂防工學又ハ測量學ノ實習ニ
 使用シ同十二月水野村ニ應舎ヲ新設シ管理員ヲ派遣シテ諸般ノ調査及
 整理ニ從事セリ

○第十七章 經濟學部

第一 職員 (同職中ノ氏名ハ)

學部長

教授法學博士法學士

矢作榮藏

沖繩

教授及教師

法學博士文學士

金井延

静岡

經濟學第一講座擔任

法學博士法學士

山崎覺次郎

静岡

經濟學第二講座擔任

法學博士法學士

大内源忠

静岡

(國際聯盟局招聘中)

農學博士法學博士農學士

新渡戸稻造

岩手

經濟學第三講座擔任

法學博士法學士

河津暹

東京

經濟學第四講座擔任

法學博士法學士

矢作榮藏

沖繩

貿易理論、貿易實務

法學博士法學士

渡邊鐵藏

大阪

商業學第一講座擔任

法學博士法學士

森莊三郎

静岡

商業學第二講座擔任

法學博士法學士

上野道輔

東京

商業學第三講座擔任

法學博士法學士

上野道輔

東京

○第十七章 經濟學部 職員

商業數學 博士 ムリス(ベルリン大學)

國際金融論

財政學第一講座擔任

ドクトル、ユリス(ウキーン大學)

ドクトル、デル、スタイツウキツセンシヤフテン(ミューニツヒ大學)

オルデントリツヘル、プロフェツソール、デア、ナチオナルエコノミー、
ウント、フキナンツウキツセンシヤツト(ハイデルベルヒ大學)

經濟學

經濟學第六講座擔任

殖民政策講座擔任

財政學第二講座擔任

授業擔任

商法

國際私法

政治學

憲法、行政法

シグフリード、ベルリネル

法學士 土方成美

法學士 舞出長五郎

法學士 矢内原忠雄

法學士 大内兵衛

法學士 松波仁一郎

法學士 山田三良

法學士 小野塚喜平次

法學士 美濃部達吉

教授法學博士 立作太郎

教授法學博士 牧野英一

教授法學博士 吉野作造

教授理學博士 山崎直方

教授文學博士 桑木嚴翼

教授工學博士 加茂正雄

教授工學博士 中川壯助

教授法學博士 三瀨信三

教授法學博士 鳩山秀夫

教授法學博士 田中耕太郎

法學士 糸井靖之

法學士 河合榮治郎

法學士 本位田祥男

法學士 江原萬里

法學士 立作太郎

法學士 牧野英一

法學士 吉野作造

法學士 山崎直方

法學士 桑木嚴翼

法學士 加茂正雄

法學士 中川壯助

法學士 三瀨信三

法學士 鳩山秀夫

法學士 田中耕太郎

法學士 糸井靖之

法學士 河合榮治郎

法學士 本位田祥男

法學士 江原萬里

法學士 立作太郎

法學士 牧野英一

法學士 吉野作造

國際公法

刑法

政治史

經濟地理

哲學

工業通論

工業通論

民法

民法

助教授

商業學(在外研究中)

經濟學(在外研究中)

經濟學(在外研究中)

經濟學

經濟學(在外研究中)	法學士 中西寅雄	東京
商業學	經濟學士 佐々木道雄	三重
經濟學	經濟學士 土屋喬雄	宮城
經濟學 授業擔任		
社會學	助教 經濟學士 荒木光太郎	東京
社會學	助教 文學士 戸田貞三	富山
講 師		
商品學	法學士 野間譽雄	愛媛
鐵道論	法學士 中川正左	奈良
海上保險論	法學士 中村精一	廣島
海運論	法學士 寺島成信	山形
財政學	法學博士 馬場 鏝一	東京
統計學	法學博士 法學士 高野岩三郎	東京
取引所論	法學士 河合良成	東京
倉庫論	法學博士 商學士 内池廉吉	福島

經濟學 法學士 田 中 貢 廣島

商品學 坂口武之助 長崎

商業英語 マスター、オブ、アーツ(オックスフォード大學) 山崎 宗直 熊本

第二學科課程

第一條 經濟學部ニ左ノ二學科ヲ置ク

第一 經濟學科

第二 商業學科

第二條 經濟學部ニ於ケル修學期間ハ三學年トス

第三條 一學年ヲ分チテ左ノ二學期トス

夏學期 四月一日ヨリ十月十五日ニ至ル

冬學期 十月十六日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

修學期間ヲ前期後期ニ分チ前期四學期後期二學期トス

第四條 授業科目ヲ必修科目、選擇科目及隨意科目トス

第五條 各學科ニ於ケル必修科目及選擇科目左ノ如シ

經濟學科

前期必修科目

經濟原論、經濟史、貨幣論、銀行論、農業政策、工業政策、統計學、保險學、財政學、經濟學(第一外國語英、佛、獨)會計學第一部、憲法、民法

後期必修科目

經濟學史、商業政策、交通政策、社會政策、殖民政策、商法

選擇科目

經濟學(第二外國語英、佛、獨)會計學第二部、經濟地理、國際金融論、取引所論、政治學、社會學、哲學、行政法、刑法、國際公法、國際私法、演習

商業學科

前期必修科目

會計學、商事經營學、商業數學、經濟地理、商業史、商業英語、經濟原論、貨幣論、銀行論、統計學、保險學、民法

後期必修科目

工場經營論、國際金融論、取引所論、貿易理論、貿易實務、商品學、商業政策、財政學、商法

選擇科目

工業會計、銀行會計、倉庫論、生命保險論、海上保險論、工業通論、商業學(獨語)、交通政策、社會政策、憲法、行政法、演習

第六條 各學期ニ於ケル必修科目及選擇科目ノ每週授業時數左ノ如シ

經濟學科

第一學期(夏學期)

每週授業時數

必修科目	經濟原論	經濟史	經濟學(第一外國語英、佛、獨)	憲法	民法第一部	選擇科目	經濟地理	經濟學(第二外國語英、佛、獨)	哲學	必修科目	經濟原論
	四	六	二	四	四		四	二	四	四	四

統計學

經濟學(第一外國語英、佛、獨)

會計學第一部

民法第二部

選擇科目

經濟學(第二外國語英、佛、獨)

行政法

社會學

第三學期(夏學期)

必修科目

貨幣論

農業政策

財政學第一部

經濟學(第一外國語英、佛、獨)

民法第三部

統計學	經濟學(第一外國語英、佛、獨)	會計學第一部	民法第二部	選擇科目	經濟學(第二外國語英、佛、獨)	行政法	社會學	必修科目	貨幣論	農業政策	財政學第一部	經濟學(第一外國語英、佛、獨)	民法第三部
四	二	四	四		二	四	四	三	四	四	四	二	四

○第十七章

經濟學部 學科規定

選擇科目 會計學第二部 刑 法 演 習	第四學期(冬學期)	二 六 四
必修科目 銀行論 工業政策 財政學第二部 保險學 經濟學(第一外國語英、佛、獨)		三 三 四 四 二
選擇科目 政治學 國際公法 演 習		四 四 二
必修科目 第五學期(夏學期) 經濟學史 商業政策 社會政策 商法第一部		四 四 四 四 六
選擇科目 取引所論 演 習	第六學期(冬學期)	二 二
經濟學史 交通政策 殖民政策 商法第二部		四 四 四 六
選擇科目 國際金融論 國際私法 演 習		三 四 二
商業學科 第一學期(夏學期)		二
必修科目 商業數學第一部 商業英語 經濟原論 經濟地理 民法第一部 選擇科目		四 四 四 四 四 四

商業學(獨語) 憲 法	第二學期(冬學期)	二 四
必修科目 會計學第一部 商業數學第二部 商業英語 經濟原論		四 四 四 四
選擇科目 民法第二部 商業學(獨語) 行政法		四 二 四
第三學期(夏學期)		
必修科目 會計學第二部 商業史 商業英語 貨幣論		四 四 四 三
選擇科目 民法第三部 工業會計		四 二
工業通論 演 習	第四學期(冬學期)	二 四
必修科目 商事經營學 商業英語 統計學 銀行論 保險學		四 四 四 四 四
選擇科目 銀行會計 倉庫論 演 習		二 二 二
第五學期(夏學期)		
必修科目 工場經營論 取引所論 貿易理論 商業政策 財政學 商法第一部		三 二 三 四 四 六

○第十七章 經濟學部 學科規定

選擇科目
生命保險論
社會政策
演習

貿易實務
商品學
商法第二部
選擇科目

必修科目
第六學期(冬學期)
國際金融論

海上保險論
交通政策
演習

二 四 二 六 四 三

第七條 學生ハ前條ノ規定ニ拘ラス任意ニ本學部ノ授業科目ヲ聽講スルコトヲ得

第八條 隨意科目ハ特別ノ講義及演習トス

商業學科ニ於テハ前項ノ隨意科目ノ外特ニ學生ノ志望ニヨリ珠算、タイプライティング及佛、獨、露、西、支等ノ外國語ヲ授業スルコトアルヘシ
隨意科目ノ種類及每週授業時數ハ教授會ニ於テ之ヲ定ム

第三 試驗

第九條 試驗ハ必修科目及選擇科目ニ付之ヲ行フ

必修科目ハ其ノ全部ニ付試驗ヲ受クルコトヲ要ス
選擇科目ハ學生ヲシテ左ノ標準ニ從ヒ選擇受験セシム

第一 經濟學科ニアリテハ四科目以上

第二 商業學科ニアリテハ二科目以上

第十條 試驗ハ授業ヲ受ケタル科目ニ付之ヲ受クルモノトス

第十一條 前期必修科目及選擇科目中十八科目以上ノ試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ後期必修科目ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

前項ノ科目中選擇科目ハ經濟學科ニアリテハ四科目商業學科ニアリテハ二科目ヲ越ユルコトヲ得ス

第十二條 同一科目ノ授業二學期以上ニ亘ルモノハ各學期毎ニ一科目トシテ計算ス但シ經濟學科ニ於テハ經濟學(第一外國語英、佛、獨)經濟學

(第二外國語英、佛、獨)及演習商業學科ニ於テハ商業英語、商業學(獨語)及演習ハ各一學年ヲ以テ一科目トス

第十三條 休學シタル者ハ其ノ學年ニ屬スル試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十四條 試驗ハ毎年一回三月ニ於テ之ヲ行フ但シ受持教員ハ教授會ノ議ヲ經テ臨時ニ試驗ヲ行フコトヲ得
卒業スヘキ學生三月ニ於テ事故ニ依リ試驗ヲ受クルコト能ハサリシ

トキ又ハ試験ヲ受ケテ合格セサリシトキハ六月ニ於テ更ニ試験ヲ受クルコトヲ得

第十五條 試験ハ當該學年ニ於テ授業アリタル科目ニ付受持教員之ヲ行フ但シ受持教員故障アルトキハ教授會ノ議ヲ經テ他ノ教員ヲシテ代リ行ハシム

當該學年ニ於テ授業ナカリシ科目ニ付テハ志望者アル場合ニ限り試験ヲ行フ

受験科目ノ受持教員カ授業ヲ受ケタル教員ト異ナル場合ニ於テハ學生ハ授業ヲ受ケタル教員ニ付受験スルコトヲ得但シ其教員故障アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 三月ノ試験ヲ受ケントスル者ハ四月三十一日迄ニ六月ノ試験ヲ受ケントスル者ハ四月三十日迄ニ其ノ受験科目ヲ届出ツヘシ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

正當ノ理由ナクシテ前二項ノ届出ヲ爲ササル者ニ對シテハ其ノ試験ヲ無効トス

第十七條 試験ハ各科目ニ付合格不合格ヲ決ス

試験ノ成績ハ優、良、可、不可ノ四等トシ優、良、可ヲ合格トス

前項ノ成績ハ教員ノ報告ニ基キ教授會ニ於テ之ヲ決定ス

第十八條 各科目ノ試験ノ成績ハ試験完了後三週間以内ニ學生票ニ記入シテ之ヲ交付ス

第十九條 高等學校高等科及學習院高等科ヲ卒業シタル入學志願者ノ數本學部收容豫定人員ニ超過スル場合ニ於テハ選抜試験ヲ行ヒ入學者ヲ定ム

選抜試験ヲ行フトキハ豫メ各高等學校及學習院ニ通知ス

第二十條 選抜試験ハ高等學校ニ於テ履修シタル科目ニ付之ヲ行フ

試験科目及其ノ日割ハ豫メ本學部内ニ揭示シ且官報ヲ以テ公告ス

第二十一條 選抜試験ハ本學部教員中ヨリ選任シタル委員之ヲ行フ

第二十二條 選拔試験ノ成績ハ試験委員會ニ於テ之ヲ決定シ其ノ結果ハ之ヲ本學部内ニ揭示シ且官報ヲ以テ公告ス且官報ヲ以テ公告ス

第二十三條 選拔試験ノ結果入學スルコトヲ得サリシ者更ニ入學ヲ志望スルトキハ他ノ入學志望者ト共ニ選拔試験ヲ受クルコトヲ要ス

第二十四條 左ニ掲クル者ハ選拔試験ニ依ラスシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第一 法科大學又ハ本學部ノ卒業生ニシテ更ニ本學部ノ他ノ學科ニ入學ヲ志望スル者

第二 法科大學經濟學科若ハ商業學科又ハ本學部學生ノ退學セシ者

第三 他ノ分科大學又ハ他ノ學部ノ卒業生

第四 二學年以上法科大學法律學科若ハ政治學科又ハ法學部ニ在學シタル者

第五 他ノ帝國大學ノ卒業生

第六 工學年以上他ノ帝國大學法科大學又ハ經濟學部若ハ法學部ニ在學シタル者

第二十五條 前條ニ掲クル者ノ外選拔試験ニ依ラスシテ入學ヲ許可スル場合ハ教授會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第二十六條 經濟學科ニ入學ヲ志望スル者ハ履修スヘキ經濟學第一外國語英佛獨ヲ入學願書ニ記載スルコトヲ要ス

第二十七條 第二十四條第一號及第三號乃至第六號ニ掲クル者入學ノ際第五條所定ノ前期必修科目及選擇科目中十八科目以上ノ試験ニ合格シタルトキハ在學年數ノ計算ニ付テハ既ニ二學年在學シタルモノト看做ス但シ科目數ノ計算ハ第十二條ノ規定ニ依ル

第二十八條 前條ノ規定ニ依リ入學ノ際試験ヲ受ケントスル者ハ入學願書ニ其ノ旨ヲ記載シ二月十五日迄ニ學部長ニ願出ツヘシ

第二十九條 第二十四條第二項ニ掲クル者ニシテ入學ヲ許可セラレタル者ハ在學年數ノ計算ニ付テハ其ノ從前在學シタル學年數ヲ本學部在學年數ニ通算ス

第五 轉科

第三十條 本學部ノ一ノ學科ノ學生ニシテ他ノ學科ニ轉科ヲ志望スル

者ハ四月一日ヨリ同十五日迄ニ又ハ二月一日ヨリ同十五日迄ニ理由ヲ具シテ學部長ニ願出スヘシ
 前項ノ出願ニ對シテハ教授會ノ決議ニ依リ其ノ許否ヲ決ス但シ必要アルトキハ試験ヲ行フ
 轉科ヲ許可セラレタル者ノ在學年數ハ轉科ノ前後ヲ通算ス
 第三十一條 前條ノ規定ハ經濟學科ノ學生カ經濟學第一外國語英佛獨ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス
 第六 卒業及除籍
 第三十二條 三學年以上在學シ且必修科目ノ全部及第九條第三項所定ノ選擇科目ノ試験ニ合格シタル者ヲ以テ卒業者トス
 第三十三條 第二十七條ニ依リ入學ノ際試験ニ合格シタル科目ニ付テハ在學中更ニ試験ヲ受クルコトヲ要セス
 第三十四條 第二十四條第一號及第二號ニ掲グル者ハ從前在學中試験ニ合格シタル科目ニ付更ニ試験ヲ受クルコトヲ要セス但シ教授會ニ於テ其ノ履修ノ程度學科課程所要ノ程度ニ相當セスト認ムルモハ

ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 在學六學年ニ及ヒ卒業セサル者ハ之ヲ除籍ス

第七 學生票

第三十六條 學生票ハ入學ノ初ニ之ヲ交付ス

第三十七條 學生票ノ再交付ヲ出願スル者ハ料金壹圓ヲ納付スヘシ

附則

第三十八條 本規則ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條 大正十二年四月開始ノ學年ニ於ケル授業科目及每週授業

時數ハ左ノ特例ニ依ル

經濟學科		選擇科目	
第三學期(夏學期)	每週授業時數	刑法	二
必修科目		演習	六
財政學第一部	四	第四學期(冬學期)	
保險學	四	必修科目	
經濟學(第一外國語英、佛、獨)	二	銀行論	三
憲法	四	工業政策	三
民法第三部	四	財政學第二部	四

○第十七章 經濟學部 卒業及除籍

經濟學(第一外國語英、佛、獨)	二
會計學第一部	四
選擇科目	
社會學	四
行政法	四
國際公法	四
演習	二
必修科目	
經濟學史	四
社會政策	四
財政學第一部	四
選擇科目	
政治史	四
刑法	六
演習	二
必修科目	
經濟學史	四
殖民政策	四
財政學第二部	四
經濟學(第一外國語英、佛、獨)	二
取引所論	二
國際私法	四
演習	二
商業學科	
第三學期(夏學期)	
必修科目	
商業史	四
商業英語	四
保險學	四
民法第三部	四
選擇科目	
工業會計	二
社會政策	四
憲法	四
演習	二
必修科目	
商事經營學	四
商業英語	四
銀行論	四

選擇科目	
銀行會計	二
倉庫論	二
行政法	四
演習	二
必修科目	
貿易理論	三
商業英語	二
財政學	四
選擇科目	
海上保險論	二
工業通論	四
社會政策	四
演習	二
必修科目	
政治學	四
取引所論	二
貿易實務	三
商品學	四
商業英語	二
選擇科目	
鐵道論	二
海運論	三
生命保險論	四
演習	二
大正十三年四月開始ノ學年ニ於ケル經濟學科ノ授業科目中ニ左ノ二科目ヲ加フ	
第五學期(夏學期)	
選擇科目	
會計學第二部	四
第六學期(各學期)	
選擇科目	
政治學	四

前二項ノ外教授會ノ決議ニ依リ必要ナル特例ヲ定ムルコトヲ得
 第四十條 大正八年四月制定ノ經過規定ノ適用ヲ受クル學生ニ對スル

授業科目及其ノ選擇科目ノ數ハ從來ノ制ニ依ル
第四十一條 大正七年以前ニ入學シタル學生ニ付テハ第三十五條ノ期
間ヲ八學年トス

Faint table with multiple columns and rows, likely a schedule or list of regulations. The text is mostly illegible due to fading.

○第十八章 陸軍砲工學生及海軍學生規程

第一 工學部及理學部陸軍砲工學生規程

第一條 陸軍砲工學校員外學生ハ特ニ工學部若クハ理學部ニ入學ヲ許
可スルコトアルベシ

第二條 陸軍砲工學生ハ毎年四月ニ入學スルモノトス

第三條 工學部及理學部陸軍砲工學生ニハ各當該學部所設ノ一學科ヲ
專修セシムルモノトス

第四條 入學料授業料ハ之ヲ徵收セス

第五條 本規程ノ外東京帝國大學ノ諸規則ハ陸軍砲工學生ニ適用ス

第二 理學部海軍學生規程

第一條 海軍大學校選科學生ニシテ高等學校大學豫科卒業以上ノ學力
アリト認ムル者ハ特ニ理學部ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 海軍大學校選科學生ハ毎年四月ニ入學セシムルモノトス

第三條 理學部海軍學生ニハ同學部所設ノ一學科ヲ專修セシムルモノ
トス

第十八章

工學部及理學部陸軍砲工學生規程 理學部海軍學

第四條 入學料及授業料ハ之ヲ徴收セス

第五條 前各條ノ外東京帝國大學ノ諸規則ハ總テ理學部海軍學生ニ適

用ス

第一節 海軍大學對艦隊學生ハ前第四條ニ入學シヨム

第二節 海軍大學對艦隊學生ニシテ高等學科大學艦隊卒業以上ノ學科

卒業生 本學科ハ東京帝國大學ノ附屬員ハ海軍工學部ニ歸ス

第四節 入學料對艦隊學生ハ之ヲ徴收セス

第五節 海軍大學ニシテ

第三節 工學部及農學部對海軍工學部ニシテ各當該學部諸費ハ一學科

第二節 海軍工學部ニシテ入學料ハ之ヲ徴收セス

第一節 海軍工學部對海軍工學部ニシテ

第一節 海軍工學部對海軍工學部ニシテ

第一節 海軍工學部對海軍工學部ニシテ

第一節 海軍工學部對海軍工學部ニシテ

第十九章 獎學金

贈右大臣大久保利通獎學資金

右ハ明治十一年一月内務卿大久保利通ヨリ其賞典祿ニケ年分ノ金額

五千四百貳拾參圓九拾六錢八厘ヲ農學校ニ寄附シ其利子ヲ以テ生徒

ノ褒賞費ニ充テシモノニシテ明治二十七年十月ニ至リ侯爵大久保利

和ノ申請ニ依リ之ヲ獎學資金ニ改メ其利子ヲ以テ農學部學生ノ貸費

ニ充ツルコトナレリ

故江沼元五郎記念獎學資金

右ハ故東京大學御用掛江沼元五郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明

治十八年三月金百貳拾五圓ヲ東京大學ニ寄附セシモノニシテ其利子

ヲ以テ動植物學上ノ標品圖書購入費ニ充ツヘキモノトス

古河市兵衛獎學資金

右ハ古河市兵衛ヨリ明治十九年五月金千圓ヲ寄附セシモノニシテ其

利子ヲ以テ採鑛及冶金學科學生ノ學資補助費若クハ同學科ニ必要ナ

ル器械類購入費ニ充ツヘキモノトス
三菱合資會社獎學貸費金

右ハ三菱社長岩崎彌之助ヨリ明治十九年七月以降同二十六年五月迄ニ四千七百八拾四圓六拾八錢四厘ヲ寄附セシモノニシテ學部學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

古河市兵衛獎學貸費金

右ハ古河市兵衛ヨリ明治十九年七月以降同二十六年五月迄ニ金千四百五圓四拾八錢五厘ヲ寄附セシモノニシテ工學部學生ニ充ツヘキモノトス

東京電燈株式會社獎學貸費金

右ハ東京電燈會社社長ヨリ明治十九年九月以降同二十八年七月迄ニ金百七拾九圓拾壹錢參厘ヲ寄附セシモノニシテ工學部電氣工學科學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

住友吉左衛門獎學貸費金

右ハ住友吉左衛門ヨリ明治十九年十二月以降大正七年十二月迄ニ金

故畠山義成記念褒賞資金

六千貳百七拾五圓壹錢參厘ヲ寄附セシモノニシテ工學部學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス
右ハ故東京開成學校長畠山義成記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治十九年四月ニ金五百五拾圓ヲ同二十一年十二月ニ金百五拾貳圓五拾錢ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ法學化學工學科學生優等者ノ褒賞ニ充ツヘキモノトス

原亮三郎獎學貸費金

右ハ原亮三郎ヨリ明治二十年六月以降同二十四年十一月迄ニ金貳千五百九拾圓九拾六錢九厘ヲ寄附セシモノニシテ文學部及理學部學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故市川盛三郎記念獎學資金

右ハ故東京大學教授市川盛三郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治二十年七月金七百貳拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ物理學獎勵ノ費途ニ充ツヘキモノトス

大橋佐平獎學貸費金

右ハ大橋佐平ヨリ明治二十一年一月以降同三十二年十二月迄ニ單ニ獎學貸費トシテ寄附セシモノ及博文館創業十週年ノ記念トシテ寄附セシモノ合計金千六百拾五圓六拾四錢五厘ニシテ學部學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

藥學科獎學貸費金

右ハ明治二十一年三月有志製藥士十八名ヨリ金貳百四圓五拾錢ヲ寄附セシモノニシテ醫學部藥學科學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス
獨逸語講談會補助費金

右ハ明治二十一年六月該會解散ノ際醱集金ノ殘金參拾圓ヲ獨逸人ス
ビシネル外二名ヨリ寄附セシモノニシテ貧困ナル學生ノ補助費ニ充ツヘキモノトス
安田善次郎獎學貸費金

右ハ安田善次郎ヨリ明治二十一年十月以降同二十六年四月迄ニ金四百四拾九圓貳拾貳錢六厘ヲ寄附セシモノニシテ工學部學生ノ貸費ニ

鹿島岩藏獎學貸費金

右ハ鹿島岩藏ヨリ明治二十二年六月以降同二十七年六月迄ニ金四百九拾八圓六拾七錢參厘ヲ寄附セシモノニシテ工學部土木工學科學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故佐藤雄二記念獎學貸費金

右ハ故工學部土木工學科第二年生佐藤雄二記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治二十三年六月金五拾六圓ヲ寄附セシモノニシテ工學部學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

清水滿之助獎學貸費金

右ハ清水滿之助ヨリ明治二十三年十月以降同二十八年五月迄ニ金貳百四拾六圓四拾五錢貳厘ヲ寄附セシモノニシテ工學部建築學科學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故田邊義三郎記念獎學褒賞及貸費資金

右ハ故內務三等技師田邊義三郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治

二十四年八月同二十五年三月六月ノ三回ニ金千九拾壹圓四拾錢ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部土木工學科優等生ノ褒賞及貸費ニ充ツヘキモノトス

故製藥士柴山正秀記念獎學貸費資金

右ハ故製藥士柴山正秀記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治二十四年十二月金參百貳拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ醫學部藥學科學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

但都合ニ依リ元金ヲ使用スルモ妨ナキモノトス

故製藥士松尾周藏記念獎學貸費資金

右ハ故製藥士松尾周藏記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治二十五年九月金貳百貳拾五圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ醫學部藥學科學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス
但都合ニ依リ元金ヲ使用スルモ妨ナキモノトス
故子爵森有禮記念學資金

右ハ故文部大臣子爵森有禮記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治二十

六年四月金貳千七百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ學力優等品行方正ニシテ貧困ナル者ノ授業料補助費ニ充ツヘキモノトス
尤元金増殖シテ五千圓ヲ超ユルトキハ其超過シタル元金ハ利子ト共ニ支消シ且授業料ノ外學資ヲ補助スルモ妨ナク又補助ヲ受ケタル者卒業シテ一定ノ收入ヲ得タルトキハ其歲入五十分ノ一ヲ一定ノ額ニ達スルマテ毎年東京帝國大學ニ寄附スヘキ等ノ數條件ヲ附セリ

贈正四位高島四郎太夫記念獎學貸費資金

右ハ贈正四位高島四郎太夫ノ爲メ長崎人會々員ニ於テ醱集シ其祭典ヲ執行シタル剩餘金百參拾六圓貳拾九錢貳厘ヲ明治二十七年六月寄附シタルモノニシテ工學部造兵學科若クハ火藥學科學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故工學博士巖谷立太郎記念獎學資金

右ハ故東京帝國大學教授工學博士巖谷立太郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治二十八年十二月金千七百四拾參圓拾六錢五厘ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部採鑛及冶金學科學生中學力優等品

行方正ノ者ニ學資若クハ物件ヲ給與スルノ費途ニ充ツヘキモノトス
故理學博士菊池安記念獎學資金

右ハ故東京帝國大學助教理學博士菊池安記念ノ爲メ有志者ニ於テ
釀集シ明治二十九年九月金百九拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ
以テ鑛物學及火山學專攻者ノ學資補助等ノ爲メ貸費若クハ給費ニ充
ツヘキモノトス

カール、イリノス獎學資金

右ハ獨逸人カール、イリノスカ其歸國ニ際シ明治二十九年四月銀貨千
五百圓ヲ寄附シタルモノニシテ其利子ヲ以テ法學部法律學科獨逸法
兼修者ノ學資ヲ補助シ若クハ之ニ獨逸書籍ヲ與フル等獨逸法學獎勵
ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故子爵井上毅記念獎學資金

右ハ故子爵井上毅記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ明治二十九年五月
金千四拾五圓ヲ國際公法獎勵資金トシテ寄附セシモノニシテ其利子
ヲ以テ大學院又ハ法學部研究科ニ於テ國際公法ヲ專攻スル者ノ給費

又ハ貸費等ニ充ツヘキモノトス

ドクトル、エル、エチ、レインホルム獎學貸費金

右ハ獨逸人ドクトル、エル、エチ、レインホルムヨリ明治二十九年六月金
五百四拾圓ヲ寄附セシモノニシテ法學部法律學科獨逸法兼修學生ノ
貸費ニ充ツヘキモノトス

東京石川島造船所獎學貸費金

右ハ東京石川島造船所專務取締役ヨリ明治十九年五月以降同三十五
年十月迄ニ金四百六拾參圓貳拾錢六厘ヲ寄付セシモノニシテ工學
部機械工學科造船學科電氣工學科學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故醫學博士猪子吉人記念獎學貸費金

右ハ故東京帝國大學助教醫學博士猪子吉人記念ノ爲メ有志者ニ於
テ釀集シ明治三十一年三月金貳百八拾五圓ヲ寄附セシモノニシテ醫
學部學生藥物學ニ於ケル優等者ノ貸費ニ充ツヘキモノトス
工學博士沖野忠雄獎學貸費金
右ハ工學博士沖野忠雄ヨリ毎月金七拾五圓宛明治三十一年四月ヨリ

同三十八年三日迄ニ金六千參百圓ヲ寄附セシモノニシテ工學部土木
工學科學生中貧困ナルモノノ貸費ニ充ツヘキモノトス但貸費金額ハ
一ヶ月金拾五圓ヲ限度トシ貸費生ニシテ學年末ノ成績ニ於テ土木工
學科同年學生中第一ノ席次ヲ占ムルトキハ其學年間ニ於ケル貸費ノ
返約ヲ免除スヘシ等數條件ヲ附セリ
故文學博士島田重禮記念獎學資金

右ハ故東京帝國大學教授文學博士島田重禮ノ遺志ニ從ヒ其嗣子島田
鈞一ヨリ明治三十一年十月金五百圓ヲ寄附セシモノ及同博士記念ノ
爲メ有志者ニ於テ釀集シ明治三十五年二月金貳百貳拾五圓ヲ寄附セ
シモノニシテ其利子ヲ以テ漢學科優等學生ノ給費ニ充ツヘキモノト
ス

原善三郎獎學資金

右ハ正六位勳四等原善三郎ヨリ明治三十二年二月金壹萬圓ヲ寄附セ
シモノニシテ其利子ヲ以テ適宜獎學ノ費途ニ充ツヘキモノトス
故理學博士關谷清景記念獎學資金

右ハ故東京帝國大學教授理學博士關谷清景記念ノ爲メ其相續人關谷
銘二郎ヨリ明治三十二年二月整理公債證書額面金千六百圓ヲ寄附セ
シモノニシテ其内金六百圓ハ博士ノ遺產ノ一部ヲ其遺言ニヨリ寄附
セシモノ又千圓ハ有志者ニ於テ釀集セシモノナリ而シテ利子ヲ以テ
適宜獎學ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故鈴木重嶺記念獎學費金

右ハ鈴木重嶺ノ遺志ニ依リ其嗣子鈴木重明ヨリ明治三十二年三月金
貳百圓ヲ寄附セシモノニシテ法文學部學生中學力優等ノ者ノ給費ニ
充ツヘキモノトス

故今田東記念獎學資金

右ハ故東京帝國大學助教授今田東記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ明
治三十二年四月軍事公債證書額面五百圓及金貳拾九圓八拾七錢六厘
ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ醫學部醫學科學生ノ給費ニ充ツ
ヘキモノトス

故杉井定吉記念獎學資金

右ハ故杉井定吉ノ遺志ニ依リ其嗣子杉井和一郎外二名ヨリ明治三十二年五月軍事公債證書額面參千圓寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ土木工學科及機械工學科學生中學力優等者ノ褒賞若クハ書籍雜誌購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故林百合子記念獎學貸費金

右ハ子爵林友幸ヨリ其亡夫人百合子記念ノ爲メ明治三十二年七月金五百圓ヲ寄附セシモノニシテ學部學生中學力優等着ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故太田六郎記念獎學貸費金

右ハ故太田六郎ノ遺志ニ依リ其嗣子太田資邁外一名ヨリ明治三十二年九月金千圓ヲ寄附セシモノニシテ工學部土木工學科及機械工學科學生中學力優等ニシテ貧困ナモノノ貸費ニ充ツヘキモノトス

東京瓦斯株式會社獎學貸費金

右ハ東京瓦斯株式會社ヨリ金千圓ヲ明治三十三年十二月ヨリ向四十九ヶ月毎月金貳拾五圓ツツ寄附セシモノニシテ工學部應用化學科學生

ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故理學博士矢田部良吉記念學資金

右ハ故理學博士矢田部良吉記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治三十四年十一月金五百七圓五拾錢ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ植物學ニ關スル圖書購入ニ充ツヘキモノトス

故大島高任記念獎學資金

右ハ故正四位勳三等大島高任記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治三十六年三月整理公債證書額面五千圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部探礦及冶金學科ノ研究費及同學科學生中學力優等品行方正ナル者ノ學資補助ニ充ツヘキモノトス

地理學獎學資金

右明治卅六年十二月一日有志者ヨリ金百七拾五圓ヲ寄附セシモノニシテ最初十年間据置利殖ノ上地理學獎勵ノ費途ニ充ツヘキモノトス
故平野富二記念獎學資金
右ハ故平野富二記念ノ爲メ名村泰藏外一名ヨリ明治三十七年十二月

金參百參拾圓ヲ寄附セシモノ及故平野富二二十五回忌記念ノ爲メ平野津類ヨリ大正五年十二月金千圓ヲ寄附セシモノニシテ獎學ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故辻岡精輔記念獎學資金

右ハ故大阪衛生試驗所長辻岡精輔記念ノ爲メ有志者ニ於テ醜集シ明治三十八年一月海軍及整理公債證書額面六百五拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ醫學部藥學科ニ於ケル學術上參考トナルヘキ新聞雜誌購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故小寺泰次郎記念獎學金

右ハ故小寺泰次郎ノ遺志ニ依リ其嗣子小寺謙吉ヨリ明治三十八年二月國庫債券額面一萬六千五百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ法學部法律學科學生中英吉利法兼修ノ者ニシテ英米法ノ科目ニ於テ優等ノ成績ヲ得タル者同佛蘭西法兼修ノ者ニシテ佛法ノ科目ニ於テ優等ノ成績ヲ得タル者及同獨逸法兼修ノ者ニシテ獨法ノ科目ニ於テ優等ノ成績ヲ得タル者竝同學部政治學科學生及政治學科卒業ノ大學

院學生中歐米ノ經濟及財政ニ關スル優等ノ論文ヲ提出シタル者ノ給與ニ充ツヘキモノトス

故農學士足立美堅記念獎學資金

右ハ故農學士足立美堅記念ノ爲メ其父足立正聲ヨリ明治三十八年四月整理公債證書額面參百五拾圓ヲ寄附セシモノ及有志者ニ於テ醜集シ明治三十九年七月帝國政府五分利公債證書額面千圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ農學部農學科ニ於ケル必要ノ圖書器械等ノ購入費ニ充ツヘキモノトス

阿川重郎獎學貸費金

右ハ阿川重郎ヨリ明治三十八年七月以降毎月金九拾圓ツツ向一ヶ年間ニ金千八拾圓ヲ寄附セシモノニシテ工學部學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故福岡健良記念獎學資金

右ハ故福岡健良ノ遺志ニ依リ其子福岡健三ヨリ明治三十八年八月帝國政府五分利公債證書額面五百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以

テ工學部採鑛及冶金學科及應用化學科獎勵ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故工學士乾立夫記念獎學資金

右ハ故工學士乾立夫記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ明治三十八年十一月金貳百貳拾五圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部應用化學科ニ關スル雜誌購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス
故ドクトル、ダヴィッド、モルレノ記念褒賞資金

右ハ元文部省顧問故米國人ドクトル、ダヴィッド、モルレノ記念ノ爲メ其未亡人ミスセス、ダヴィッド、モルレノヨリ明治三十八年十二月米金千弗（金貳千拾圓五錢）ヲ寄贈シ來レルモノニシテ其利子ヲ以テ數學ニ於テ最高等ノ成績ヲ得タル者ニ、ダヴィッド、モルレノ博士記念數學賞ヲ與フルノ費途ニ充ツヘキモノトス
故醫學士中井元吉記念獎學資金

右ハ故醫學士中井元吉記念ノ爲メ中井常次郎ヨリ明治三十九年二月金五百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ醫學部ニ於ケル病理學

ノ授業及研究ニ要スル物品購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス
故イー、エッチ、ハウス記念獎學資金

右ハ故米國人勳二等イー、エッチ、ハウス記念ノ爲メ舊友門人ニ於テ釀集シ明治三十九年二月帝國政府公債證書額面貳千貳百五拾圓同國庫債券額面七百五拾圓同軍事公債證書額面五百圓計參千五百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ英文學及音學獎勵ノ爲メハウス記念講筵ヲ設ケ内外ノ學者技藝者ニ囑シテ臨時講義ヲ開クノ費途ニ充ツヘキモノトス但音樂演奏ヲ以テ講義ニ換フルモ妨ナキモノトス

故落合直文記念獎學貸費金

右ハ故落合直文記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ明治三十九年八月金七百參拾圓ヲ寄附セシモノニシテ文學部文學科國文學受験學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故工學士曾我俊二郎記念獎學費金

右ハ故工學士曾我俊二郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ明治四十年四月金百九拾五圓五拾錢ヲ本人ノ藏書ト共ニ寄附セシモノニシテ工

學部採鑛及冶金學科ニ必要ナル圖書其他ノ購入費ニ充ツヘキモノトス

故工學士長澤忠記念獎學資金

右ハ故工學士長澤忠記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十年五月軍事公債證書額面參百圓及金拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子及現金ヲ以テ工學部土木工學科ニ關スル外國雜誌若クハ記念品購入費ニ充ツヘキモノトス

故工學士竹前本次郎記念獎學貸費金

右ハ故工學士竹前本次郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十年五月金百參拾圓ヲ寄附セシモノニシテ工學部採鑛及冶金學科學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故工學士小林岩雄記念獎學貸費金

右ハ故工學士小林岩雄記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十年六月金貳百拾圓參拾七錢ヲ寄附セシモノニシテ工學部土木工學科學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

醫學獎學費金

右ハ醫學中央雜誌主幹尼子四郎ヨリ毎年百五拾圓宛論文懸賞費トシテ寄附スルモノニシテ醫術ニ關スル優等論文ノ褒賞費ニ充ツヘキモノトス

理學博士佐々木忠次郎開講記念獎學資金

右ハ東京帝國大學教授理學博士佐々木忠次郎開講二十五年記念ノ爲メ受講者及其他ノ有志者ニ於テ醱集シ明治四十年七月帝國政府五分利公債證書額面千貳百圓ヲ同四十一年三月金參拾圓ヲ寄附セシモノニシテ爾後十年間ハ利子ヲ元金ヲ加ヘテ利殖シ十年以後ヨリ其利子ヲ以テ農學部學生生徒ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

工學博士高松豐吉及工學博士中澤岩太教授在職記念獎學資金

右ハ前東京帝國大學教授工學博士高松豐吉及前東京帝國大學教授工學博士中澤岩太在職記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十年十月整理公債證書額面貳千貳百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部應用化學科ニ必要ナル圖書雜誌ノ購入費ニ充ツヘキモノトス

故伯爵林友幸記念獎學貸費金

右ハ故伯爵林友幸記念ノ爲メ伯爵林博太郎ヨリ明治四十年十二月金五百圓ヲ寄附セシモノニシテ各學部學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故工學博士南清及工學士村上享一記念獎學資金

右ハ鐵道工務所創立者故工學博士南清及故工學士村上享一記念ノ爲メ南榮及村上與一郎ヨリ明治四十年十二月整理公債證書額面一萬圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部土木工學ニ於ケル研究及獎勵ノ費途ニ充ツヘキモノトス

醫學博士宇野朗獎學貸費資金

右ハ私立樂山堂病院創立滿十年記念ノ爲メ其院長東京帝國大學名譽教授醫學博士宇野朗ヨリ明治四十一年三月五分利國庫債券額面千圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ醫學部學生中學力優等者ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

工學博士眞野文二獎學資金

右ハ東京帝國大學教授工學博士眞野文二在職二十五年間ノ功績ヲ表

彰センカ爲メ有志者ニ於テ醜集シ明治四十一年三月及八月ニ特別五分利公債證書額面壹萬六千圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工

學部ニ於ケル機械工學ノ研究及獎勵ノ費途ニ充ツヘキモノトス
故子爵兒玉源太郎記念殖民政策講座設置獎學資金

右ハ故陸軍大將子爵兒玉源太郎記念ノ爲メ男爵後藤新平鈴木岩次郎外六名ヨリ明治四十一年五月金貳萬千圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ法學部ニ殖民政策ノ講座ヲ設置スルノ費途ニ充ツヘキモノトス

故工學士伊藤亮記念獎學資金

右ハ故工學士伊藤亮記念ノ爲メ有志者ニ於テ醜出シ明治四十一年七月五分利公債證書額面貳百五十拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部土木工學科ニ關スル圖書購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

右ハ東京帝國大學名譽教師獨逸人ドクトル、エル、ウキフ、フォン、ベルツヨ

リ明治四十一年九月特別五分利公債證書額面五千圓ヲ寄附セシモノ

ニシテ其利子ヲ以テ三年毎ニ寄附者ノ指示スル内科學ノ範圍ニ屬スル論文ヲ募リ其中ニ就キ優等ナル論文ヲ選ミ該提出者ニ褒資ヲ與フルノ費途ニ充ツヘキモノトス若シ優等ナル者ナキ場合ニ於テハ該利子ヲ元金ニ組入レ若クハ醫學部學生中學方優等ニシテ貧困ナル者ニ學資トシテ之ヲ給與スヘキモノトス

故ウエスト教師記念獎學資金
右ハ故ウエスト教師記念ノ爲メ同氏實妹ダウデン夫人ヨリ明治四十年十二月金壹千磅金九千七百四十六圓拾九錢ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部機械工學科(船用機關學專修ヲ含ム)第二年第三年學生中品行方正學術優等ナル者ニ與フル獎勵金ニ充ツヘキモノトス但賞品ヲ與フル場合ニ於テハ其購入費ニ充ツヘキモノトス

故理學士岩崎壽次郎記念獎學資金
右ハ故理學士岩崎壽次郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十二年三月金貳百拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ理學部化學教室ニ備フヘキ定期刊行物ノ購入費ニ充ツヘキモノトス而シテ尙殘餘

アラハ本資金ニ組入レ若クハ圖書購入費ニ充ツ但當分利子ノ全部ヲ資金ニ組入レ利殖ヲ圖ルコト

故子爵品川彌二郎記念獎學貸費資金
右ハ故子爵品川彌二郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十二年十一月五分利公債證書額面參千五百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ農學部學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

故文學博士外山正一記念獎學資金
右ハ故東京帝國大學名譽教授文學博士外山正一記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十三年七月金四千五百貳拾五圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ獎學ノ費途ニ充ツヘキモノトス

侯爵前田利爲國史學講座設置獎學資金
右ハ侯爵前田利爲ヨリ其邸へ行幸啓ヲ辱フシタル記念トシテ明治四十三年七月金貳萬圓ヲ寄附シタルモノニシテ其利子ヲ以テ國史學講座増設ノ費途ニ充ツヘキモノトス

西川勝藏獎學資金

右ハ正五位勳四等西川勝藏ヨリ明治四十三年七月金千七百圓ヲ寄附
セシモノニシテ其利子ヲ以テ農學部獸醫學科ニ必要ナル圖書器具及
機械類ノ購入費ニ充テ又ハ獸醫學科學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス
故醫學士小川三紀記念獎學資金

右ハ故醫學士小川三紀記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十三年
九月金參百八拾圓ヲ鳥學及比較解剖學獎學資金トシテ寄附セシモノ
ニシテ一定ノ期間据置キ之ヲ利殖セシメ其金額五百圓ニ達スルヲ俟
テ其利子ヲ以テ理學部ニ於ケル鳥學及比較解剖學ニ關スル研究費又
ハ其標本購入費ニ充ツヘキモノトス

子爵濱尾新獎學資金
右ハ子爵濱尾新還曆祝賀記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十三
年十二月金壹萬八千四百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ東京
帝國大學各學部學生中學業優等品行端正ナル者ノ學資ヲ補助シ又優
等卒業生ニシテ大學院ニ入り深ク學術ヲ攻究セント欲スル者ヲ獎勵
スルノ費途ニ充ツヘキモノトス

故工學士山岡茂松記念獎學資金

右ハ故工學士山岡茂松記念ノ爲メ其相續人山岡文ヨリ明治四十三年
十二月金百五拾圓ヲ寄附セシモノ及有志者ニ於テ醱集シ明治四十四
年四月勸業銀行債券額面五百七拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ
以テ火藥學科ニ關スル器械及圖書ノ購入費ニ充ツヘキモノトス

法學博士子爵田尻稻次郎獎學資金

右ハ法學博士子爵田尻稻次郎還曆祝賀記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集
シ明治四十三年十二月金壹萬圓ヲ寄附セシモノニシテ經濟及財政ニ
關スル圖書購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

子爵山尾庸三記念獎學資金

右ハ子爵山尾庸三記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十四年一月
四分利公債證書額面五千壹百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ
工學部ノ學術獎勵ノ費途ニ充ツヘキモノトス

理學博士小藤文次郎獎學資金

右ハ東京帝國大學教授理學博士小藤文次郎在職二十五年記念ノ爲メ

有志者ニ於テ醱集シ明治四十四年六月清國鐵道公債壹千圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ理學部地質學ニ關スル圖書購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故法學士浦太郎記念獎學資金

右ハ故法學士浦太郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十四年七月金五千圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ殖民政策修業ノ優等學生ノ學資補給若クハ殖民政策講座ニ關スル圖書購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

經濟學圖書購入資金

右ハ經濟學演習室設備費ノ一部トシテ有志者代男爵後藤新平ヨリ明治四十四年八月金壹萬圓ヲ寄附セシモノニシテ經濟書殊ニ殖民交通ニ關スル圖書購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故法學博士梅謙次郎記念獎學資金

右ハ故東京帝國大學教授法學博士梅謙次郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十四年十二月金千圓ヲ故博士ノ藏書千百四十冊ト共ニ

寄附セシモノニシテ法學部ノ法律書購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故農學士安藤安記念獎學費金

右ハ故農學士安藤安記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十四年十二月金百圓ヲ寄附セシモノニシテ農學部農學科ニ必要ナル圖書ノ購入費ニ充ツヘキモノトス

故獸醫學士齋藤金平記念獎學資金

右ハ故陸軍二等獸醫正獸醫學士齋藤金平記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十五年四月金貳百圓ヲ寄附セシモノニシテ農學部獸醫學用ノ圖書器械等ノ購入費ニ充ツヘキモノトス

故工學士梶浦重藏記念獎學資金

右ハ故工學士梶浦重藏記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十五年四月金八百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部電氣工學科ニ關スル圖書機械類購入ノ費途ニ充ツルモノトス

故工學士神保三十郎記念獎學資金

右ハ故工學士神保三十郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十五

年五月金貳百五拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部電氣

工學科ニ關スル圖書購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故工學士鶴見宜清記念獎學資金

右ハ故工學士鶴見宜清記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ明治四十五年

五月金百貳拾九圓拾壹錢ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部

土木工學科ニ關スル圖書雜誌購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故理學博士箕作佳吉記念圖書購入資金

右ハ故東京帝國大學教授理學博士箕作佳吉記念ノ爲メ有志者ニ於テ

醱集シ明治四十五年七月金千七百五拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利

子ヲ以テ動物學ニ關スル圖書ヲ購入シ理學部動物學教室ニ於ケル教

授及研究ノ用ニ供スルモノトス

故藥學博士下山順一郎記念獎學資金

右ハ故東京帝國大學教授藥學博士下山順一郎記念ノ爲メ有志者ニ於

テ醱集シ大正元年九月五分利公債證書額面貳千七百圓ヲ寄附セシモ

ノニシテ其利子ヲ以テ醫學部藥學科教室ノ費用ニ充ツヘキモノトス

故法學博士穗積八束記念獎學費金

右ハ故東京帝國大學名譽教授法學博士穗積八束記念ノ爲メ嗣子穗積

重威ヨリ大正元年十二月金貳千五百圓ヲ宿附セシモノニシテ法學部

公法研究室ニ於ケル憲法ニ關スル書籍購入費ニ充ツヘキモノトス

故工學士島竹次郎記念獎學資金

右ハ故工學士島竹次郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ大正元年十二

月金千八拾五圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部土木工學

科ニ於ケル研究及圖書標本購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故工學士堀省吾記念獎學資金

右ハ故工學士堀省吾記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ大正元年十二月

金百參拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部ニ於ケル土木

工學科ニ關スル圖書及雜誌購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故工學士鶴岡留吉記念獎學資金

右ハ故工學士鶴岡留吉記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ大正元年十二

月金百參拾圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部ニ於ケル土

木工學科ニ關スル圖書及雜誌購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス
理學博士藤澤利喜太郎獎學資金

右ハ東京帝國大學教授理學博士藤澤利喜太郎在職二十五年記念獎學資金トシテ有志者ニ於テ醗集シ大正二年二月金參千圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ理學部數學科ノ選定ニ依ル數學科學生若干名ノ給費ニ充ツヘキモノトス尤殘餘アルトキハ之ヲ元金ニ組入ルルモ

男爵鴻池善右衛門獎學費金

右ハ男爵鴻池善右衛門ヨリ國文學上和歌ノ歴史ニ關スル研究獎勵ノ爲メ大正二年六月ヨリ向フ五ケ年間ニ毎年金六百圓宛寄附スルコトナリシモ更ニ同五年六月ヨリ向フ五ケ年間毎年金八百圓宛寄附スルコトトナリ尙ホ同十年六月ヨリ向フ五ケ年間更ニ之ヲ繼續スルモノニシテ即右研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故清水彦五郎記念獎學費金

右ハ故東京帝國大學書記官清水彦五郎記念ノ爲メ其未亡人清水シン

ヨリ大正二年七月金五百圓ヲ寄附セシモノニシテ醫學部ノ費用ニ充ツヘキモノトス

工學士近藤基樹獎學資金

右ハ工學士近藤基樹ヨリ大正二年十月特別五分利公債證書額面五百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部造船學科卒業試驗ニ最優等ノ設計ヲ提出セル學生ニ授與スヘキ賞品又ハ賞牌購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

工學博士中村達太郎獎學資金

右ハ東京帝國大學教授工學博士中村達太郎在職二十五年記念ノ爲メ有志者ニ於テ醗集シ大正二年十一月金貳千圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部建築學科ニ必要ナル費用ニ充ツヘキモノトス

故工學士堤重雄記念獎學資金

右ハ故工學士堤重雄記念ノ爲メ有志者ニ於テ醗集シ大正二年十一月金百貳拾圓ヲ寄附セシモノニシテ十箇年間据置ノ後其利子ヲ以テ工學部電氣工學科ニ關スル圖書購入ノ資途ニ充ツヘキモノトス

故ドクトル、エルウキン、フオン、ベルツ獎學資金

右ハ故東京帝國大學名譽教師ドクトル、エルウキン、フオン、ベルツノ遺言ニ依リ大正二年十一月金壹萬圓ヲ其遺族ヨリ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ醫學部醫學科卒業生中成績優等ニシテ且學資ニ乏シキ者獨國大學又ハ獨國病院ニ留學スル者ノ留學費ニ充ツヘキモノトス但尙ホ剩餘金アルトキ他ノ志望者ニ貸付スルモ妨ナキモノトス

學術講演獎學資金

右ハオイケン博士學術講演ノ費用トシテ大正二年十二月匿名ヲ以テ金參千圓寄附セシモノナリ但同博士ニ於テ支障アリ開講セサルトキハ博士ト盛名ヲ等シクスル他ノ歐米學者ノ講演ノ費用若クハ他ノ適當ナル學術獎勵ノ費途ニ充ツルモ妨ナキモノトス

故工學博士伊東榮三郎記念獎學資金

右ハ故九州帝國大學教授工學博士伊東榮三郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ大正三年二月勸業債券額面金五百八十圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部應用化學科ニ於ケル學術獎勵ノ費途ニ充ツ

ヘキモノトス

文學博士星野恒獎學資金

右ハ東京帝國大學教授文學博士星野恒在職二十五年記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ大正三年四月金五百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ文學部支那哲學科國史學科東洋史學科及支那文學科優等學生ノ賞與金ニ充ツヘキモノトス

理學博士橫山又次郎獎學費金

右ハ東京帝國大學教授理學博士橫山又次郎在職二十五年記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ大正三年十一月金五百圓ヲ寄附セシモノニシテ橫山教授ノ指定ニ依ル理學部地質學教室用圖書器械器具標本等ヲ購入スルノ費途ニ充ツヘキモノトス

故田邊秀雄記念獎學費資金

右ハ故田邊秀雄記念獎學費資金トシテ若干金額(金額未定)ヲ工學博士田邊朔郎ヨリ分納寄附スヘキモノニシテ其利子ヲ以テ工學部建築學科學生等ノ貸費ニ充ツヘキモノトス但大正四年三月ヨリ同七年四

月迄ニ金貳千圓ヲ分納セリ
 故工學博士下瀬雅允記念發明獎學資金
 右ハ故工學博士下瀬雅允記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ大正三年十月
 二月帝國五分利公債證書額面一萬貳千圓及現金七百圓ヲ寄附セシモ
 ノニシテ其利子ヲ以テ工業ニ關スル發明獎勵ノ費途ニ充ツヘキモノ
 トス
 史學地理學攻究獎勵費金
 右ハ文學部史學地理學攻究獎勵ノ爲メ南滿洲鐵道株式會社總裁男爵
 中村雄次郎ヨリ毎年金參千圓宛七ケ年ニ金貳萬壹千圓ヲ寄附スヘキ
 モノニシテ特ニ滿洲ノ地理歴史ニ關スル攻究ノ費ニ充ツヘキモノト
 ス更ニ大正十一年ニ至リ同一ノ目的ヲ以テ同社々長早川千吉郎ヨリ
 大正十二年ヨリ向フ四箇年間毎年金五千圓宛寄附スルコトナル
 故工學博士小林泰藏記念獎學資金
 右ハ故工學博士小林泰藏記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ大正三年十
 二月金七百四十五圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ記念講演開

並催ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故岡野ハル記念獎勵資金

右ハ法學博士岡野敬次郎外二名ヨリ其亡母岡野ハル記念獎學資金ト
 シテ大正四年二月帝國四分利公債證書額面金千圓ヲ寄附セシモノニ
 シテ其利子ヲ以テ法學部學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

產科婦人科學獎學資金

右ハ故醫學博士濱田玄達ノ遺言ニ依リ其遺言執行者尾越辰雄ヨリ大
 正四年四月金五千圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ產科婦人科
 學獎勵ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故清水彦五郎獎學資金

右ハ故東京帝國大學書記官清水彦五郎追弔記念獎學資金トシテ有志
 者ニ於テ釀集シ大正四年四月金參千圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子
 ヲ以テ獎學ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故工學士坪内清六記念獎學資金

右ハ故工學士坪内清六記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ大正四年六月

金千貳拾參圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部ニ於ケル採
鑛冶金學ニ關スル雜誌購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故工學士植木耐太郎記念獎學資金

右ハ故工學士植木耐太郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ大正四年七
月金六百拾九圓六錢ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部電氣
工學研究用ノ機械器具若クハ圖書購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス
故理學博士松井直吉記念獎學資金

右ハ故理學博士松井直吉記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ大正四年七
月金五千九百貳拾壹圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ農學部學
術研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス

精神病學獎學資金

右ハ精神病者慈善救治會々長大隈綾子ヨリ同會寄附ノ精神病科病室
收容學用患者費其他精神病學一般研究ノ費途ニ充ツヘク毎年金千貳
百圓ヲ寄附スルモノトス
故理學博士坪井正五郎記念獎學資金

右ハ故理學博士坪井正五郎記念ノ爲メ有志者ニ於テ釀集シ大正四年
九月五分利公債額面金五百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ坪
井文庫増加ノ爲メ圖書購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

文學博士井上哲次郎獎學資金

右ハ東京帝國大學教授文學博士井上哲次郎在職二十五年記念ノ爲メ
有志者ニ於テ釀集シ大正四年十月金貳千五百拾五圓ヲ寄附セシモノ
ニシテ其利子ヲ以テ文學部哲學研究室備付ノ圖書購入ノ費途ニ充ツ
ヘキモノトス

理學博士松村任三獎學資金

右ハ東京帝國大學教授理學博士松村任三在職二十五年記念ノ爲メ有
志者ニ於テ釀集シ大正四年十一月金六百五拾圓ヲ寄附セシモノニシ
テ其利子ヲ以テ理學部植物學科ニ關スル圖書購入ノ費途ニ充ツヘキ
モノトス

工學博士辰野金吾獎學資金

右ハ東京帝國大學名譽教授工學博士辰野金吾還曆記念ノ爲メ有志者

ニ於テ醜集シ大正四年十一月金貳萬七百五十圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ工學部建築學科學生中學業人格共ニ相當ニシテ學資ニ乏シキモノ及ヒ建築學專攻ノ大學院學生ニシテ同上ノ資格ヲ有シ且ツ研究ニ熱心ナルモノノ學資ヲ補助シ其他建築學獎勵上適當ト認ムル費途ニ充ツヘキモノトス但シ給費ノ額ハ建築學教室ニ於テ必要ト認ムル金額ヲ補給スルコト

文學部國語研究獎學費金

右ハ男爵古河虎之助ヨリ大正四年十二月ヨリ同七年十一月マテ向三ヶ年間ニ毎年金六百六拾圓ツツ寄附スルモノニシテ文學部國語研究室ノ國語ニ關スル研究費ニ充ツヘキモノトス
故名譽教師ドクトル、ケルネル記念獎學資金

右ハ故東京帝國大學名譽教師ドクトル、オスカル、ケルネル記念圖書購入資金トシテ有志者ニ於テ醜集シ大正四年十二月金千參百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ農學部農學科及農藝化學科圖書購入ノ

費途ニ充ツヘキモノトス

故工學博士三好晋六郎記念獎學資金

右ハ故東京帝國大學教授工學博士三好晋六郎在職二十五年記念ノ爲メ有志者ニ於テ醜集シ造船協會ニ於テ保管スル獎學資金利子中ヨリ毎年金百六拾圓宛三ヶ年ニ金四百五十拾圓ヲ同會ヨリ寄附スルモノニシテ工學部造船學科授業並ニ研究上ノ費途ニ充ツヘキモノトス
理學博士男爵菊池大麓獎學資金

右ハ理學博士男爵菊池大麓ノ教育學術界ニ於ケル功績記念ノ爲メ有志者ニ於テ醜集シ大正五年二月金壹萬圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ學術研究獎勵ノ費途ニ充ツヘキモノトス
水力學研究獎學費金

右ハゐのくち式機械事務所長畠山一清ヨリ大正五年二月金五百圓ヲ寄附セシモノニシテ工學部機械工學科ニ於ケル水力學特ニ渦卷ポンプニ關スル實驗研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス
故法學博士岡村輝彥獎學資金

右ハ故法學博士岡村輝彦ノ遺志ニヨリ大正五年三月金壹萬圓ヲ遺族ヨリ寄附セシモノニシテ其利子三分ノ一ヲ元金ニ組入レ三分ノ二ヲ以テ圖書館ニ於ケル圖書購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

理學博士石川千代松獎學資金
右ハ東京帝國大學教授理學博士石川千代松在職二十五年記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ大正五年三月特別五分利公債證書額面金壹千圓ヲ寄附セシモノニシテ十年据置十年以後其利子ヲ以テ農學部學生ノ貸費ニ充ツヘキモノトス

佛教哲學研究獎學資金

右ハ安田善次郎ヨリ大正五年四月金五萬圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ文學部印度哲學殊ニ佛教哲學研究ノ爲メ其講座開設ニ關スル費途ニ充ツヘキモノトス

故法學博士穗積八束記念獎學資金

右ハ故東京帝國大學名譽教授法學博士穗積八束記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ大正五年五月五分利公債額面金壹萬貳千五百圓ヲ寄附セ

シモノニシテ其利子三分ノ一ヲ元金ニ組入レ三分ノ二ヲ以テ法學部ニ於ケル憲法研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス

內科學獎學資金

右ハ理學博士男爵山川健次郎ヨリ大正五年五月金四百五十圓ヲ寄附セシモノニシテ醫學部附屬醫院三浦内科ニ於ケル研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故理學士加藤鐵之助記念獎學資金

右ハ故理學士加藤鐵之助記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ大正五年六月金貳百九拾五圓ヲ寄附セシモノニシテ理學部地質學教室ニ於ケル圖書機械購入ノ費途ニ充ツヘキモノトス

故工學士桂與一記念獎學資金

右ハ故工學士桂與一ノ遺志ニ依リ大正五年八月金五千圓同九年六月更ニ追加トシテ金貳千參百參拾圓參拾八錢ヲ遺族ヨリ寄附セシモノニシテ其利子三分ノ一ヲ元金ニ組入レ三分ノ二ヲ以テ工學部採鑛學科及冶金學科ニ於ケル研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス

齋藤善右衛門獎學費金

右ハ齋藤善右衛門ヨリ大正五年ヨリ毎年金壹千圓宛テヲ寄附スルモノニシテ文學部印度哲學特ニ佛教哲學研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス

理學博士田中館愛橘獎學資金

右ハ東京帝國大學教授理學博士田中館愛橘在職二十五年記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ大正五年十二月四分利公債證書額面金五千百圓及金四拾壹圓ヲ寄附セシモノニシテ大正五年度ニ於テハ其利子ヲ元金ニ加ヘ大正六年度以降ハ元金壹萬圓ニ滿ツル迄ハ毎年百圓元金壹萬圓ニ滿ツルノ後ハ其利子ノ三分ノ一ヲ元金ニ組入レ三分ノ二ヲ以テ理學部物理學研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス
醫科大學藥學科生藥學研究獎學資金
右ハ鹽原又策ヨリ金六千圓ヲ寄附シ大正六、七、八年ノ三年度ニ涉リ毎年四月金貳千圓ヲ分納スルモノニシテ藥學科生藥學研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス

工學博士中島銳治同中山秀三郎獎學資金

右ハ東京帝國大學教授工學博士中島銳治同中山秀三郎在職二十五年記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集セシ金六千參百圓ヲ大正六年五月右兩博士ヨリ寄附セシモノニシテ其利子三分ノ一ヲ元金ニ組入レ三分ノ二ヲ以テ工學部土木工學科ニ於ケル必要ノ費途ニ充ツヘキモノトス
理學部紀要中北支那植物誌出版獎學費金
右ハ南滿洲鐵道株式會社總裁男爵中村雄次郎ヨリ理學部紀要中矢部理學博士著北支那植物誌出版費トシテ大正六年六月金參千六百圓ヲ寄附セシモノナリ

傳染病研究所發疹チフス研究獎學費金

右ハ大正六年八月三菱合資會社業務擔當員男爵岩崎小彌太ヨリ金五千圓三井家總代男爵三井八郎右衛門ヨリ金五千圓ヲ寄附セシモノニシテ傳染病研究所ニ於ケル發疹チフス研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス
醫學部肉腫病研究獎學費金

右ハ白石元治郎ヨリ大正六年七月金壹萬圓ヲ寄附セシモノニシテ醫學部ニ於ケル肉腫病ノ病理及治療法研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス
生物化學講座設置獎學資金

右ハ三共株式會社專務取締役鹽原又策ヨリ大正六年十一月金五萬圓ヲ大正六年度ヨリ毎年金壹萬圓宛分納寄附スルモノニシテ農學部ニ於ケル生物化學講座新設ノ費途ニ充ツヘキモノトス
醫學博士青山胤通獎學資金

醫學博士青山胤通獎學資金

右ハ東京帝國大學教授醫學博士青山胤通在職二十五年記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ大正六年十二月無記名五分利公債證書額面金壹萬圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ醫學部內科學教室ノ實驗費ニ充ツヘキモノトス
理學部植物學科遺傳學講座設置獎學資金
右ハ野村徳七野村實三郎及野村元五郎ヨリ其亡父十三年亡母十七年年回記念トシテ大正六年十二月九州電燈鐵道株式會社々債金五萬圓工及現金壹萬圓ヲ寄附セシモノニシテ該社債ノ利子及現金ヲ以テ理學

部植物學科ニ於テ細胞學ヲ基礎トスル遺傳學講座新設ノ費途ニ充ツ

ヘキモノトス

右ハ米國人エドバルトン、ヘボン米國憲法歴史及外交講座設置獎學資金
憲法歴史及外交ニ關スル講座ヲ新設スル目的ヲ以テ大正六年十二月大日本帝國政府五分利公債證書額面金拾貳萬圓及現金參千圓ヲ寄附セシモノニシテ該公債ノ利子及現金ヲ以テ該講座新設ノ費途ニ充ツヘキモノトス

機械學獎學資金

右ハ工學博士井口在屋ヨリ大正六年十二月金千圓ヲ寄附セシモノニシテ機械學ニ關スル研究ノ費途ニ充ツヘキモノトス

文學博士三上參次獎學資金

右ハ東京帝國大學教授文學博士三上參次在職二十五年記念ノ爲メ有志者ニ於テ醱集シ大正六年十二月金六千七百圓ヲ寄附セシモノニシテ其利子ヲ以テ國史學ノ研究ト大日本史料ノ編纂トニ資スヘキ圖書